

納本

轉回する世界

及川儀右衛門著

302
0.32



0009854000

3

0009854-000

302-032ウ

轉回する世界

及川儀右衛門・著

横山書店

昭和16

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法第67条の規定に基づき、平成12年5月15日付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

296

302

0.32



世

20
界

及

表

書

卷

第



302
0.32



世界

及川儀右衛門著



UC

919
87

序
言

私は『廣域日本史』の研究を目ざす一讀書子である。日本をひろげて世界を見、世界を約して日本を見んとするもので、その歴史の推移した故道につもる木の葉をかきわけて、天照神の御足の跡をたづねようとするものである。しかし讀書子の常として、書を読んで書に泥みとらはれる。論語を読んで論語を知らないのも困るが、孟子を読んで孟軻を生擒することを知らないのは、あながち昔の儒生ばかりではない。『廣域日本史』はこれまでの歴史に劃せられた機械的傳襲的な界線をとりのけると共に、實に日本人として一層正しい日本の姿、國民生活の眞髓をつかまへようとするものである。

本書はさうした私の心持から生れた現代印象記である。嚴密な意味ではまだこれ



を歴史として書き上げることが無理であらう。しかし現實の要請は、さうした學問の傳統的な殻にかくれて逃避することを許さない。思ふに『現代史』の要諦は、五車にも積みきれない史料の吟味をかさねて、限りなく細かな叙述を發展せしめることではなくて、目まぐるしく變轉する身邊の事象、あらはれては隠れ、消えてはまたくすぼる世の種々相に、大きなくぎりをつけて、それに正しい意義を與へて行くことであらう。そしてそれが眞の國民の教養として求められる價值高き歴史的知識でもあらう。『廣域日本史』としての『現代史』を印象記風に扱つた本書が、さうした要求を満足せしめるかどうか、私にはわからない。しかしそんなものを書いて見たいと思つたことだけは確かである。

昭和十六年五月十日

著者

目次

一	ヒットラー政権の出現……………	一
	滿洲につながる世界——ナチス獨裁政治の確立——ザールの復歸 とロカルノ體制の動搖	
二	ドイツの再軍備とその周圍……………	九
	力と正義——ヒットラーの爆彈宣言におのゝく歐洲——イギリス の宥和政策——佛・蘇の人民戦線	
三	イタリー・エチオピア戦争……………	三二
	恵まれざる國イタリー——地中海の誘惑と聯盟の無力——紙上の 軍縮とドイツのライン進駐	
四	米國のニューデール……………	三三
	永久繁榮から恐慌へ——新規時直し——中立法と金の偏在——經	

濟的國家主義

五 ソビエト聯邦の正體……………四

平和と不侵略と——一國社會主義——コミンテルンと人民戦線——血の肅清

六 イギリスの王座顛落……………五

追越される老衰國——保護政策の進展と關稅障壁——區分して支配する

七 日本の自己發見……………六九

英米の日本抑制と國際協調——内部的分裂と頽廢——東洋安定の責任再認識

八 支那事變の本質……………七九

排日支那——列強の支那に對する植民的進出——抗日手形の取立による日本抑制・アジヤ支配の野望

九 獨・伊樞軸の結成……………九一

獨・伊を離間せしむるものと接近せしむるもの——スペイン革命をめぐる國民主義・民主主義・人民戦線——ベルリン・ローマより東京へ

一〇 ドイツ・オーストリア合邦……………一〇五

集團的安全保障制の崩壊と小國の動搖——自立し得ざる埃國

一一 ミュンヘン協定……………一一八

持てるものと持たざるもの——寄合世帯のチェッコスロバキヤ國——「余が鬭争」の回避によるドイツの勝利

一二 チェッコスロバキヤの分解……………一二二

立上り得ぬフランス——異民族を包含せる大ドイツの出現——イタリーのアルバニヤ攻略

一三 イギリスの對獨包圍政策復活……………一四二

ヨーロッパの史的宿命——宥和政策から包圍政策へ——「複雑怪奇」な情勢の東洋への聯關

一四 第二次歐洲大戰の推移……………一五三

ポーランドの戦局——スカンヂナビヤの「損害なき撤退」——フランスに於ける英・佛聯合軍の全敗——フランスの降伏——バルカンの戦雲

一五 大東亞共榮圈の建設……………一六五

長期建設の段階——日・獨・伊三國同盟成立——日本中心自給共榮圈建設の必然——汪精衛の和平救國政府南京遷都——日蘇の提携——世界の轉回、價値の轉換

一 ヒットラー！政權の出現

滿洲の治亂は世界をつなぐる。明治三十八(一九〇五)年三月、世界最鋭を自負したロシア陸軍の奉天附近に於ける敗北は、ヨーロッパに於ける國際的勢力の均衡を破綻せしめ、第一次歐洲大戰の遠因をなしたばかりでなく、日本の發展を阻止せんとする白人の嫉視となつて、北米に於ける排日運動の端緒となつた。昭和六(一九三二)年慘憺たる世界的經濟恐慌の波浪に揉まれながら、また劣勢軍備に釘付するワシントン及びロンドン軍縮體制を忍受しながら、敢然起つて滿洲の暗雲を一掃した日本は、國際聯盟にたてこもり陽に平和の護持を装ひながら、その實世界の現狀を維持してひたすら自國の權益を保持し乃至はその世界的霸權を掌握しつゞけようとする大小の國家群を尻目に、善隣友好・和平建國の熱意に燃える滿洲人をたすけて、翌七年滿洲國獨立の大業を完成した。それはまさに世界史的な國民的偉業であつて、もとより御稜威の然らしめた

いはゞ天意に外ならないが、しかしやがて世界に新しい秩序を開く序幕となつたことは、まことに人智を以てはかるべからざるものが存する。

當時日本の颯爽たる姿を仰望して、ひそかに民族的復興の意氣に燃えつゝあつたものはドイツであつた。第一次歐洲大戰に一敗地に塗れたばかりに、戦争の全責任を轉嫁せられ、領土・資源を分割し、軍備を制限するベルサイユ條約を強制せられ、天文的數字の償金を課せられて、永く民族として國家として重壓の下にあへぎ續けて來た。ストレーゼマンの協調外交は、かゝる體制を一蹶して立ちあがる力を回復し得ないドイツをして、せめて列國と親善關係を結ぶことにより、その對獨重壓を緩めようとしたもので、戦後小黨が分立して混亂を極めたドイツとしては、まことにやむを得ないものがあつたものの、國民が永くかうした状態に満足してはゐなかつた。大正八(一九一九)年僅か五名の同志と共に組織したアドルフ・ヒットラーの國粹社會黨が、その標榜せるベルサイユ條約廢棄の主張の故に、全國民の共鳴を贏ち得て、昭和七(一九三二)

年の總選舉に於て第一黨となり、翌年一月ヒットラーはシライヘル内閣の後をうけて宰相の印綬を帶び、ついで三月再び總選舉を行ひ議會に絶對多數を擁し、やがて立法權を時の執政者に委任することを決議して、ナチス獨裁政治を樹立するに至つたのは、勿論その先容をイタリアのファッショに求め得るとしても、蓋し無力な僞瞞的な國際聯盟を突放して、滿洲にあがつた世界史轉換の日本の雄叫びに、目ざめて起ち上つたドイツ民族の象徴に外ならなかつた。ヒットラーと雖も、所詮はドイツ民族の代辯者で、民族復興の潮流がこの麒麟兒を乗せて渦巻きつゝあるのである。

かくてヒットラーはナチス以外の政黨の解散又は禁止を命じ、労働組合を始め政治、經濟、文化等の諸團體をナチスの支配下に置き、ユダヤ人と共產主義とを彈壓し、國內をナチスの統制下に一元化し、相尅摩擦の根源を斷つて國民の歸嚮を定めると共に、外に對してはベルサイユ條約の廢棄、ドイツ民族居住地域を包括する大ドイツ建設の歩を進めることとなつた。ヒットラーは元來オーストリア生まれで、少年の日建築家

の徒弟となつたりして苦楚を嘗めたものであるが、輝かしい歴史、光榮ある過去を負ふ祖國、郷土の現状をかへりみれば、男子畢生の事業として、ドイツ人のドイツ建設を夢想したことも、まことことわりあることである。彼の興味がオーストリアに惹かれ、オーストリア内部のナチス運動を助長策應して、對獨合併の機運を促進させようとしたことも、自然な道程であつた。そのためには北を守つて南に進出しなければならぬ。昭和九(一九三四年)一月、ドイツ・ポーランド間の不可侵條約成立は、その一つの表はれであつた。

元來ポーランドはドイツの農産地帯を割取して、大戦後に新しく造り上げられた國である。従つてそれまでフランスが常に後見の地位に立ち、背後からドイツを牽制する勢力として利用して來たのであつたが、こゝに於てポーランドはフランスを離れ、ドイツと握手するに至つた。蓋しポーランドはドイツ東部と東プロシヤとを隔離し、ダンチヒ海港へ連絡するため、ドイツ民族を多數に包容するいはゆる廻廊地帯

(Corridor) を保有して居り、この地帯がドイツへ回復せられることを希望してゐるドイツ人の感情を充分に承知してゐるから、むしろドイツの注意を南方に向はしめることにより、徐ろに自國の地位を強化せんとしたもので、こゝに十年間の獨波不可侵條約が成立するに至つたのである。勿論この條約の成立はフランス・蘇聯などに大なる衝撃を與へ、殊にこの年七月オーストリアのウイーンで、ナチス黨のクーデターが行はれ、宰相ドルフスを射殺したのみで事は失敗に終つたが、ついで八月ヒンデンブルグ大統領が逝去し、ヒットラーが宰相兼總統としてドイツの内政・外交上の全權を掌握するに及び、ヨーロッパ諸國はこれに對して深切なる警戒の目をみはるに至り、これまでロカルノ協定等の集團的安全保障の機構をつくり上げては、ドイツをもこれに誘ひ込んで動きがとれないやうに仕向けて來たフランスも、別個の方法でドイツを包圍牽制することを企て、毛蟲のやうに忌み嫌つて來た蘇聯とも手を握り、アフリカの利權を餌にしてイタリヤと接近することにも努力した。昭和十年一月、住民投票に

よる決定的勝利によるとはいへ、國際管理の名によりフランスの勢力下に置かれた石炭産地ザール流域地方が、ドイツに復歸することとなつたのは、何と言つてもナチス外交のさいさきよき出發であつた。けれどもその代價は必ずしも低廉なりとは言へなかつた。

何となればこの年一月佛伊間のローマ協定が成立した。ナチスの巨瀾にゆるがされるオーストリア、それは實にバルカンと共にイタリアの密接な利害を感じる所である。フランスはこの關心を誘ひ、サハラ・ソマリランド等アフリカに於ける權益をイタリアに讓渡して、オーストリア・ハンガリーの現状を維持し、獨伊接近を妨げて地中海に於ける佛伊の協調を策した。また二月には英・佛間のロンドン協定が成立し、ヨーロッパ問題の解決のため、安全保障制度の再建、一般的軍縮條約の締結等によりドイツを羈束し、オーストリアの獨立保全に努力すべきことを約し、ナチス空軍の再建に頭を悩ましてゐたイギリスは、この機を利用して英・獨・佛・伊・白五國間に、共同空

軍協約を結ぶこと等の諒解を獲得した。この頃蘇聯は昭和三年以來産業經濟の躍進的改善を目ざして第一次五年計畫を實行し、四年三箇月を以て昭和七(一九三二)年一まづ打ち切り、第二次五年計畫に移りつゝあつたが、トロツキー・ジノビエフ等の急進派と異なり、漸進主義を採れるスターリンも、ヒットラーの言動が反蘇的、反共產主義的であることに著しく不安を感じ、ドイツを離れてフランスに接近を策した。そして「資本家の聯合」となし或は「國民を賣買する外交取引所」と罵つて來た國際聯盟にも調子を合せて、不戰不侵略、國際平和増進を唱へ、昭和九(一九三四)年つひに聯盟に加入するに至つた。勿論これを誘うたものはフランスで、既に前年蘇聯の空軍をフランス式に整備充實することを援助し、一意ドイツ包圍陣營に引入れようとしたが、日本及びドイツの離脱通告のため、著しく影が薄くなつた國際聯盟の強化をはかり、蘇聯を迎へて聯盟の陣營を固めたのであつた。しかもヒットラーは極右・反共の旗幟が鮮明で、ポーランドと親しみ東方殊にウクライナへの發展をはかるものと推せられ、また昭和

十年三月蘇聯から提議したバルチック沿海諸邦の獨立不可侵條約がドイツから拒絶せらるゝなどの事があつて、蘇聯をしてドイツに對する警戒の眼を一層光らせることとなつた。さきに昭和七年ジュネーブに於て、リトビノフと顏惠慶との間に蘇支國交の回復の交渉が成立し、日本の滿洲に於ける行動に對し、ある種の牽制を試みんとするかの身振りを示した蘇聯が、長い駈引の後昭和十年三月、その國境に夥しい兵力を配備しながら、滿洲國に北滿鐵道を讓渡する條約に調印し、もう東亞の權益には關心をもたないやうな涼しい顔をして、これをめぐる事端の紛更を避けたのは、かうした緊迫したヨーロッパの情勢に善處せんとするためであつた。かくて蘇聯はポーランドに代つてフランスに親しみ、これを通じて國際聯盟や聯盟をあやつるイギリスを利用し、五箇年計畫による資本主義的生産力擴充に利便を得ると共に、國際的にはドイツの復興、日本の發展に對する自國の安全感を確保せんとはかつた。

一方ヒットラーにとつては、條約上の規定と手續とにより、ザールの歸屬を定める

にさへ、曲折と波瀾とを免れなかつたから、オーストリアその他のドイツ民族居住地域を獲得するには、到底尋常一様的手段では不可能に了るべきを思ひ、ます／＼國內の結束を固め、産業經濟の統制や國民的氣魄の昂揚や、物心兩方面から國力の充實をはかると共に、機を見るに敏、事を行ふに果敢、神速にして周到水ももらさぬ布石をうつ天才的な外交振りを發揮することとなつた。即ち昭和十年三月、一方的意志により、ベルサイユ條約の軍事條項を廢棄し、義務的徵兵制度を布き、十二軍團五十萬の陸軍常備兵を整備し、海軍及び空軍も自主的に再建し得べしとのいはゆる爆彈的宣言をなし、世界を驚倒せしめた如きは特筆大書すべき事實で、往昔のビスマルクの鐵血政策宣明にも比すべきものであつた。

二 ドイツの再軍備とその周圍

由來ドイツの復興を極力阻止しようとしたベルサイユ條約は、特にその軍事條項に於て、ドイツの軍備を極端に制限した。即ち廣い地域に亘つて軍事施設禁止地帯を設け、外部からは侵入し易くしてドイツの防備を薄弱ならしめ、徴兵制度をやめて義勇兵制とし、陸海軍とも殆んど警察保安に任ずるに足るだけの兵員や艦艇に縮減せしめ、潜水艦や軍用航空機の保有を禁止するなど、殆んど課し得べき最大限の義務を負はせた。しかもドイツがこれを承認した所以のものは、勿論戰敗國たりしためではあるけれど、しかし同時に戰勝國も亦一般的に軍備の制限縮小を行ふべしとの諒解の下に行はれたものであつた。然るにその後の列強の動向を見るに、國際聯盟の產婆役たりしアメリカ合衆國は、その後國內の政争のためにこれに加盟しなかつたばかりか、ヨーロッパの問題に介入せざる態度をとつて、英・米兩國との連和により自國の安全を保障せんとしたフランスをして甚だしく失望せしめた。聯盟規約により國際軍を組織し、これを國境方面に配備せんとする計畫も實現しなかつた。しかも平和の女神らしい顔

付をしながら、日本の海軍軍備の増大を制し、自國に對英均等の艦艇を保有することを畫策したアメリカ製のワシントン體制、製艦の權利を米國に與へてこれと親善の關係を深め、實質的に世界最優の補助艦艇を保有して世界の海洋を我がもの顔に横行し、日本をして國防上の安全感に脅威をさへ思はしめたイギリス製のロンドン軍縮條約といふものは成立したが、ドイツの海軍が滅亡してしまつた後は、たゞ艦艇保有量を第一流に規定されるといふ面目の問題を除けば、實はフランスにとつては、海軍はどうでもよい問題であつた。それよりも切實な問題は、實にラインをさしはさむ陸軍の問題であり空軍の問題であつた。

さばれ「聯盟國は平和維持の爲めには其の軍備を國の安全及び國際義務を協同動作を以て強制に支障なき最低限度迄縮小する」必要を承認した國際聯盟であるから、大正十五(一九一六)年以來フランスの提議にもとづく軍縮準備委員會が國際聯盟内に設けられ、昭和五(一九一〇)年に至つて漸くその準備事業を終了し、その結果一つの軍縮條約案

をまとめ上げた。そして昭和七年以來これを原則としてワシントン條約やロンドン條約とは別個に、軍備の制限縮小に關する實行方法の研究審議が國際聯盟の本會議にとり上げられたものの、もとよりこれを討議する各國の利害は決して簡單に一致するものではなかつた。かうした形勢をドイツ側から見るときは、北に蘇聯の膨大な赤軍編成が着々進行し、南にフランスのドイツ包圍政策を基調とする軍備が整へられ、二強標準主義を拋棄し對米均等にまで成下つたといへ北海にはイギリスの海軍がある。言はゞ八方塞がりで、如何なる外交政策を進めようにも、自分が丸腰とあつては、群小國に對してさへ睨みが利かない。事實小協商とかロカルノ安全保障體制とかいふ名に於て、みんなフランスにさらはれて行つた。力のみが味方をつくり、力なき限り孤立を免れない。「力は正義」といふドイツ民族の生活信條は、實にかうした生活環境に立つて、切實に思ひかへされた。ドイツの軍備平等權の主張は、かうした生活經驗と信條ともとづくもので、昭和七年國際聯盟主催の一般軍縮會議に於て、フランスが強

硬にベルサイユ條約の再確認を要求するや、ドイツは軍備平等權の問題が解決しない限り、軍備縮小を議するも無用なりとしてこれに對抗し、イギリスが仲に立つて、新軍縮條約が成立すればベルサイユ條約軍事條項はそのうちに包含せられ、自ら解消すべきことを説いてドイツをなだめ、フランスをして列國軍備の平等を承認せしめたけれど、フランスはなほ國際軍備監督制度を定め、事實上制限以上の兵力兵器を保有するドイツの軍備を検査監察せんとする提案をなせるため、翌八年十月ドイツもまた國際聯盟を離脱するに至つた。蓋し日本の離脱に遅るゝこと七箇月、日本の先蹤にならつたもので、國際聯盟はこの年を以て事實上その生命を失つた。昭和十年三月に行はれたヒットラーの再軍備決行の爆彈的宣言は、既にかくして一度聯盟内部で形式的原則的に諒解に達した事項を、具體的事實として表明し實行したまでで、坐して誘ひかけられる相互援助、安全保障の網にとらへられ、目かくしをして檻の中に入れられる事態の起るのを待たずに、あざやかな先手をうつたものであつたが、過去十五年間抑

へ難い大國民の自尊心をきづつけられた汚辱をかなぐり捨てたドイツ民族は、こゝに等しく自らの影をヒットラーの裡に見出し、翕然としてナチスの傘下に集まり、「我が闘争」の片棒かつぐ戰士たることを光榮とするに至つた。

さはれその宣言が爆彈と稱せられただけに、周圍に與へた衝擊は甚だ大なるものがあつた。ヨーロッパ大陸の均勢を念とし、従つてフランスの絶對優勢を抑へてドイツをしてある程度の復興を遂げしめ、これを自國の抱懐する平和機構の埒内に羈束して行かうとするイギリスは、この宣言後旬日を出でずしてサイモン・イーデン等をドイツに派遣し、ドイツの意嚮を打診せしむると共に、蘇聯・ポーランド・チェコスロバキヤ等を歴訪せしめ、ヨーロッパの一般平和確保につき意見を交換した。四月に入り北伊ストレーザで、英・佛・伊の首相及び外相が列席して、ドイツの再軍備に對するフランスの要求に同意し、オーストリアの獨立保障につき再確認をなし、聯盟の機構内に於て集團的平和維持に力め、ヨーロッパの平和を危殆にみちびくやうな一方

的條約廢棄に反對する等意見の一致を見、その結果としてストレーザ會議の直後に開かれたジュネーブの聯盟理事會に於て、フランス提出のドイツ問責決議が成立したが、それはたゞフランスの空虚な凱歌に過ぎずして、實質的にドイツを拘束する何等の力を伴ふものでなかつたばかりか、むしろ却つてドイツをして集團的機構の仲間として復歸することを不可能にし、益々横紙破りの態度に出でしむる源をなした。五月になつて佛・蘇相互援助條約が成立したのは、かうしたドイツの公然たる再軍備をめぐつて、晏如たり得ざりし兩國が、狼狽の餘期せずして歩み寄つた諒解の成果であつた。即ち佛・蘇兩當事國の一方が、第三國から侵略せらるゝ危機に立つ場合互に商議すべく、殊に挑發的行動に出でず又平和的意圖にも拘らず第三國の攻撃をうくる場合には相互に援助すべきを約したもので、ドイツに備へることを直接の目的にしたものであることは言ふまでもない。會てレーニン一派のため大戰では裏切られ、その上帝政時代に應募したロシヤ國債八〇億フランの債權を踏み倒され、赤化宣傳さへ行はれたフ

フランスが、反革命分子を援助しまたイギリスと共同で兵力干渉を試み、ポーランドを支持して大切な赤軍を撃破せられたフランスに對する生々しい記憶を拭ふべくもない蘇聯と、すべてを忘れて手を握つた。背に腹はかへられなかつたのだ。同じ五月蘇聯は更にチェッコスロバキヤとも相互援助條約を結んだが、チェッコは小協商以來ドイツに背を向け、フランス陣營の一味として動いて來た國であつた。蓋し工業の擴充及び農業の社會化を中心とした經濟復興計畫の遂行に熱中する蘇聯としては、殊に國境方面の平和安定を必須の要件とし、貿易の進展や金融の疏通の上から、從來よりも一層資本主義的な諸國に接近するの必要を痛感するに至り、東洋に於て共產主義排撃の急先鋒たる日本が、滿洲から北支へと防共地帯を建設し、日・蘇間の空氣が次第に險惡化しつゝある状態は、蘇聯をして東歐を主とするヨーロッパの和平工作に、積極的に活動せしめたのである。無論滿洲事變後昭和七年以來、不侵略條約を締結せんことを提議して容れられなかつた日本に對して、面當やら牽制やらを策したものであるこ

とも計算に入れねばならなかつた。

かゝる間にイギリスの進退はまことに自由をきはめ、この年六月ドイツと協定して、イギリスの海軍力總計に對する三割五分を超えざる比率内の艦艇を保有することを承認し、該比率を超過せざる限り對英均等の潜水艦を保有することさへも諾して、ドイツ海軍の再建を許すこととした。勿論この獻立は平和主義を標榜した労働黨首マクドナルド首相の方寸に出で、保守黨首ボールドウィン首相に引繼がれて仕上げられたものであるが、イギリスは必要以上の壓迫を加へて、ドイツを怒らせ拗ね者にすることの代償が、頗る高價なものであることをば、第一次歐洲大戰以來しみじみと經驗してゐる。これを小にしては、曾てフランスにより行はれたルール占領の如き、いたづらに獨・佛兩國の間に横はる溝を深くしたばかりで、フランスの威重を加へもしなければ經濟的利益を増進したわけでもなく、結局ヨーロッパ全體の復興を遅延せしめたのであつた。否イギリス自身がヤンキー風情に叩頭して、その世界第一の虚榮的道樂を

満足させねばならなかつたり、從來東洋平和の番犬位に思つて來た日本の發展にさへ驚きの目をみはらねばならなくなつたのも、もともとドイツと角逐して疲勞した結果である。従つてドイツを道伴れとし、ある程度息づくゆとりを與へ、國民的自負心を満足せしめ、なるべく自分と同じコースを進ましめて埒外に逸脱せざらしめ、瘦馬に鞭うつドイツを尻目に、常に勝馬の地位を保持せんとするのが、イギリスのいはゆる寛容宥和政策で、イギリスのかうした政策は第二次歐洲大戰まで繼續せられた。しかしイギリスがホツとする間もなく、ドイツの馬が元氣づいた時は、もうどうにもならずに勝をドイツに譲らねばならなかつた。勿論イギリスの寛容政策に對して、フランスは眞向から反對であつた。對英三割五分のドイツ海軍は、フランス全海軍の七割に當り、更にフランスは地中海に於て自國と均等の海軍を保有せんとするイタリアを控へてゐる。故にフランスやイタリアからは、ワシントン條約の比率、ベルサイユ條約の規定を破壊するが如き重要な問題を、英・獨兩國の直接取引により決定せられたこ

とに不満の意を表明したが、イギリスはドイツの條約破棄の行動を最小限度に制限せんとする努力に外ならざる旨を繰返して釋明し、ストレーザ等に於ける英・佛・伊三國の申合は毫も變更する意なき旨を言明してこれに應酬した。時にフランスに於ては、三月ベルギーの平價切下を機としてまき起された金本位ブロック動搖の卷ぞへを食つて、滔々たる金流出のため孤壘を守る金本位制が漸く危殆に陥り、民心の不安と財界の動搖が甚しく、政府に財政獨裁の權能を賦與する可否をめぐつて、苛烈な政争がくり返され内閣の交迭が相つゞ有様で、政治も經濟も擧げて荒廢に委ねられ、結局フランス貨擁護のデフレーション政策の強化により事態を收拾することゝなつたものの、ドイツの海軍再建問題に對して、何等積極的措置を講ずる餘裕がなく、殆ど泣寝入に終らねばならなかつたことは、やがてつゞく陰鬱な悲劇の不幸な序幕となつたのであつた。蓋しフランスは「歐洲の病人」と稱せられながら、賠償問題その他を通じて常にドイツ壓迫の張本人となり、全世界に及ぶ經濟的並びに財政的災厄を醸したばかりで

なく、間接には國際平和に大なる脅威をもたらすヒットラーの出現に拍車をかけたといふ印象を世界に與へた。勿論それは單にフランスのみの負ふべき過誤でも責任でもないことは、大戰の責任がドイツにのみ稼せらるべきでないのと同斷である。殊に一國社會主義の實現に後退したと稱しながら、生産力の擴充と高度な軍備を整へつゝある蘇聯は、何と言つても隣接諸國に薄氣味悪き存在で、その「總力」を背景としての世界赤化の工作に乗出すべきは、必ずしも神のみが識る問題ではなかつた。果然昭和十年七・八月に互り、七年間の沈黙を破つてモスコウで開かれた第七回コミンテルン大會では、戦争とファシズムに反對し、世界に於ける共產黨、社會黨等プロレタリアを援助して、赤化戦線の統一をはかるべきことを決議し、やがて東亞や西歐方面にこの魔手が伸びることゝなつた。蘇聯を利用して日本を牽制するつもりで、前年十一月これを承認した米國でさへ、狼狽して威嚇的な抗議を蘇聯に提出した位である。殊にフランスでは社會黨と共產黨とが同盟し、反ファシスト活動委員會 (Comite d'union antifasciste)

daction antifasciste) 又の名人民戦線 (Front populaire) を結成し、政黨として活動したばかりでなく、思想上から國際的に蘇聯と呼吸を合せるに至つた。ドイツはかうしてすべてのものに包圍せられて、戦はなければ死滅するより外に途がなかつたのである。イブセンの言ひ草ではないが「一切か然らずんば無」、中庸を行き得ないのがヨーロッパ的性格の特色である。

三 イタリー・エチオピア戦争

明治二十九(一九〇七)年アドワの一戦に敗れ、折角の保護權をまで喪失してしまつたエチオピアに對し、イタリーが再び攻戦の手をさしのばしたのは、昭和十年であつた。事の起りは前年十二月、イタリー領ソマリランドとエチオピアとの境界附近で、兩國軍隊が衝突したことに端を發するが、しかしイタリーをして後顧の憂なくこれを決行

せしめたものは、外ならぬ佛伊協定の成立であつた。元來イタリアは氣候溫和、風光明媚を以て聞えるにも拘らず、鐵なく石炭なく石油なく棉花なく羊毛なく最も資源に恵まれない國で、たゞ輸出するのは夥しい移民位のものであつた。明治三十四(一九〇一)年から大正二(一九一三)年までの年平均が、六二萬六五〇六人をかぞへ、その年額三億乃至四億五千萬リラの送金が、觀光遊覽客の落して行く消費と共に、國際貸借のバランスを保つ重要な要素をなすものであつた。然るに北米及び南米に於ける移民入國の制限や列國の經濟力復興充實のためのブロック經濟、自給經濟アウツルンギへの移行は、移民の稼行や乃至は原料を海外に求めて勞力を賣る對外貿易を漸次困難ならしめた。従つてファシスト政府は關稅障壁を高くして、國內荒蕪地の開發をはかり、小麥その他の食料増産を企て、自動車工業や鐵道建設及び電力開發などを行ひ、いはゆる國內植民により過剩人口の消化につとめたが、何分にも高率な關稅からひいて物價高を招致し、生産費の昂騰から輸出の減退となり、失業者も容易に減少しなかつたから、何とか新しい

手をうつて國民の視聽をひくことが、ムッソリニのやうな獨裁政治家にとり必要なことであるばかりでなく、實に山が多く平野の少い狭い國に齷齪する人々の國民的要求でもあつた。

然るにイタリアのかうした窮況を打開する好機を與へたものは、外ならぬフランスであつた。由來ドイツ敗亡後の佛・伊兩國は、南歐に張合ふ機山であり、不識庵であつた。海軍に於てイタリアが對佛均等を主張したのも、地中海と大西洋とに海岸線をもつフランスに對し、地中海で優勢を保持していつでも鞭聲肅々夜河を渡る態勢を保持せんとしたもので、そのいがみ合ひは歴史的に深いものがある。第一次歐洲大戰後、アドリヤ海湖沼化、アフリカ植民地獲得のイタリアの要望が、敢なく葬り去られたのも、必ずしもウイルソンの拒否のみによるものではなかつた。それが對獨包圍陣の強化を念ずるの餘り、フランスとしてはイタリアに親しまねばならなくなつた。ロカルノ集團安全保障機構の成立について、伊・獨・澳・洪・チェコスロバキヤ・ユーゴ

スラビヤをつらねて同じく相互援助、不侵略を原則とするダニューブ協定を目ろんだフランスが、ナチスのオーストリア進出を憂慮するイタリアと語らひ、アフリカに於ける若干の領土を割譲した上に、東部アフリカに對するイタリアの進出を黙認することとして、これを對獨包圍陣の仲間に引入れた。これまでアフリカ發展に對して、常に邪魔立てして來たフランスが、かくして手を引いたのであるから、さなきだに動く食指を、こゝに意を決してエチオピアに向けることとなつたのである。殊に日本綿布をさへ消費してゐるエチオピア一千万の住民は、イタリア商品の輸出先として甚だ有望であるばかりでなく、象牙あり棉花あり、鐵あり銅あり、農牧の好適地と目せらるる未開の土地は、イタリア移民を移して資源を獲得すべき絶好の國土であつた。

かくて紛争は逸早くエチオピアの手で國際聯盟に提訴せられ、一應理事會にとり上げられたが、ムッソリニは兩國間の仲裁條約にもとづき、兩當事國の直接交渉によるべきを主張し、聯盟の介入を拒絶する強硬な態度をとつたので、イタリアの東阿に對

する増兵を見送つて一時靜觀の態度をとつた。しかしエチオピアからは頻に聯盟の發動を促す提訴をつゞけ、殊にエジプト・スダンに密接な利害關係を有するイギリスは、イタリアの經濟的發展を承認するかはりに、領土的支配權を抑制し、以てスエズ・アデン等を含む Empire root の安全を保持せんとし、伊・エ兩國間の調停を試みたけれど、エチオピアの攻略を目ろむイタリアの容るゝ所とならなかつた。そこで和協調停の問題は本格的に國際聯盟の手に移され、米國またこれに調子を合せて、例の不戰條約を高調する聲明をした。フランスはもと大正十二年エチオピアを誘うて聯盟に參加せしめ、且つ聯盟中心のヨーロッパ制覇を畫策して來たが、伊・エ紛争事件に關する限り、イタリアを支持してエチオピアの提訴取下げにさへ奔走し、従つて問題を處理する國際聯盟も、足並みがそろはなかつた。かゝる間にイタリアは大量の軍需品を輸入し、夥しい金流出のために七月名實共に金本位制を廢止したのを手始めに、財政インフレーションの進展、船舶及び食糧の管理、金の國有、外國證券及び對外債權の

徴發、産業の軍需産業への編制替など、戦時經濟管理を斷行し、十月つひにデッポノの統率する遠征軍を、大舉エチオピアに侵入せしむるに至つた。されば聯盟もはや躊躇することなく、緊急總會を開いてイタリアを規約違反者とし、これに對して金融制裁、經濟制裁、武器輸出禁止等の細目を決定し、いよいよ十一月十八日から實行された。聯盟を引きずつてこゝまで赴かしたの言ふまでもなくイギリスで、一方聯盟を通じてイタリアを壓迫すると共に、他方フランスに對し地中海に於ける英佛海軍協同作戰の問題を提議し、これを手なづけてイタリアを牽制緩和する方策をとつた。この間に立つて進退兩難に陥り苦惱したのはフランスで、イタリアの希望を阻止するときは、これをしてナチスの陣營に投ぜしめる憂があり、さればと言つてイタリア支持一本槍で行くときは、聯盟自身の權威を失墜し、これを支持してフランスに味方する小協商諸國その他の與國を離反せしめ、殊にドイツに對してイタリア以上に頼みをかけてゐるイギリスの協力を失ふことになる。そこでイギリスと協議してエチオピア

の主權を保留し、その領土と特殊權益とをイタリアに讓渡する和協試案を作製し、伊・エ兩國に通達する所があつたが、エチオピアが全面的に拒否するに至り、イタリアは列國の經濟制裁にも屈せず戦線は膠着しつゝも戦闘行爲を繼續し、殊に對伊石油輸出禁止の議が聯盟の問題となるに及んで、ムッソリニは聯盟脱退の意をほのめかし、列國に對して石油禁輸を以て對伊敵對行爲と看做すべき旨通告し、形勢如何によつては空軍決死隊を組織して、地中海上の英艦隊を爆撃すべき旨威嚇したので、石油禁輸の問題は腰が挫け、聯盟の敗色掩ふべくもない情勢となつた。

かゝる間に英京ロンドンに於ては、十二月九日から日・英・米・佛・伊五國の海軍軍縮會議の幕が開けた。蓋しワシントン海軍軍備制限條約は、昭和十一(一九三六)年を以て満期となるから、これが善後策を講ずるためであつた。開會劈頭英國は潜水艦廢止を希望し、米國は二割天引の具體案を提議し、日本は共通最大限設定の切札を出して背水の陣を布き、併せて進攻的武器の縮減を主張し、不脅威不侵略の鐵則を強調した。

されば列國の注意は日本案に向けられ各種の質問が蟻集したが、我が堂々たる不退轉の決意が明瞭となるや、英國は建艦通報案を提議して假面の比率を體よく押付けんとし、日本から休會の提言をしたにも拘らず、これを拒絶したので、越えて昭和十一年一月十五日、日本全權の要求により委員會で日本案の討議が行はれ、列國これに反對の意を表明し本會議に上程せらるゝ望を失つたので、我が國はこゝに海軍縮小會議から脱退することとなり、會議は一月二十日英國皇帝ジョージ五世の崩御、エドワード八世踐祚などの出來事をはさんで、とも角一通りの相談をまとめ、建艦通報案を織込んでイギリスの面目を立てた五編三十二章より成る新海軍條約をつくり上げ、三月二十五日調印式を擧げたが、イタリーが聯盟の制裁を撤回せざるを理由として調印を拒み、質的制限の主要部分が日・伊兩國の参加を條件とする基礎の上に立つものであつたから、實質は互に實行の意志もない希望をば、紙の上書きつらねたものに過ぎなかつた。しかもフランスに於ては、王黨及び極右愛國團體を中心とし、血の洗禮をも

敢てして國家改造、共和國更生に邁進せんとするファッシヨ的反議會的な「火の十字團」と、左翼大同團結の反ファッシヨ的な「人民戰線」との抗争相尅が甚しく、機を見るに敏なるドイツのヒットラー總統は、三月七日特に召集せられた國會に臨み、ロカルノ條約廢棄を宣言し、外相ノイラートをして英・佛・伊・白等にこれを通告せしめ、同時に國防軍の精銳を擧げて、マインツ・コブレンツ・ケルン・フランクフルトなどライン非武装地帯の主要都市に進駐せしめた。勿論これについて激烈な衝動をうけたのはフランスで「ドイツ膺懲」を叫んで國境方面の軍隊を動かしたが、實際は他力本願、列國と協調して危局を處理せんと策し、一方聯盟にドイツの條約無視の不法を提訴すると共に、他方ロカルノ條約調印國たる英・佛・伊・白・伊諸國の會議を開いて善後を策した。しかし聯盟の無力は如何ともする能はず、またドイツ軍進駐に最も脅威を感じる佛・白は、ドイツとの商議に先立ちそのライン進入軍の撤收を先決要件とするといふ強硬方針を主張したに拘らず、イギリスは例の如く和協的でエチオピア問

題につきイタリーと張合つた轍を踏まざらんとし、イタリーは聯盟の制裁決議が撤回せられざることを口實に、極めて冷淡な傍觀者たる態度をとつた。ドイツに見れば英・佛・伊、白・獨の間にラインの國境保障を約束したロカルノ條約が存在しながら、佛蘇相互援助條約を結ぶやうなことは、ロカルノ體制に協力するドイツを裏切る以上にこれを脅威するもので、もはや精神的にも實質的にも死滅したものと認め、ライン進駐と同時に(一)英・伊の保障の下に佛・白・蘭との間に二十五年間西部國境不侵略を約し、(二)英・佛兩國との間に空軍相互援助條約を結び、(三)東部國境線に於てはリスアニヤを加へ隣接諸國と別個の不侵略條約を締結し、(四)これ等案件の成立を俟つて國際聯盟に復歸する用意あることを提言し、英・佛はこれに對してなほ若干の詰問やら押問答やらをかさね、蘇聯は手を廻して佛・獨の衝突を策謀したが、フランスとしてはベルギー以外眞に味方になりさうなものがなく、斷乎たる決心と無謀な措置とは區別すべしといふ軟論が勝を制し、四月中旬國境の安全を保障する

實行案を取極めるといふ觸込みで、英・佛・白三國の參謀本部協議會が開かれたけれど、たゞ物々しい印象を與へたのみで、ライン進駐は既成事實となり、結局フランスの泣寝入に終つた。かくてフラン貨と共にフランスの國力も、漸次低廉に評價されるやうになつた。

かうした情勢は勿論イタリーを刺戟せずにはやまなかつた。久しく沈滞に陥つたエチオピア戰線、經濟制裁に氣勢を殺がれたイタリーの銃後が、三月下旬から漸次活況を呈し、五月二日ソロモンの後裔と自稱した唯一の黑人皇帝ハイレセラッシー一世は、首都防衛を斷念して一族重臣と共に蒙塵の旅路にのぼり、五日エチオピアの首都アヂスアベバ市がイタリー軍の手に歸した。尤もそれは決してエチオピア全土の攻略を意味するものではなくて、イタリー軍はその後も所在ゲリラ戰に苦しめられたけれど、勝誇つたムッソリニは五月九日エチオピアをイタリーに併合する旨を宣し、イタリー國王及びその繼承者はエチオピア皇帝の稱號を取得すべきことを令し、不退轉の決意

を以てこの既成事實を擁護すべき聲明を發した。ともすれば抽象的觀念的な理論に走り、歴史的背景や眼前の現實的利害の認識を缺く國際聯盟が、またまた失敗をくり返し、對伊制裁の跡始末に困り、七月十五日からこれを撤廢することを決したのは、笑へない喜劇であつた。しかもフランスでは人民戦線派が總選舉に勝を占め、六月上旬社會黨のレオン・ブルムを首班とする人民戦線内閣が成立し、思想的にはイタリーと相容れざる對蹠的な存在、平行した軌道を走ることゝなつた。

四 米國のニュー・ディール

ヨーロッパの危局をよそにして、嚴に中立不介入の態度をとつたのはアメリカ合衆國であつた。昭和八(一九三三)年世界恐慌の狂瀾さかまく眞只中に大統領の任についたルーズベルトが、「新規時直し」(New Deal)の遂行に専念し、恐慌の克服と景氣の回復

とに努力して、また他をかへりみる暇がなかつたためであることは言ふまでもないが、同時にヨーロッパが米國の鬼門であり、その紛争に捲込まれることは、結果に於て算盤勘定に合はなかつたためでもある。遅れ馳せながら第一次歐洲大戰に参加した米國は、三百七十萬の大軍を動員してその過半を歐洲に送り、二百七十二億弗の巨資を費して交戦に従事した。無論これを機として自國の資源が開發せられ企業の大合同による工業のすばらしい發展を見、後にフーバー大統領をして永久繁榮(Eternal Prosperity)と空嘯かした土臺ができたのであるけれど、それはまるで自力に歸してしまつて、たゞ歐洲諸國に貸付けた戦債が、ドイツの賠償義務不履行と結びついて、額面通り取立てられないことに對し、金貸根性らしい忌々しさを感じつゞけたのである。だから中立不干渉は米國の外交政策を一貫するものでなしに、それは單にヨーロッパに對するものであり、米大陸には依然モンロー主義を堅持して、舊大陸諸國の進出を拒斥すると共に、南米をも自己の膝下に制を仰がしめんとし、アジア太平洋方面に向つては、

いはゆる門戸開放政策を提げ、時に積極的な實力干渉をも行ひ兼ねまじき氣勢を示してゐる。無論そこには傳統もあれば自國の安全感も織込まれてゐるが、同時に累積する資金の投下、溢れる過剰生産のストックの捌け口などを勘定に入れて、算盤をはじいての相談であることは、やはり争はれない御國柄といふべきである。

由來米國は「弗」の君臨する國である。むしろ無いものをかぞへる方が早いと言はれる資源の豊富な國である。總額四千億弗の國富が、廣大な沃土に住む一億二千萬の人口によつて、自由に開發せられ支配せられ把握せられることを立前としてゐる國である。しかしながら好景氣により米國民の消費が増大し、商品の國內市場が増大したものの、擴大された工業能力は遙かにこれを凌駕するものであり、殊に思惑生産や將來の購買力目當の賦拂制度の發達により、生産増大が一層拍車をかけられたにも拘らず、戦後の疲弊と世界的不況による歐洲市場の購買力涸渇は、南米市場等に於ける蘇聯のダンピングの脅威も加はり、さすがの米國にも生産過剰の現象を生ぜしめ、農産

物の低落から農村に始まつた不景氣が、商事會社から事業會社、取引所から銀行へと軒並みに延焼し、昭和四年から八年にかけ物價指數は九五から六五に下落し（大正十二年乃至十五年平均を一〇〇とす）、特に農産物價は一〇五から四八となり、生産指數は一一九から六四に半減し、従つてアメリカ有業者四千二百萬人の三分の一強に當る一千五百萬人の失業者を出すに至り、外に於ては日本いぢめのジュネーブの國際聯盟と呼應し、國務卿スチムソンが滿洲國不承認主義を列國に通告するなどの強がりと言つて見たが、内はいはゆる火の車で、我が國が國際聯盟を離脱した昭和八年三月には、ニューヨーク及びシカゴ兩市の全銀行が一齊休業を行ひ、それが全米國に波及して各種取引所も休み、外國爲替取引も中止せられるといふ、殆ど前例なき恐慌の大嵐となつた。

かゝる經濟恐慌を克服するためにルーズベルト大統領の採用した方策がいはゆる「新規時直し」であつて、その金融部門に於ては統制インフレーションにより、貨幣價

値を引下げて物價吊上をはかつた。即ち就任早々四月金本位制を停止し、公私全般に互る債務關係に於て所謂金貨拂約款を廢止し、市價よりも高い價格で銀の買上を行ひ、これを正貨準備に加へて紙幣を増發し、昭和九年一月弗の平價切下を斷行し、その金純分は四〇・九四%方切下げられて、これにより生ずる利益は爲替安定や財政赤字の補填に振向けることとした。しかし何と言つても「新規時直し」の中心をなしたものは、^{N. I. R. A.}産業復興法 (National Industrial Recovery Act) ^{A. A. A.}農業調整法 (Agricultural Adjustment Act) とである。産業復興法は産業の國家統制の立場から、獨占その他の方法により消費者の利益を害せざる限り、不正競争を排除し産業部門間の協調と産業の組織化とにより價格並びに生産の統制を行ひ、かゝる産業のカルテル化と並んで團結權、團體交渉權の確立による労働者の組織化、高賃銀短時間労働を保障して労働條件の向上をはかり、從來の産業機構を矛盾なき新組織に改編すると共に、大衆の労働を吸収して失業を救済し、賃銀増加による購買力の増進に刺戟せられて生産を動か

し、よつて以て景氣の回復に努めようとしたもので、從來資本主義工業が恐慌裡にあつて、賃銀値下—産業合理化—失業増加—購買力減退—生産制限と、益々恐慌を深刻化する一聯の過程の矛盾を認識し、その逆を行かんとしたものである。また農業調整法は、棉花・小麥・煙草など基本農産物を指定して價格を一定の基準にまで引上げ、その生産を制限して減産者には補償金を交附することとし、基本農産物に對する加工製造業者から加工税を徵收してその財源に充てるもので、農産物の供給過剰を除き、農村の購買力を培養することを目的とした。なほ公共事業や各種民業への融資、それから軍備充實すらも、景氣回復をめざして行はれ、毎年四、五十億ドルの歳入不足を國債で填補しながら、莫大な財政支出をなすつゝ一意物價の釣上げと購買力増進に大童となり、これがために起る生産のコスト高に對しては、ドル貨の操作による低爲替政策と互惠關稅の制定を以て貿易の振興をはかつた。かくて實施二年にして失業數が依然一千萬人をかぞへる外は、生産活動が向上し景氣がある程度好況を示し、人氣

的にも實際的にも經濟界立直りの傾向があらはれた。尤もこれがために赤字公債は年増加し、殊に個人の自由を中心とする經濟組織から、相互援助による社會中心の統制經濟へ移行するものであるだけに、口を開けば「統制されたる國家」「均衡を得たる社會的國家」の實現を説くルーズベルトを目して、レーニンのため道を開いたケレンスキーに當るものとの評もあり、必ずしも米國民から全幅的支持をうけたわけではないが、昭和十年五月、産業復興法の效力延長につき論議が交はされつゝある時、大審院がこれを憲法違反なりと判決を下したので、更めて著しく右に傾いた「新秩序」(New Order)を提唱し、同法に修正を加へて實施期間を延長したけれど、實質的には骨抜同様となつた。しかし財政に依存し、統制インフレーションによる景氣回復工作は、もはや米國だけのことではなく、言はゞ現下の世界に共通する經濟現象である。米國と雖もかうした計畫的な經濟を離れては、「弗」の權威を維持することができない。共和黨が憲法違反行爲、大統領獨裁、人民の自由及び企業の壓迫、國費の濫費等を以

て攻め道具となし、大統領選舉戦を争つたに拘らず、昭和十一年秋ルーズベルトの再選が決したのも、やはりその御國柄を示すものと言ふべきであらう。

かうした米國が、ヨーロッパの問題に介入する餘裕もなければ、興味もなかつたこととは言ふまでもない。ドイツの相つぐ爆彈宣言、伊・エ紛争、どの一つをとつても、まかり間違へば世界的鐵血の大争鬭に發展する可能性があるものである。そこでかねて研究中であつた中立を維持して國家間の武力的衝突を少からしめる方法として、昭和十(一九三五)年八月、中立に關する米國國會の決議となつた。これ即ちいはゆる中立法の濫觴をなすもので、外國の間に戦争が発生し又は進行中であるときは、大統領はその事實を布告すべきであり、その後には合衆國から直接交戦國に、また交戦國に送付される目的で中立國に、兵器彈藥戰爭用具などを輸出することを禁止し、大統領は輸出禁止の品目を列擧して明示すべく、また必要に應じ米國民が交戦國船舶に旅客として乗船することを禁止し得ることを定めたものである。そしてこの中立法は、十

月五日伊・エ戦争に適用せられることとなり、ルーズベルト大統領は布告を發して兩國に對し兵器・彈藥・戦争要具の輸出を禁止、また米國市民が交戰國の船舶によつて旅行をするときは全く自己の責任に於てなすべく、政府の保護を與へないことを明かにした。該中立法は翌十一年二月修正を加へられ、更にこれを擴張して米國內に於て交戰國の公債その他の有價證券の賣買を禁止、交戰國の公債の募集に應じたり交戰國民に信用を與へることを禁止し、戦争がアメリカ諸國と非アメリカ諸國との間に行はれる場合には、中立法はアメリカ諸國には適用しないこと等を追加した。かゝる中立法は米國だけに限つたことであるけれど、しかし腹を割つて見れば、どの國もひとしく經濟危機の重壓下に喘ぎつゞけてゐたのであるから、損益計算を度外視してかゝらねばならぬ戦争を避けたかつた。戦後のヨーロッパはその國力復興のために莫大な資金を必要とし、これを英・佛・米などに求めた。そして投資の先決要件として、貨幣制度の安定のために金本位制に復歸したが、従來の大戦にもとづく莫大な非生産的債

務に加ふるに、新なこの種の債務を辨濟するため、貿易外の支拂を決済して國際收支の均衡を保ち、樹立せられた金本位制を維持するためには、一方ひきつゞき資金の借入をなすと共に、債權國に對して物資の輸出が許されねばならなかつた。然るに米・佛等の債權國は關稅障壁を高くして債務國の製品を購買しないばかりでなく、財政緊縮やデフレーションによる低物價政策、生産費の低減による自國商品の競争力の増大など、いはゆる産業合理化による底知れぬ世界的低物價を出現し、債務者の負擔を加重したばかりでなく、ブロック經濟、自給經濟なども考へられ、貿易振興も互に相殺し合ひ、やむなく對外支拂は金塊或は金爲替を以てせざるべからざるに至り、その結果米・佛への金の偏在となり、金準備の激減と金本位制の崩壊とが世界的となつた。昭和六(一九三二)年九月イギリスが金本位制を離脱したのを手始めに、十二月日本もこれにならひ、爾來圓價の低落による日本製品の世界市場席捲が世の視聽を聳動せしめた。かくて昭和八年三月米國を殿に列國相ついで金本位制を停止する間に、ひとりフラン

スはイタリー・オーストリア・オランダ・ベルギー・スイス・ポーランド等をつらねて金本位の孤壘を守つたが、會て甚しいフランスの動搖を切抜けるため、ポアンカレの舉國一致内閣が平價八割の切下をした後であるだけに、フランスの特色である貯蓄投資階級を犠牲にすることを恐れて再切下を避け、無理なデフレーションへと突進して、フラン價を擁護したために、割高なフラン貨に邪魔されて輸出の不振、生産の減退、失業の増加となり、勞資の全面的衝突となり、昭和十一年五月巴里郊外の重工業中心に勃發した同盟罷業が、全國に波及する大規模のものとなつて、ドイツのロカルノ條約破棄、ライン進軍にも、腹一ぱいの應對が不可能であつた。そしてかゝる間に行はれた總選舉に於ては、人民戰線派の大勝に歸し、六月社會黨首ブルムが内閣を組織して、その調停で大罷業が終熄するに至り、従つてその財政經濟政策も轉換の必要に直面することゝなつた。しかもこの金本位プロックに於ても、前年三月ベルギーが金本位制を脱し、ついで七月イタリーが金本位の實を失ひ、翌十一年九月フランス・オ

ランダ、十月スイスと相ついで金本位制を停止し、殊にフランスのブルム内閣は、フランスの金純分を品位千分の九百に於て四三乃至四九ミリグラムの間に切下げ、デフレーション時代に行はれた減俸の復活、賃銀引上などを中心とする社會及び勞働立法、失業救済のための公共事業經營、各種産業の補助助成と低利資金融通、軍需工業・石炭業・農業など重要産業統制、フランス銀行の改組など、殆ど米國の「新規時直し」^{ニューディール}まかひな統制經濟、淮戰時態勢への經濟に移行し、従つてこゝでも財政依存のインフレーションが出現することゝなつた。

要するにかうした世界經濟の解體は、好むと好まざるとに拘らず經濟的國家主義乃至封鎖主義的自給經濟を展開せしめる。これがために對内的には資源や生産・消費に對する經濟統制が一層強化せられ、對外的には經濟的に密接な關係を有する數箇國の結合により、經濟ブロック、共榮圈の結成をはかり、以て解體した世界經濟の缺を補つて行く外に途がない。中立不介入を標榜して、その孤立感情を表現するのは、米

國の如き「持てる國」にのみ許される象徴であり、多くの場合古きすべての破壊を招致する戦争を厭ひ、平和を愛好する心情は、フランスのやうな「現情維持國」に共通するものである。マルクスを極力排斥するヒットラーではあるが、ドイツのやうな「持たざる國」が、戦ふことによつて失ふものは、たゞ自己を縛る鐵鎖のみであることを熟知してゐる。そして孤立をつゞける米國は、いつの間にか世界制覇を目ざす經濟帝國となり、装ひいかめしい軍國主義の大本山に激變し飛躍する羽ばたきをなしつつある。フランスが幻の平和を描いて、坐して食へば寶の山も空しいことに氣づく時、忍び足で近づいてゐた。

五 ソビエト聯邦の正體

同じ經濟建設のために「平和」と「不侵略」とを外交の基調として一貫して來たも

のに蘇聯がある。大戦の痛手、革命の犠牲、相つぐ内亂の重荷、それに劣らぬ飢饉さへも見舞つて、徹底的に荒廢しきつた國內經濟を立直し、資本主義諸國に追いつき、更にこれを追ひ越す躍進を目ざして、昭和三(一九二八)年以來一國社會主義の建設、三次に互る五箇年計畫となつたのである。國家の生産力と國民の勞働力とを擧げて、綜合的計畫による經濟の社會主義化が、なりふりは一切構はず命をつなぐだけの食物を與へて、働かざるものは食ふべからずと勤勞動員を行ひ、少からず無理強ひに遂行せられた點もあり、宣傳せられた程成功したものではなくて豫定と実績には相當なへだたりがあり、殊に工業化に進むために所要な機械を手に入れる必要から、小麥・木材・石油などの強制輸出を行ひ、列國から「狼が來た」と恐れられるやうなダンピングはやりつゝも思つた程生産費も低下せず、國民生活も甚しく向上しなかつたため、トロツキーの如きは「輕率な冒險的行爲」とさへ批評した。しかし昭和三(一九二八)年から始められた第一次五箇年計畫に於て五百億ルーブル、第二次五箇年計畫に於ては一千三

百三十四億ルーブルの投資をなした結果、第二次五箇年計畫最終年度昭和十二(一九三七)年の農業生産高を百三十一億ルーブルから二百六十二億ルーブルに、また工業生産高を四百三十三億ルーブルから九百二十七億ルーブルに増加せしめる豫定が、多少の齟齬はあつたにしても、金融や貿易などを始め國際環境も圓滑ではなかつたし、國家計畫委員會の組織の缺陷や管理の拙劣などがそれを割引したといふことはあるが、大局に於て農業生産が著しく増大したばかりでなく、農業國から工業國へと轉換し、輕工業が充實した上に、軍需工業の基礎をなす重工業のすばらしい發展を見た。特に共營共働のうちに必要な技術の體得、生産能率の増進などに相當な成功を博し、鑛業・工業はもとより最も困難とされた農業及び商業についても、個人主義的乃至は資本主義的經營を社會化し、諸企業の國有・國營化の徹底をはかり、第一次五ヶ年計畫に入つた昭和四(一九三九)年に國民所得全體のうち社會化部分の占める割合は五六%に過ぎなかつたが、第二次五年計畫を終つた昭和十三(一九三八年)にはそれが九九・九%に昇まつて、

有史以來いづれの國家にもなかつた戰爭に都合のよい體制が成立し、政治、經濟、社會組織、思想などのすべての霸權が、着々ソビエト政府の掌裡に歸して行つた。かかる政策の遂行のために、外に對して求めたものは「平和」であり、「不侵略」であつた。勿論それは「侵略」を基調とする大戰の途上に力盡きて、聯合與國を裏切り單獨に「平和」を求め、國際間の信用を失つて獨りポッチとなり、世界の嫌はれ者として袋叩きにさへ遭遇した苦しみを嘗めて來た過去がある。従つて蘇聯が「平和」を「不侵略」に結合させることは、歴史的意味もないではないけれど、同時にかうした新國家建設の途上にあつて、資本主義國家との戰爭が何を意味するかを、蘇聯の指導者スターリンはよく諒知してゐる。昔の王國と王國との戰、或は資本主義國家群相互の角逐は、その勝敗が若干の戰費賠償や領土割讓で梟がつく。しかし資本主義體制とソビエトとの決戰は、より以上のものが附加する。「全體か無か」(All or nothing)の、その一つに外ならない。ソビエトの敗北は、もはやソビエトの消滅を意味する。そこにイ

デオロギーと實踐とのへだたり、岐れ目を生ずる界線が横はつてゐる。元來一つの國家としての蘇聯は、國土・資源・人口などが英米にも比すべき自給可能の國である。然るに従來封建的經濟の遺習が久しく存して、その資本主義的經營、産業革命への轉換が甚しく後れたために、實の持腐りと後進國たる運命とを免れなかつた。ソビエトの經濟的側面は、かうした資源開發、産業開拓の運動であつて、五箇年計畫はそれを促進する拍車であるとも見られる。一國社會主義建設はかゝる基礎の上に樹立せられた。勿論その底流としては、依然これによつて世界労働大衆の注意と意欲とを蘇聯に集注せしめ、その環視の中に經濟的建設を成しとげ、國力も充實し殊に國民の生活水準をば不況に喘ぐ高度資本主義諸國よりも高からしめ、民衆の福利が社會主義的建設によつてよりよく増進せられることを目のあたり見させて、各國労働者に深甚な影響を與へようとの腹もあつたし、かくして擴大された生産力を基礎にして、軍事的にも優に世界に物言ふだけの力を培養しようとの企てを包藏したものであることは疑ふべ

くもない。故にトロツキーの世界即時赤化のイデオロギーを變更し、將來に於て世界を赤化する地盤、換言すれば世界赤化の祖國を建設するための一國社會主義であつて、その外交政策を「平和」と「不侵略」とに穩和化し、自國の安全第一主義なる外交の常道を踐むに至つたとはいふものの、しかし武力戦争によらず平和のうちに經濟建設を進め、資本主義諸國を尻目にさきにゴールインをしようといふので、形は持てる國の現状維持政策に似てゐるけれど、しかしどの道世界赤化へと進みつゝあることは別段變らなかつた。

けれども「破壊のロシヤ」から「建設のロシヤ」へといふ印象が、一般世界情勢の激變と相俟つて、憎まれ者だつた蘇聯をして再び國際的明るみへ顔出しを許すやうになつた。蘇聯はまたかうした機會を利用して、世界平和のために如何なる努力をも吝むものではないやうな顔をして見せた。そして西に調整して東に整備し、また東を牽制して西に刺殺の機をねらふ得意のダブルプレーが始まつた。昭和七(一九三二)年二月、

ジュネーブで開かれた國際聯盟主催一般軍縮會議に列席した蘇聯代表は、列國が國際軍の編成や軍備の質的或は量的制限を論議する間に、涼しい顔で大上段から軍備全廢論を主張し、また他國に對し先づ宣戰を布告し、宣戰の布告なくして他國の領土を侵略し、他國の領土に對し攻撃を加へる國を侵略國と定義すべきことを提言した。殊に滿洲事變勃發以來、東方に於て少からざる脅威を感じただけに、何と言つても西方の和平を保持しなければならぬ。そこで從來リスアニア(大正十五年九月成立)、アフガニスタン(昭和六年六月成立)との間に締結してゐた不侵略條約をば、この年になつてフィンランド・ラトビア・エストニア・ポーランド・フランスなどゝの間にも成立せしめた。そして昭和四(一九一九)年東支鐵道をめぐる紛争から蘇聯と國交斷絶のまゝになつてゐた支那が、蘇聯を利用し日本を牽制するために不侵略條約締結を條件として國交回復の手をさしのべるや、日支紛争問題の處理に懊惱しつゝあつた國際聯盟の御膝元ジュネーブで、昭和七年十二月、蘇支國交回復の取引成立を發表し、列強の耳目を驚

かした。ついで昭和八年、ヒットラーがドイツを負ふて獨裁權を握り、反ボルシェビズムの旗幟あざやかに、まさに雨を呼ばんとして風樓に滿つる氣勢を示すや、蘇聯はもはや晏如たり得なくなつた。米國大統領ルーズベルトの就任を待つて、世界恐慌打開のために六月ロンドンで開かれた世界經濟會議は、參加國六十六をかぞへる大がかりなもので、蘇聯もこれに列席して「關稅休日案」を提議し、恐慌の克服のためには活路を外國市場の擴大に求める資本主義諸國間の戦争の危険、その自國への波及を抑制せんとする豫防線を張つたが、會議は全體として何等見るべき成果を收めないで決裂に終つたけれど、蘇聯のみはロンドンでアフガニスタン・エストニア・ラトビア・イラン・ポーランド・ルーマニア及びトルコをつらねて八箇國の間に侵略の定義に關する條約を結び(後にフィンランドこれに加盟)、また別にチェコスロバキヤ・ユーゴスラビヤ・ルーマニア・トルコを誘うて五箇國間に同じ條約を成立せしめた。ついで九月イタリーと不侵略條約を結び、また生産過剰になやむ米國が、製品のはけ口と

して、また西太平洋に於ける日本の興隆に對する利害共通者牽制者として誘ひの水を向けると、十一月これと國交を回復し、昭和九年にはフランス・イギリスと通商條約を結び、また日・獨兩國の脱退で孤影悄然となつた國際聯盟から誘はれて、あつばれその立役者となり、會てブルジョアの集團と毒ついた口を拭うて、専ら世界政治にうごめく好戰的排外的氣風を去勢し、平和的空氣の組織化と擴大とに努力した。幾多の迂餘曲折があつたにしても、昭和十(一九三三)年正月、多年赤字を出したり戦争に訴へたりしてまで經營しつゞけて來た北滿(東支)鐵道を、擧げて滿洲國に讓渡を諾したのも、かうした關係から理解さるべき事實であつた。

然るに昭和十年になると、蘇聯のかうした緩和政策も、著しく脅威をうけることゝなつた。三月ヒットラーはザール地方接收についてベルサイユ條約軍事條項廢止を宣言して公然武裝を行ひ、四月ダンチヒ議會選舉ではナチスが大勝した。東境では滿洲帝國の生立ちが極めて順調で、これを國境方面から絶えず脅かす蘇・支兩國の牽制も

殆ど何等の效果を示さなかつたばかりか、排日・反滿・親日支那人の彈壓及び暗殺など蔣介石政府の勢力下にある抗日分子の度を越えた潜行的活動から、五月いはゆる北支事件をひき起して日本の怒を買ひ、六月その要求を容れて中央の勢力が河北・察哈爾兩省から撤退しこゝに自治地帯を設定すべき日・支間の協定が成立した。これを蘇聯に見れば、ダンチヒの問題にせよ北支の形勢にせよ、まさに眉を焦さんとする近火である。しかも戦はイタリーとエチオピアとの間に進行中で、何となく險惡な雲行が世界を掩うてゐる。同じくこれを憂慮するフランスやチェコスロバキヤと語らひ、五月蘇聯が相互援助條約を結んだのもこれに備へたものであり、七月米國と通商條約を成立せしめたのもこれに關聯をもつ。殊に七年に互る休會の後久しぶりでのこの年七・八月に互り開かれた第七回コミンテルン大會に於ては、ドイツ及び日本を目して戦争を挑發し蘇聯に對する反革命戦争の準備をなすものと稱し、平和主義團體を誘ひ反帝國主義並びに反ファッシヨ運動を援助擴大して、廣汎な統一人民戰線を結成す

べきことを決議した。かくて八月その指令をうけて支那に於ては中國共產黨の「抗日救國宣言」が發せられ、西歐ではスペインやフランスの人民戦線派が次第に勢を加へた。そして十二月國民政府は蔣介石が行政院長となり、張群(外交)・何應欽(軍政)・孔祥熙(財政)などその一味を以て陣容を整備し、日支關係を全面的に調整し、殊に北支に冀察政務委員會を置いて高度自治を承認し、日本と共同して防共を實行し、滿洲國境には支那から獨立した冀東防共自治政府も樹立せられたが、蘇聯はこの頃外蒙古と結んで滿洲及び蒙疆を制せんとする策を進め、越えて昭和十一年三月、ドイツがロカルノ條約を廢棄して國防軍をライシに進駐せしむるや、四月かねて赤軍をも駐屯せしめて勢力を布いて來た外蒙古政府との同盟條約を公表し、軍事的攻撃が加へられた場合には相互に一切の援助をなすことを約したことを明かにして、スターリンは外蒙古の獨立破壊を阻止するに必要なならば、日本と一戦するの用意ありとさへ聲言、二・二六事件以後とかく内部の調整がしつくりしなかつた日本を威嚇し、また新疆赤化に

積極的な歩を進めた。しかも西方では五月に終つたフランスの總選舉に於て人民戦線派が大勝し、ついで社會黨首ブルムを首班とする人民戦線内閣が成り、昭和六年共和國成立以來左右の抗爭で騷擾から叛亂への連続であつたスペインも、この年二月の總選舉に於て人民戦線派が壓倒的勝利を占め、アザニヤを戴いて人民戦線政權が天下をとつた。蘇聯の得意な舞台が廻つて來さうに見えながら、六月ダンチヒにはナチスの獨立運動がくすぶり出して聯盟の關與する所となり、七月イタリーの首相ムッソリニの仲介によりドイツはオーストリアと協定を結び、そのドイツ民族國家たるにふさはしき行動をなすべきことを約したオーストリアに對し、領土の保全と内政の不干渉とを約し、獨逸合邦への扉を開き、スペインではモロッコから革命の旋風が起つて本土に及び、フランコ一派のファッシ黨が人民戦線政府に迫つた。そこで蘇聯は一方内部に於ける左翼反幹部派大同團結の領袖ジノビエフ・カーメネフなど、スターリンにとつてはまさに加藤・福島の外様格に當る反對者をば、如何にもこれをナチスに關

係あるものゝ如く取扱ひ、一舉銃殺の刑に處していはゆる「血の肅清」を始め、スターリン獨裁の安定確立をはかり、ノルウェーに亡命したその頭首トロツキーの國外追放をさへ要求する執拗さを示したが、ドイツは勇敢に赤への宣戦を高唱し、ボルシェビズムの魔手は歐洲を没落にみちびくものとして、英・佛がこれと接近するのを力めて引離さうとした。かくて勢の赴く所八月から蘇聯は公然スペインの人民戦線政府を援け、フランス亦これに同情し、獨・伊は右翼の革命軍の後押しをなし、左右對立のスペインの嵐がやがて全歐に擴大する懸念が濃厚になつたから、九月ロンドンでスペイン不干渉委員會が開かれ、二十八國の評議さへ行はれた。けれども急テンポな國際情勢の變化は、自然ナチスドイツとファッショイタリーの接近を將來し、殊に十一月には日本とドイツとの間に、共產インターナショナルの活動に關する情報の交換、その防衛措置に關する協力を約した防共協定が成立し、ドイツはまたベルサイユ條約の國際河川條項廢棄を宣明した。蓋し日本としては、西に調制しつゝ東に整備する蘇聯、

昭和七年まで東亞に對する投資額が年二億ルーブルに過ぎなかつたのが同九年には一躍十八億ルーブルに増加し、鐵道・鑛山などの建設開發を進め、二十五萬の軍隊を配備し、飛行機・戰車・装甲自動車の多數を保有し、トーチカ陣を築き、殊に昭和十一年六月にはイギリスと協定して東洋艦隊建設の自由を認めしめ、浦鹽斯德に潜水艦を遊戈させ、外蒙古・新疆を勢力下に收め、中國共產黨をそゝのかして抗日戦線に踊らしめるので、共產主義の弊とユダヤ禍とを説くドイツと提携し、これが防衛を策したのであるが、この年十二月西安事件が勃發して蔣介石が聯蘇容共の囚虜となり、やがて中國共產黨と手をとつて一層大仕掛な抗日の舉に出づるに至つて、世局は頗る複雑となつた。なるほど蘇聯は自ら戦はないから、その意味で「平和」であり、「不侵略」であらう。しかしレーニン治下のやうな世界革命への指喉といふ大袈裟なものではないにしても、少くも外國の人民戦線に同情し、それと對立する資本主義國、帝國主義を打倒排斥せんとする本質的イデオロギーにはたいした變化がない。列國の共同戦線

に對して自ら孤立する危険があれば、それを一時は緩和もしようが、味方さへあれば資本主義國の肩をも持ち、これと敵對する資本主義國同志を争はせ、共に疲れさせるやうな離れ業さへやりかねないのだ。

六 イギリスの王座顛落

「太陽の没することなき國」と豪語して、世界を支配すると共に十九世紀を征服したイギリスにも、めぐり来る老衰の運命を免れることができなかった。本來イギリスの膨脹と繁榮とは、その物質的基礎が石炭と蒸氣の力とにある。イギリスはこれによつて産業革命を遂行し、他國の手工業を尻目に機械力により低廉な生産費を以て卓越した工業生産に成功し、鐵工業・造船業・纖維工業などがいづれも榮えて、特にその海島たる地位を利用し、運賃まで他國の追隨し得ない低廉さで、自國の製品を世界の隅

隅までも搬出し、世界の國々をしてその購買者としたばかりでなく、世界の畑・牧場・鑛山を原料供給地としてイギリスに結びつけることができた。更に自由貿易を通じてイギリスの商業は、一層國際的に發展した。かくて貿易の發展と共に、イギリスの金融も國際的となり、ロンドンは實に國際金融の中心市場として、世界の王座に即いた。かくして工場は「世界の工場」となり、銀行は「世界の銀行」となり、取引所は「世界の取引所」となり、その商船はユニオンジャックの旗を靡かせて、世界の海上を我が物顔に横行し、自由貿易の祖國、金本位制の祖國、資本主義の祖國として、久しく繁榮を誇つて來た。然るに二十世紀の舞臺がめぐつて來ると、生産の條件がガラリと一變した。石炭と蒸氣力がが無用に歸したわけではないが、それよりも水力電氣と石油とに依存することが多くなり、しかもそれ等のものはイギリスに於ては極めて乏しかつた。保守的なイギリス人が十九世紀流の思想と生産方法とを踏襲して、煙に煤けたマンチエスターや黒^{ブラック}郷^{カンタリー}にしがみつき、能率の低い舊式な機械や陳腐な設備を運轉

して、新式機械の利用、生産の標準規格化、大量生産、科學的經營を中心とする産業合理化を企てるといふでもなく、奢侈と怠惰に慣れ、賃金は高く、勞働爭議は頻發し、市場制度が古く、おまけに税金が重いといふやうな危機線上に立ちながら、また覺の後進國と目する國々から次第に追付かれ追越されつゝありながら、鼻の先の感彼等鈍くて度し難い自己陶醉をつゞけて、今や動きのとれない所まで來てしまつた。

言ふまでもなくそれは時の力であるが、同時にこれを促進したものは第一次歐洲大戰であつた。これを對米關係について見るも、大戰開始當時イギリスは、米國に對して七十五億圓の債權をもつてゐたが、大戰中これを處分した外に借入金をなし、いはゆる戰債だけでも米國に對し九十二億圓の債務を負ふことゝなつた。戰前から既にドイツの産業に對しては、朝に一壘夕に一城を奪はれて漸次その地位を譲りつゝあつたが、大戰を機として新しい産業整備に進んだ米國や日本に對しても太刀打はできなくなつた。蘇聯の産業殊にそのダンピングも至大な脅威で、それが自由貿易制度の下に

於ては、自國産業に與へる打撃は殆ど決定的である。自治領等の植民地も漸次工業化し、イギリス本國からの輸入を仰ぐことが少くなつた。それに戰後相つゞ世界的恐慌は、イギリスの投資先からその投資の元金は勿論利息の回収をも困難ならしめ、購買力の減少から製品の輸出を困難にした。街頭に溢れる失業者は、それだけでも優に社會不安を醸すのに、イギリスでは失業保險制度に關聯し、不況に反比例して國庫財政の負擔を増大する。ワシントン會議で米國と對等の海軍軍備を保有することを諾したのは、勿論なほ根柢があつたことであつたけれど、一時は世界二強の海軍力を併有することを主義綱領としたイギリスとして、確かに世界的王座から顛落する出發點となつた。大正十五(一九二六)年五月、炭坑夫を中心とし參加人員四百萬をかぞへるゼネラルストライキも、次第に行詰つてゐるイギリス經濟界の苦惱の象徴であつた。ロンドン軍縮條約が成立した昭和五(一九三〇)年から猛威を逞しくした世界恐慌に直面しては、もはや萬策盡きて翌年の秋金本位制を拋棄し、「世界の銀行」を以て任じて來た英蘭銀

行を通じ、フランスと米國とに叩頭し、六千五百萬磅づゝの信用クレジットを設定して危局を切
抜け、完全に世界金融の王座からすべり落ちた。イギリスの金本位制は、文化十三
(一八六六)年に創設せられ、第一次歐洲大戰中にも道義的に兌換停止をしたのみで、形式
上は金の輸出禁止を行はなかつたけれど、戦後國際貸借の均衡がとれなくなり、大正
八年金輸出禁止令が出で、大正十四年にこれを解除したのを、こゝに至つて再禁止と
なつた。蓋しこの頃イギリスの財政が極度の歳入不足に陥り、いろいろな遺繰をして
もなほ補填の途がつかなくなつたため、經濟界に不安を招いて信用が收縮し、イギリス
の資本(金)が安住の地を求めて早足で逃避し、これを防止するには輸出禁止より外に
手段がなかつたのである。加ふるに「世界の工場」も、最小の犠牲によつて最大の効
用を取得する經濟主義に禍せられ、働くこと少くして酬らるゝこと多かるべきを期
する労働者により運用せられるから、生産費のみ高くなり、外國製品と競争する力が
弱まり、需要が減つて生産が低下し、新銳の米國・フランス・ドイツ・日本などに追

越されて、もはや黄金時代が過去のに至り、植民地は勿論本國內に輸入せられて來る
外國製品に對してさへ頭が上らなくなつてしまつた。かくてイギリスは入超を抑制し
對外支拂を防止するために、保護貿易政策に轉換するのやむなきに立到つた。

最近に於けるイギリスの保護關稅の進展を見ると、大正四年に施行せられたマツケ
ナ關稅を嚆矢として、大正十年には産業保護法を以て基礎産業を保護し、安値外國品
の汎濫を防止すると共に特定輸入品に對し關稅を課し、爲替低落國の商品に臨時附加
稅を増徴してドイツやフランスの製品を玄關拂ひにした。その後大正十四年には課稅
種目が一層擴大せられ、翌年産業保護法施行を更に十箇年間延長した。ついで昭和五
年大銀行家・大工業家が連名で、英國商品の市場を確保擴大するために、英帝國を構
成する諸領土の相互貿易協定と、他國の商品に對する關稅賦課とを決議し、この要望
に應じて昭和七年にオッタワ會議が開かれ、イギリス本國は自治領との間に通商關係
を緊密にし、指定外國商品に對し一定率の關稅を課すると共に、相互に英國産及び自

治領產品の特惠制の維持又は擴張を協定した。かくて自治領の工業的發展を抑止せんとする意圖は達成せられなかつたけれど、自治領を打つて一丸とするブロック經濟の樹立に成功し、英本國はこの年から保護關稅を全面的に實施、自治領も相前後して續々關稅改正を行つた。特に昭和八年ロンドンで開かれた世界經濟會議が失敗するや、國際的協力によつて恐慌を克服することに望を絶ち、列國は國內經濟の自主的な再建及び強化を達成することに熱中し、いはゆる經濟的國民主義が濃厚に擡頭し來り、各國とも國內産業の救濟、保護、補助から進んで取締、統制等の國家的干涉政策をとり、更に他國の措置に對する報復應報の手段にも出づるに至つた。即ち關稅障壁を高くして國內市場を確保すると共に、その勢力範圍に對する統制を強化し、これをして政治的經濟的に自國に繋がうとするブロックキズムの方策を進め、海外市場に對しては金本位離脱による爲替低落を利用し、斷然競争者を壓服することゝなつた。それはイギリスの如き高度資本國にとつては、防衛の道であると共に發展の途であるのである。

かゝる國歩艱難の時に當つて、イギリス皇帝エドワード八世が、シンプソン夫人と身分違ひの結婚の故を以て、殆ど全帝國舉つての反對をうけ、「久しきに亙り慎重考慮した結果、余は王位を拋棄するに決意して、今この最終的且つ取消し得ざる決定を茲に通告する云々」との勅語を議會に送り、昭和十一年(一九三六)十二月退位を執行し、その退位宣言法案は四百三票對五票の壓倒的多數を以て下院で可決せられ、ついでウインザー公といふ身輕な身分となり、ゴッドロセーブルザキングといふ一語を全英國民に對する放送の最後の言葉として、ポーツマス軍港から夫人の在所なる大陸フランスに向け故國を離れたのであつた。新帝ジョージ六世は「最も異常な狀況の下に且つ大いなる個人的痛心の際に帝位に即いた」と勅語を下されたが、世界も亦イギリスに太陽の没する日來るの前兆なるやに印象づけられた。しかしイギリスから世界を見渡した所で、米國は大きな顧客には違ひないが、關稅障壁が高くすばらしい勢で工業化の一路をたどり、それにモンロー主義で汎米ブロックを目ざしてゐる。ヨーロッパ

は東部を除いては行く所まで行つてしまつた。政治的には獨佛のどちらにも味方するやうな顔をして、その實ある程度互に制せしめつゝ大陸に於ける覇權の確立を妨げ勢力の均衡をはかり、おとなしくなつた蘇聯を手なづけてその保證人たらしめると共に、經濟上の連繫をはかる現状維持の外はない。自由な獨占されない市場として横はつてゐるのはアジアのみである。支那はまだ産業革命をも知らないで、四億の人口と未開發の資源とを擁し商品の賣込地、資本の投下先、原料供給地として徐ろな歩みをつゞけてゐる。大海の一粟のやうな日本が、新興の勢侮るべからざるものがありとはいへ、何と言つても店も小さければ資力も乏しい。これさへ押へて行けば、アジアの廣大な市場がひとりでに懐にころげ込んで来る。かくて西に守つて東を攻めるイギリスの世界政策がスタートを切つた。そして支那を抱き込んで日本を叩きつける執拗にして老獪陰險なあの手がくり返されることとなつた。由來イギリスは「區分して支配する」ことの巧みな國である。オーストリア王位繼承戰役にはマリヤ・テレサを援け、

その後はオランダとも提携して、スペインの隆盛を蹴飛ばし、ナポレオン一世がドーバーの空を睨むやうになると、その敵手たるプロシヤと結んでこれを打倒し、ウイリアム二世を中心としてドイツが勃興し来るや、これにおびへるフランスと提携してこれを追放した。これを東洋に於て見るも、ロシヤの南下に對しては日本と同盟してその勢を挫き、ついで日本の興隆漸くすさまじきものあるや、これを好まざる米國と通謀してワシントン體制をつくり上げ、また支那をけしかけて日本に楯つかしめ、印度統治の如きも種族・信教の相違をうまく離間して、その相互の歩調をとゝのはざらしめ、自ら勞せずして甘い汁を吸ひつゝある。蓋し區分して支配することが、永遠の勝利の道であると信じ、こゝにも不勞所得をねらふ惡質資本家の根性がまさまざとあらはれてゐる。勿論オッタワ協定の善後策でもあり、且つ金輸出再禁止後の圓價低落により、世界到る處に進出した日本商品ではあつたが、昭和七年南阿聯邦の爲替ダンピング税による日本品の壓迫を皮切りとして、翌八年には英本國及び印度で日本品に對

する關稅引上をなし、殊に印度は英本國を通じて日印通商條約を廢棄したる旨通告し、昭和九年ロンドンでは日英綿業者の會同が行はれ、全世界の綿製品市場につき販賣分野を協定せんとして我に拒絶せられ、印度では新通商條約締結のため日印會商が行はれ、條約が調印せられたけれど、日本の印棉買附量に應じて印度に輸入する日本綿製品量を調整することとなり、昭和十一年のカナダ・濠洲關稅引上の如きは、我が懇切な折衝にも容易に耳を傾けなかつたため、我が國でも通商擁護法を發動して報復關稅を課し、まさに關稅戰爭に展開してから妥結休戦となつた。なほ昭和九年蘭領東印度との日蘭會商、同十年埃及の日埃通商取極廢棄に伴ふ日埃交渉なども、勿論直接イギリスの指示によるものではないにしても、日英間の通商競争に伴ふ産物で、とに角かうして日本貿易の發展性が頭打ちを食つた。そしてやむを得ず接壤地滿洲へ流れようとする奔流をも堰きとめて、リットン報告書をでつち上げ、支那を狂喜せしめてその集權統一を助成する名の下に、浙江財閥の懷を暖める借款に應じ、蔣介石を武

裝せしむると共に、自國商品の販路を開拓し、殊に昭和十年本國の景氣がやゝ立直つて來たのに乘じ、支那の幣制改革に乗出して、その銀をかき集めては轉賣の利を收め、貨幣制度の不安を除いて對支投資の安全を保障し、支那の金融を擧げてポンドの支配下に置いた。かくて同情支援の形によりいよゝ深く支那の心臓部に食ひ入り、これを抗日戰線に踊らしめ、アジャに於ける在來の權益は勿論、更に進んで支那に覇を制し、米國と呼應して日本を包圍し、これを邊土粟散の島國に窒息せしめる方策を進め、依然として世界制覇の實を握りつゞけようとたくらんだのである。

七 日本自己發見

第一次歐洲大戰に於ける日本は、利害から言へば現狀打破を有利としつゝも、しかし國際協定を忠實に遵守してイギリスに味方した。そしてその結果英・米中心のアン

グロソンの優越を助長しこれにもとづく現状維持の勢に油を注いだ。日本は別段参戦により不當な利得や報酬を望んだわけではないが、狡兎盡きて良狗煮らるゝの譬に洩れず、その勞に對して報ゐられたものはあまりに悲惨であつた。東洋の和平安定の確保を目ざし、隣接地と緊密な提携の歩みを進めようとした日支交渉さへ、支那に於ける排他的獨占を意圖するものなりと宣傳せられた。そしてヨーロッパの問題がベルサイユ條約と國際聯盟の機構により、一應の收拾安定の見透しがつき、ドイツ復興の容易ならぬことが豫測されると、大戰を機として急激な充實發展を見せた日本を目して第二のドイツなりとし、次に世界の現状を打破する候補者として、殊に東亞及び太平洋の現状が打破せらるゝことを忌む英・米がリीडグーとなり、露骨に日本の發展を抑制する方策が講ぜられ、既にパリ講和會議からその鋒鋒を示した。ついでワシントン體制が案出せられ、海國日本の發展の根源たる海軍軍備を制限し、また從來日本の發展に力添へをした日英同盟を廢棄し、アジヤにも集團的平和保障制度を樹立して、

四國協約・對支九箇國條約を締結し、殊に後者に於ては支那の統一と獨立に對して共に保障し、各國が權益を擴張することを否定し、更に支那を支援して列國の既得權益を回收せしめようといふので、これを日本の立場より見れば、日露戰役以後アジヤ太平洋問題に對して保有し來れる指導的地位を棄て、蘭・白・葡等をも含む九箇國と對等の地位にまでの顛落を承認し、隣接する大陸に對して行動の自由を失ひ不斷の制肘をうくるに至り、戰はずして劣勢海軍に甘んじ發展的氣魄を缺き、孤城落日たゞ擧河泉の大名となつた豊臣秀頼の境遇に立つたのである。殊に最も注意すべきは、支那をつけ上らせ日本に對する正しい評價を誤らしむるに至つたことで、恰も彼の三國干渉後の清朝と似たものがある。往昔の三國干渉は、勿論當時のヨーロッパ情勢と深甚の關係があるものであるけれど、また下關係約を結んで西太后の不興を招き、保身轉換を策せる李鴻章と、ロシア宮廷の東方政策との合作であつた。併し結果として遼東還附に成功した清朝が、日本を輕んじて歐米に依存し、ために列強の彈壓に會ひ、

義憤も加はつて拳匪の亂となり、遼東半島回収に幾倍する多くの犠牲を拂はねばならなかつた。ワシントンで英米監視の下に行はれた山東問題解決のための日支交渉は、實に第二の三國干渉であつた。世界を我がもの顔にふるまふ英・米は、その言ふことに逆らへば、それが世界平和、人道への反逆者であるかに宣傳した。つまり自國權益の繩張りからはすべて外國の勢力を排除し、少しでもこれに手を觸れるものがあれば、事由の如何を問はず直に侵略者呼びをなし、泥棒扱ひにして裁判しようとする。そしてその場合の正義、刑法、訴訟手續はみな御手製のもので、つまり正義、人道に背くといふのは英・米に都合が悪いといふのと同義語であつた。しかしそんなことはどうでも、支那として見れば、英・米の歡心を失はざらんとする翼々たる日本、英・米の威嚇恫喝に逢へば劣勢海軍に甘んじ、且つ長い間血を流してまで經營しつゞけた權益を抛棄する日本を見たのである。従つて日本を牽制するには英・米に依存し、その力をかゝることが有効でもあり捷徑でもあると判斷するに至つた。勿論神ならぬ身のこ

れが代償の如何に高價なものであるかは知る由もなかつた。

さはれ國際協調の時流に棹さして、あまりに英米の宣傳をまともに受入れ過ぎた跡は、これを日本に於ても見出される。大戰の勝利はデモクラシーの勝利なりと言はれると、我が國にも輸入せられて普選運動となり水平運動となりその他の解放運動、改造運動となつた。サボルといふ國語さへできて、労働運動から更に共産主義赤化運動にまで内攻し、思想善導といふやうなことも唱へられた。これ等は新しい社會を夢みながら實は個人主義の上に立つもので、その共通の特色は特權階級と非特權階級、労働者と資本家と言つた調子に、階級を分けて相對立せしめ、その相互の利害の一致しない部分のみを強調し、反目、抗争により利益を收奪せしめようといふ點にある。故に同じ國民でありながら、利害の打算を基調とする争鬪的精神が鋭くなり、内部の軋轢、相尅、摩擦を甚だしからしめ、一體となる代りに分裂せしめ、親和しないで相争つた。都市に於ては資本主と労働者、大規模經營者と中小商工業、農村では地主と小

作人、更に農山村と都市、商人と産業組合など、恰も百年の仇敵の如く看做され、しかも政治がそれを調節し統制することを根本方針とせずして、むしろそれぞれの一方的利害を代辯する無産黨・商工黨・農民黨に分れ、却つて抗争に拍車をかけ、社會のあらゆる部面を通じて、黨閥、派閥、學閥といふやうな忌むべき對立を生じ、國民の勢力を内部的に消耗して、それが舉國一體となり外に向ふことを妨げた。まさに蘇聯なり英・米なりの思ふ壺にはまりつゝあつたわけで、日本に於ける赤化勢力の擴大とか自由主義の展開とか稱し、やはり「區分して支配する」目ろみを進めつゝあつたのである。由來國內に相尅磨擦の存するあつて外難を招ける例は必ずしも乏しくない。天智天皇が朝鮮半島の經營を終に御中止になつたのは、一は久しきに亙り國內貴族が進歩、保守兩派に分れて抗争し、力を専にして外に向ふことができなかつたからである。文祿慶長の戦果も、文治・武斷兩派の抗争なくば、もう少しは確保せられたに違ひない。江戸幕末の開港と攘夷、尊皇と佐幕との深刻な對立は、我が對外的地歩を甚

しく不利にした。米國水師提督ペリーの小笠原諸島占領計畫、ロシヤの對馬尾崎浦租借計畫こそ實現しなかつたけれど、フランスが幕府を支援せんとし、イギリスが長州藩に好意を寄せた如き、事の發展次第ではかなりな制約と負擔とを受けねばならなかつた。當時國力未だ全からざるものがあつたからではあるが、明治政府が四十年間苦惱をつゞけた條約改正は、その淵源が幕末の政情にもある。日清戦争・日露戦争も、御多分に洩れず議會と政府とをめぐる苛辣な政争が、これを誘發するに與つて力あつたことは争はれない。故に日本の外部發展を制せんとすれば、その内部軋轢を煽動することが効果的であることを、知らぬは亭主自身ばかりであつたのである。

さればこそその實際生活に於て、いはゆる文化生活と稱し、無批判的にアメリカ風をまねて得々たるものがあつた。文化住宅、ジャズ、ラヂオ、キネマ、トーキー、自動車、スポーツ、カフェ、斷髮、ダンス、亂婚(婚姻の遊戯化)など、その根本を貫くものは便利と安易と快樂とを追求する享樂主義、内面の深みよりも外面を修飾する豪

華な物質的生活であつて、凡そ握飯に梅干で不自由を忍び簡素な生活に満足を見出し、樹下石上の寸土にも草花を植ゑ、自然に親しみ勤勉着實で苦勞を厭はず、鍛練を尙び剛健素朴ながらに雅致を解する日本人特有の精神とは、全く對蹠的なものである。功利と享樂とを追求して、物質を濫用するアメリカ風の浸潤は、資源が乏しく従つて人間の力行を本位として立つて來た日本の醇風美俗とは相容れないもので、かゝる風尙に追隨しこれを模倣する限りは、國民本來の特質を壊敗せしめ、且つ經濟的には行詰りを生じ、いつまでたつても英・米の植民地的性格から脱却することができない。それにも拘らず國民がこれを高尚なもの、進歩したものとして憧憬するから、そこに宣傳の力がはたらく。サンガー夫人を迎へてわざわざ人口を減退せしめる説法を拜聽するから、その娘達がヒリッピン選手の跡をつけてサインを求め、日本女性の操守を疑はれたりした。かくの如くして日本を外からタガを締め縛り上げて抑制する外交政策と、内に相軋せしめ壊敗にみちびく宣傳とが、英・米を主潮とする自由主義的、功

利主義的なものと、蘇聯を背景とする人民戦線流儀のものとの別こそあれ、相交錯して日本に作用し、次第に效を奏してその地歩を進むるかの觀を呈した。而してこれ實に列國をして日本に對し、鼎の輕重を問はしめる有力な端緒をなしたもので、出て行く先々で日本が頭をはられるやうになつたのは、強ちその發展の故のみではなく、一はかうした道行きから歸結した當然の結果だつたとも言へる。しかしかへりみれば日本の獲得すべき領土は勿論、勢力圏さへもなくなつた。濠洲・カナダ・米國更にブラジルにまでも排日の烽火があがり、移民の渡航すべき門戸は閉された。猫額大の國土に充滿せる國民の勞働と技術とを擧げて、産業・貿易の發達に全力を注がざるを得ざるに至り、その勤勉さと簡素な生活に甘んずる低廉な生産費との故に、次第に發展するに至つたけれど、その最も廣大な市場たりし支那は、連年日貨排斥を唱へてやまず、路をかへてこれを世界に輸せば、ブロック經濟に妨げられて種々なる苦難をうけねばならなかつた。國民の唯一の活路として選ばれた通商貿易すらも、せかれ抑へられる

ことゝなつた。日本よ何處へ行く。

滿洲事變はかゝる空氣のうちに勃發した。柳條溝の不法な事件に端を發して、日本國民の公憤が爆發した。列國のこれに注いだ目は非友好的な冷たいもので、國際聯盟では日本を袋叩きにしたばかりでなく蒲團蒸しにまでした。それは鼎の輕重を問はれつゝあつた日本が當然受くべき苦難で、決して認識不足のせいばかりではなかつた。しかし「何糞つ」といふ久しく假死の状態にあつた日本人の魂が始めて目ざめた。滿洲國は獨立にまで進んだ。日本國民は再びその東亞に於ける責任を認識した。そして正を踐んで恐れず、千萬人と雖も我往かむといふ東洋の本然に復歸する端緒をつかんだ。世界が日本の孤立を宣傳し、滿洲國獨立不承認の態度をとりつゝあるに拘らず、滿洲の治安は急速に回復し、産業經濟は異常な發達を遂げ、米國獨立と並んでむしろこれに優るとも劣らない世界史上の偉觀なりと稱せらるゝに至つた。日本は自己の實力をさへ見直さねばならなくなつた。英・米に都合のよい英・米至上の軍備制限、比

率による劣勢軍備をかなぐり捨て、不脅威不侵略を眼目とする均等軍備を保有すべき意志を明かにした。そして世界の平和を攪亂するすべての策謀、それはコミンテルンでも英・米製のイデオロギーにもとづくものでも、ひとしくこれを排除するために、躊躇する所なく實際工作に邁進することゝなつた。それは小心翼翼たる日本が、正直に自らを衛る姿であると共に、その周圍——東洋を安定する努力のあらはれに外ならぬ。けれどもかうした努力にも拘らず、支那は次第に北方から赤化の妖雲に掩はれ、南方の海港からは明日の戦争に備へる援蔣の武器や軍需品が陸揚げせられ、抗日を煽る十字砲火を浴びつゝあつたのである。

八 支那事變の本質

滿洲國の獨立、支那事變——それは支那の政策的過誤が生んだ産物で、歐米に依存

して日本に楯ついた高價な代償であつた。由來支那の歴史は、外國と對等の交をなした經驗に乏しく、強大國として周圍の諸邦、異民族を服屬せしめ、これを附庸國として朝貢せしめるか、或は自ら屈して異民族の統治下に制壓せられ來り、傳統的に排外心強く、周圍と親和し難き宿命にはぐくまれてゐる。しかも日本の世界政策は支那を出發點とし、また歸着點ともするから、日支親善は日本の當爲でありながら、現實の支那はともすれば鱈のやうにぬらりと指の間から抜ける。滿洲帝國の實現が自國の過誤にもとづくものであつても、深くこれを省みる所がないと共に、またかうした事態を直視し、率直にこれを承認して善後を策するが如きは、その面子を重んずる性質からも到底不可能のことであつた。されば蒋介石の實力を中心とする南京の國民政府は、或は一面抵抗、一面交渉を唱へ、陰に陽に反滿抗日の態度をつゞけ、傳統的な以夷制夷を策して北支をかきまはし、東洋の和平をみだる策謀をめぐらした。かくて蘇聯が新疆と外蒙古とを自家藥籠中のものとし、滿洲國や北支にまで手を伸ばし、支那の人

民戦線を支援して抗日に驅り立てるに至つたから、日本は北支に成立した冀察政務委員會を守り立て、また南京政府を誘うて防共の交渉を進め、更に昭和十一年にはドイツと防共協定を結び、コミンテルンの破壊行爲に備へる所があつたが、この年の末突如西安事件が起つた。事件の真相はなほ詳かでないが、要するに共産黨討伐のため西安に乗込んだ蒋介石が、共産黨と通謀する張學良等のために拘禁せられ、これに屈伏して釋放せられたもので、その結果彼は赤化防止と共産軍討伐とをやめて共産黨と握手し、共産黨は討蔣抗日を一擲して國民政府を認め、これを引きすつて抗日一本槍に進むに至つたもので、或は日獨防共協定に對する蘇聯の回答なりとする見解さへ行はれた。事實蒋介石は宋子文、英人ドナルド、親露主義系の憑玉祥や孫科などに救出されて南京に歸つたが、爾來蘇聯の指導と援助とをうけ共産黨を抱いて對日戦争を開始するの餘儀なき破目に置かれ、好むと好まざるとに論なく、彼をしてその以夷制夷策の收穫をなさざる能はざるに至らしめた。しかも彼の目に映する周圍の國際情勢は、

彼をして對日開戦の不利ならざることを思はしめる幾多の好材料を含んでゐた。

まづ滿洲事變以來、國際場裡に於ける日本の孤立は、殆ど何等改善の跡を示さなかつた。しかもその滿洲に於ける輝かしき發展は、これと接壤國たる蘇聯を甚しく警戒せしめ、北滿鐵道を讓つて國境にトーチカ網を張り、外蒙古から黒龍江岸の國境附近に大兵を配して、まさに一觸即發の危機を孕み、大戰で支那に於ける指導的地位を日本に蹴落され、更に滿洲事變以來在支權益が日本の脅威に暴露されることとなつたイギリスは、世界のあらゆる部面で日本の商賣敵として相對峙してゐる。米國はスチムソンドクトリンを投げつけたまゝで日本と睨み合ひのまゝであり、日本と防共協定を結んだドイツでさへ、支那に對しては借款や武器を供與してゐる。就中特にイギリスは、ワシントン會議以來の態度を繼續し、米國を誘ひ支那に好意を賣り、日本の大陸發展を抑制せんとする方策をとつた。本來蔣介石はモスコー仕込みで、黃埔の軍官學校はコミンテルンから創立費や武器の供與をうけて成り、國民革命軍は赤軍に倣つて

編成し、ポロチン(ウオイヂンスキー)・ガリン(ブリッヘル)などの軍事教官を招いて教導をうけた。だからその勢力を提げて武漢・南京を占領するや、イギリス帝國主義打倒の運動を展開して、隨分手ひどくイギリスをいぢめ抜いたものだ。しかし轉身の巧みなイギリス外交は、漢口・九江を捨て、上海を守り、蔣介石と浙江財閥とを捕へ、これをして親英に轉換せしむると共に、逆に赤化防止と打倒日本帝國主義とを標榜せしめ、ポロチンやガリンは放逐せられた。蓋し宋子文一派の浙江財閥が、共產黨を忌みイギリスの資本を利用せんとするのに乗じたもので、イギリスの在支權益を脅かす日・蘇兩國を排斥せしめ、支那内部に於ては支那の統一を助成するといふ名の下に、資を供して蔣介石の反對派抑壓を援助し、目ぼしい權益を更に多く握りしめる魂膽をめぐらした。そして昭和二年末蘇支の國交が斷絶し、その翌年には北伐を完成し、ついで前後五回に互る共產黨の大討伐を行ひ、福建・江西方面から四川を経て陝西方面に狩り立て、惡戰苦闘約十年を費して兵三十萬を犠牲とし、揚句の果ては西安事件を

ひき起した。また昭和三年から特に政府の指令で行はれた排日教育、日貨・日本人排斥は、滿洲事變を生み支那事變を展開せしめた。

しかし支那に見れば、イギリスの全幅的支援を受けつゝあるものと自任するものも尤もで、殊に昭和十(一九三五)年以來幣制改革を名として、イギリスが財政的援助にさへ乗出したのであつた。即ち國民政府をして銀國有を斷行せしめ、これを政府の手に收めて銀準備の形態をとりながら、法定紙幣を強制的に國內に流通せしめ、支那貨の對外價値を切下げて低爲替、インフレーション的效果を收め、これを自國の磅にリンクせしめて、支那貨の安定をはかつた。かくして農産物價の下落により沈靜した支那の經濟界に景氣回復の曙光をあらはし、民衆の人心を收むるに成功すると共に、自國の投資確保の途を講じ得て、鐵道の建設、道路の改修、軍備の充實、産業の開發など、各種借款に應じて、中支から南支に互り莫大な權益を擴張した。そして當時銀價の低落を防止するため、銀買上を行ひつゝあつた米國に働きかけ、支那の現銀を持出して

これを米國に賣却する約を結ばしめ、英・米協力して支那の財政建直し、經濟復興を援助するかの外觀を呈するに至り、事實國民政府はイギリスの支援をうけて銀と通貨との上に絶大な支配力を擁することとなり、現銀をとり上げられた民衆が、兌換のあてもない紙幣を握らされて一時的好景氣に酔ひつゝある間に、政府要人は中央政府にかき集めた現銀を海外に轉賣することにより莫大な利益を收め、蔣介石を首領とする南京政府は、イギリス製の武器で身を固め抗日戦線に踊り、支那の現銀は滔々として海外に流出し、イギリスの不當利得が増大するばかりであつた。支那にして見れば、英・米の支持をうけて日本を孤立せしめ得たと思ふのも無理からぬことで、南京政府に於ける知日派と稱する人々の影が薄らぎ、歐米依存派が時を得顔に振舞ふこととなつた。本來蔣介石は排日・抗日を利用して、支那流な富國強兵に成功し來つたものである。即ち彼は悲歌慷慨の素質に富む支那民衆に對し、日本への敵愾心を植付けることにより、自己の政權を強化した。近代的工業化への歩みをつゞけつゝある支那の財

界は、排日が自家の經濟的利益と一致しきへしたから、期せずしてかうした蔣介石を支持することに傾いた。虐政に對しては不感症になつてしまつた支那民族ではあるけれど、特に蔣介石は排日・抗日の氣勢をそゝり、民衆の視聽を外に向けしむることにより、無理な内政を國民に強ひた。耳を掩うて鈴をぬすむ類の幣制改革などもこれであつた。關稅を擔保として巨額な國債を發行し、利權を質に置いて夥しい外資を輸入し、これを財源として宋子文、孔祥熙を始め、親近者や浙江財閥と共に私財を積み、また抗日戰備を整備すると稱しつゝ、その親衛直系軍を近代化した。いつまでたつても封建的な萬邦の組織、體制をそのまま存続する支那に於て、今日も廣東、漢口、天津、奉天、上海を根城とする五大財閥がある。この財閥を基礎として地方軍閥が割據してゐた。張學良にしても、閻錫山にしても、馮玉祥にしても、李宋仁にしても、みなこの種の財閥を背景として勢力の擴大、利益收得の増進をはかつた。蔣介石は上海の浙江財閥と合力結托し、政商としてこれに多大の庇護を與へつゝ、自家の政治的獨

裁を進めた。打續く内亂のため、また政府とのつながりがないため、他の地方財閥が細り行く一方であるのに反し、上海のみは國際都市として依然たる繁榮を繼續し、それに蔣介石と結ぶことによつて浙江財閥のみはむくむくと太つた。勿論政治手腕、統制能力、勇氣、果斷等の個人的資質に於て、蔣介石が近代支那に比類稀なる怪傑であるけれど、しかしこの浙江財閥と歐米資本とを背景として、彼は支配的高地を占領してしまつた。他の地方軍閥や財閥のどれよりも、優越した勢力を擁するに至つた蔣介石は、武力を以て反對派を抑壓し、苟くもその存立を保ち利益の分前に参加しようとするれば、好むと好まざるとに拘らず、蔣介石と浙江財閥とに接近し叩頭しなければならなくなつた。これが即ち彼の武力統一であり、中央集權化工作であり、また歐米人から過當に評價せられた「近代國家への進化」の錯覺でもあつた。要するに抗日は蔣介石の一大投機であつて、抗日を唱へることによつて彼の家は富み、彼の兵は強くなり、彼の政治的地位は向上したが、その反面に民衆は搾取せられ、外國からの經濟的

制約をさへ受けて次第に萎え細つた。たゞ表面の事象のみを見て、支那の實質が如何に推移しつゝあるかを直視し得ない人々は、我が國でさへもその單なる外面的形式的整備を目して、いはゆる支那再認識論を唱へるやうになつたから、歐米人がレットル通りに支那を買ひかぶり、これに同情を吝まぬ顔つきをするやうになり、殊に英・米・蘇等の諸國は、支那の振出した抗日の手形を取立て、自ら火中の栗を拾ふかほりに蔣介石を矢表に立たしめ、日本の視聽と總力とを長く支那に注がしめ、また他をかへりみる暇なからしめようと策謀を進めた。

當時日本の國內情勢をかへりみるに、昭和十一年二月東京を中心としていはゆる二・二六事件起り、事理を解せぬ外國人には恰も革命前後の如き誤つた印象を與へたが、その後相ついで起つた事象は、軍部・政黨・官僚・財閥などあらゆる層を通じて、超ゆべからざる對立、相尅の伏在することを思はしめるものがあつたから、力を一にして外政の處理に當ることができないものと誤信せしめ、従つて（一）排日・抗日を中

止し日本との積極的共同動作をとること、（二）滿洲國の承認、（三）北支に於ける防共の三原則をふりかざして、日本から國民政府に對して行はれた屢次の交渉も、依然緩和的で氣魄と力とを缺くの觀があつた。殊に外國評論家の間には、滿洲事變以後急激に膨脹した日本の財政を目ざし、早晩悪性インフレーションと破産とを免れざるものとする悲觀論、國力過小評價論さへ行はれた。そして昭和十一年十二月、全蒙古民族の康寧保持のため綏東方面赤化防止の目的を以て驟起した内蒙古の徳王軍が、國民政府麾下の傅作儀の綏遠軍の反撃に會し、敗退のやむなきに至つたが、支那側は徳王が日本の軍事的支援をうけたものと信じ、その脆弱性を吹聴して、實戰の經驗に乏しき日本の陸海軍が、到底連年兵戦をくり返しつゝある百戰練磨の支那軍に敵すべからざるを揚言し、従つて英・米の財力及び海軍、蘇聯の陸空軍を背景とする支那は、對日戰爭に於て充分勝算ありとの過れる自己陶醉に陥つて日本を見縊り、輕率にして無暴な挑戰が、翌十二（一九三七）年七月蘆溝橋で口火を切つたのである。勿論複雑混沌たる

支那のことであるから、蔣介石は抱き込んだ中國共產黨を北支に移して滿洲國攪亂をなさしめ、日本の力によりこれを打倒せんとしたのかも知れないし、中國共產黨は共產黨で、曾て北伐途上の國民軍に参加し、南京占領の際在留日本人等に重大な侮辱を與へていはゆる南京事件をひき起し、蔣介石をしてその善後策に苦惱せしめた故智にならひ、蔣介石の勢力を全面的に日本と衝突せしめ、その支那に於ける支配的地位から顛落せしめて、政權を自黨の手に收め、更に東洋赤化の邪魔物たる日本を疲弊せしめ、その發言權を失はしめる一石二鳥の皮算用をしたのかも知れない。しかしそれ等支那内部のことも、つまり英・米・蘇三國の世界政策に關聯するもので、これ等諸國にとつては世界制覇の欲望から、現在持てるものに加へて更に支那を支配しようといふのであるが、日本はアジヤのまどかな存在のために、東洋をして東洋たらしめるために、支那の迷夢を覺ますと同時に、さうした毒ある刺から支那を保護し防衛しようといふので、そこに支那事變の本質が横はるのだ。それは國家的衝突、民族的鬭争とい

ふやうな性質のものとは異なり、半植民地的な支那を地盤として競合する資本主義的侵略、赤化工作、支那の反抗的民族運動などの世界的うづまきが、最も白熱化した日支の局面に於て點火せられたものに外ならない。

九 獨・伊樞軸の結成

ドイツとイタリーとは久しく同盟關係を結んでゐたにも拘らず、第一次歐洲大戰に於ては互に敵として相戦つた。従つて戦後イタリーも亦國際聯盟の一員としてベルサイユ體制を以てドイツを縛る仲間入をした。昭和九年ドイツ再軍備の爆彈宣言に對處するためのストレーザ會議にも、勿論英・佛の肩を持つた。しかしイタリーは地中海アフリカの問題でフランスとの利害が相そむき、海上に於てフランスと均勢海軍を保有せんとしたばかりでなく、陸上では小協商を後見してドイツ包圍を策するフランス

に對し、塙・洪兩國をつらねて自己の味方たらしめ、昭和二年四月ハンガリーとの友好條約、昭和五年二月のオーストリアとの友好條約について、昭和九(一九三四年)三月ローマに於て伊・塙・洪三國協定を結び、各國獨立の基礎に於て歐洲の平和と經濟的復興とに協力し、三國間に現存する諸條約を友好關係に準據せしめる目的を以て、一切の問題、殊に三國に利害關係ある各種の問題につき、互に協調すべきことを約した。されば六月わざわざベニスまでたづねて來たヒットラーに對し、ムッソリニはあまり色のよい返事もせずすげなく別れたが、七月ウイーンにナチス黨の暴動が起り、塙國首相ドルフスが暗殺せられ、ついで八月ヒットラーが總統を兼ねるに至つて、イタリイは極力獨・塙の接近を妨げ、昭和十一年三月更に伊・塙・洪三國協定を重ね、歐洲政局の進展に對し共同動作を約し、塙國はイタリイの諒解を得て徵兵制を布き再軍備に着手した。

併しながら世界は進展してやまなかつた。イタリイはフランスの諒解を得てエチオピア攻略を始めたが、ためにイギリスと全面的に對立するに至り、そのひきゐる國際聯盟のために侵略者の刻印を押され、列國の經濟制裁をうけるに至つた。ドイツとの接近を妨げこれから引離さなければならぬイタリイではあるが、フランスにとつてはイギリスこそ失はれない味方である。故にイタリイの立場に同情しつゝも、フランスは經濟制裁にも参加しなければならなかつたし、昭和十年十二月にはイギリスの首唱した佛・土・希・ユーゴスラビヤを連ねる地中海相互援助協定にも参加し、對伊制裁に伴ひイタリイから攻撃を加へられるときは、各國はこれに對抗するため相互に協力を與へることを約束しなければならなかつた。従つて地中海に於て英・伊が衝突したとしても、フランスは必ずしもイタリイの眞の味方たることを期待しない状態であつたが、これに反して國際聯盟を脱退した身輕さもあつたけれど、ドイツはエチオピア問題をめぐつて終始イタリイに好意を示し、昭和十一(一九三六年)年七月、ドイツは塙國について列國に先だち、イタリイのエチオピア併合を承認した。そしてかうした關

係は、獨・伊をして自然に接近せしむる機縁となり、つひに獨・埃關係の改善となつた。即ちこの月ウイーンに於て獨・埃新協定が成立し、ドイツは埃國の完全な主權を認め、相互に相手國の内政に干與せざることとし、埃國は一般政策並びに對獨政策上ドイツ民族國家たるの事實にふさはしき原則的方針に基づき行動することを約した。この協定はムッソリニの斡旋によるものと傳へられるが、獨埃合邦への途を開いたものとして注目せられ、殊にイタリアが中歐に譲つて地中海政策に全力を注ぐに至つたことは、後の歐洲情勢に至大な影響を及ぼした。蓋し地中海はイタリアにとつて、死活のつながる生命線である。イギリス及びフランスにとつては、それは單に交通路に外ならないけれど、イタリアは長靴型に地中海の中央部に突出し、その半島部の肥沃ならぬ地方の過剩人口を移すにも、またこれを養ふ物資を補給するにも、途はすべて地中海に通ずる。従つて昔のローマがカルタゴを壊滅した如く、アフリカに足場を得て地中海をイタリアの湖沼たらしめんとするのは、單なるムッソリニの野心ではなし

に、それは全イタリアの國民的要望であつた。同盟國たりし獨・埃を袖にして、第一次歐洲大戰に聯合國側に立つて參戦し、甘んじて裏切者の名をうけたのもそのためであつたが、しかし勝利の結果として與へられた分配は決して公平ではなかつた。しかも英・佛はアフリカに於て廣大なドイツ植民地を分けどりしたばかりでなく、トルコ領さへもそれぞれ配下に收めて、地中海に於ける地位を著しく強化した。ジブラルタルからマルタ、スエズと、むしろイギリスの湖沼化した地中海に義憤を感じつゝ、血路を求めてエチオピア攻略を決行したのである。イタリアのエチオピア併合は、むしろその事によつて暴露せられた事實に注目すべきで、國際聯盟は重大な自己批判の機會を與へられ、もはや蘇聯の加盟位の彌縫手段を以ては補強の効果がなくなり、ナチスの前進に伴ふベルサイユ體制の崩壊と共に、ヨーロッパに於ける舊秩序が清算を要求せらるゝ破目に陥り、殊に海軍國を以て自任したイギリスが、地中海に於てさへ睨みがきかなくなり、ヨーロッパに於て鼎の輕重を問はれるに至つたことは、北方から

蘇聯が一般問題に介入發言するに至つたことと相俟つて、新しい體制に對應する新しい秩序の胎動を意味するもので、もはや單なる現状維持を以て收拾し能はざるものであつた。慧眼なるムッソリニは、エチオピア遠征によつて得た現實的な國內的安心と在來の行きがゝりにとらはれることなく、新しく展開されたイタリーの運命と環境とを、巧妙な外交手段によつて新しい適應への道を開かうとし、イデオロギー的にも相近く、それに同じ持たざる國として共通の悩みをもつドイツに接近することとなつたのである。聯盟に於て嘗めた孤立の苦杯、經濟制裁を通じてうけた屈辱、イタリアはこれあるがために、眞に未來あるドイツと手を握るに至つたのである。

勿論人民戦線や國際聯盟を通じての蘇聯の活潑な進出、スペイン革命をめぐる歐洲の風雲、さうした客觀的情勢が、共產主義をまたユダヤを排撃するナチスとファッシとを歩み寄せずには置かないものがあつたことも事實である。スペインのソビエト政府と稱せられた極左の人民戦線内閣に對し、革命軍の首腦者は右翼系のフランコ

將軍であつて、ドイツは軍艦をモロッコに派遣し革命軍を支援してフランスを愕然たらしめ、蘇聯はスペイン政府に同情して援助義金を募集して送り、スペインの禍亂がやがてヨーロッパを掩ふ妖雲となり兼ねまじき形勢を示して來たので、フランスは列國に呼びかけて九月スペイン内亂に對する不干渉委員會の組織に成功したけれど、會合に顔出した蘇聯委員は、獨・伊・葡の三國が武器及び義勇兵を送つて革命を援助するの非を鳴らし、自由行動をとるのやむきに至るべきを述べて脱退の意をほめかし、獨伊は蘇聯こそ不干渉に關する申合に違背するものとし、こゝに深刻な對立を示すに至つた。そして昭和十一年十月イタリー外相チアノ伯がムッソリニ首相の旨をうけてベルリンを訪問の結果、イギリスの企てつゝある平和保障の新ロカルノ會商に對して獨・伊兩國が同一歩調をとること、中歐ダニエトプ問題については獨・伊兩國緊密な提携を以て進み奧國に有利な積極的結果を期すること、スペイン内亂に於てはフランコ將軍の組織する新政府が國民多數の支持をうけ且つ従前の無政府状態から新政府の

手により秩序が回復しつつあることを確認せること、ボルシェビズムの脅威に對し獨伊兩國は全力を集中してヨーロッパ文明の神聖を防衛すること等の諒解に達し、國際聯盟に對しても種々検討する所があつた。その結果急速に新しい局面が展開し、十一月ウイーンに於て伊・塙・洪三國の新議定書が成り、獨・塙關係を始め中歐及び歐洲全般の形勢につき腹藏なき意見交換が行はれると共に、塙・洪兩國に對し軍備均等の原則を承認し、そのエチオピア開發に参加せんとする希望を十分に考慮することとし、塙・洪兩國はイタリー國王兼エチオピア皇帝エマヌエル三世のために乾杯した。ついでポルトガルはスペイン人民戰線政府に國交斷絶を宣し、十一月獨・伊兩國は首府マドリツド攻撃に従事しつつあるフランコ將軍のスペイン革命政府を承認した。かくてスペインを舞臺として人民戰線政府を支援するコミンテルン蘇聯、革命政府を援助する國民主義の獨・伊の對立から、ヨーロッパの平和は危殆に頻するに至つたため、デモクラシー陣營の英・佛が専らこれを調停せんとし、革命亂に對する不干涉から調

停方につき蘇・獨・伊・葡の諸國を誘ふことに努め、殊にスペインではイタリーより参加せる約六萬、ドイツより参加せる約二萬五千の義勇軍が、外國部隊として、また蘇聯の操縱する空軍と共に、スペイン本國軍よりも以上の働きをなしたから、義勇軍の禁止撤收が中心問題となり、昭和十二年一月、イギリスはイタリーと紳士協定を結び、地中海に於ける英・伊兩國の領土的現状維持を約し、各自の地中海に於ける權益を尊重してその航海の自由を阻害せざることとし、イタリーをドイツから引離すことには成功しなかつたけれど、スペイン革命軍と結んで西領バレアリック群島を占據する意志なきことを確め、暗にイタリーのエチオピア併合を承認し、イタリーの歡心を買ふと共に、二月十五億磅（當時邦貨二百五十五億圓）を投じ陸海軍空軍全般に互る再軍備五ヶ年計畫（一九三七—一九四一）の膨大な國防案を公表し以て植民地返還を求めつつあるドイツにも備へる所あるを示し、特に三月中旬イタリー義勇軍を主とする革命軍が、グアダハラハラ附近に於て一敗地に塗れ、革命軍の氣勢が少からず殺がれる等のこ

ともあつて、戦線が膠着状態に陥つたから、義勇軍禁止・不干涉監視の議がまとまり、四月下旬から英・佛・獨・伊の四國軍艦が監視任務を分擔した。しかし間もなく五月末監視中のドイツ軍艦が政府軍の空襲をうけ、六月またドイツ軍艦が國籍不明の怪潜水艦に襲撃せられ、獨・伊は不干涉監視隊から脱退して革命軍の交戦團體權承認を要求するに至り、その後またスペイン近海で英船も襲撃せられて地中海の不安がつゞき、八月にはチェッコスロバキヤがポルトガルの註文せる武器の輸出許可を與へないといふ廉で、ポルトガルはチェッコに對し國交斷絶を通告するといふ場面まであらはれた。その實日本に挑戦した支那が、財政部長孔祥熙をしてチェッコに對し莫大な兵器購入を契約せしめたためであつたが、この頃フランスはフランスの危機に直面し、財政全權法案をめぐつて政府・議會の正面衝突となり、急進社會黨のシヨータンにより組織せられた新人民戦線政府が、終にフラン貨切下を斷行して一時の急を凌いだやうなわけで、ついで世界の視聽が支那事變にひきつけられ、九箇國條約關係國會議、國際聯盟

など、肝腎な主人公日本を逸して小田原評定をつゞける間に、スペインでは革命軍が勢力をもち返し、ベルリン・ローマ樞軸はいよいよ固く結びつけられた。

これを獨・伊の動きに見るに、昭和十二年二月ドイツのノイラート外相はウィーンを訪問し、獨・墺兩國の通商關係を促進することにつき盡力し、ナチスと反ナチスとの示威運動が交錯する街を眺めながら、獨・墺・洪・伊四國同盟の濼踏みをなし、四月空相ゲーリングもローマを訪問、獨・伊兩國の軍事同盟、ファシスト國家の相互防衛のため産業一體化の方策につき談合する所があつた。ムッソリニが墺國首相シュニツクをベニスに招致して、中歐諸國の組織や復興に、ドイツの參畫なくしては到底實現不可能なることを説き、ハプスブルグ家の復辟を計畫して獨・墺合併の鼻をかさうとする反獨的なシュニツクをたしなめたのも四月下旬で、墺國がイタリアの衛星として満足するかそれとも獨・墺合併に進むかにつき明かなる指示を與へ、復辟を斷念させ經濟上からともすればチェッコに接近せんとするのを制し、對獨關係を

改善すべきことを勧告して埃國に引導を渡した。されば五月ノイラートは再びローマを訪問し、歐洲の一般情勢につき隔意なき意見の交換を行ひ、特にその平和を確保するためにはスペイン問題の解決を先決要件とすべく、獨・伊樞軸の強化がその最捷徑なりとの結論に達したが、埃國問題については全く相關せざるかの態度だつたので、巷間では軍事同盟が討議せられたやうな取沙汰が専ら行はれた。ついで九月ムツソリニ首相は「國外不出」の慣例を破り、ドイツを訪問して大歓迎をうけ、ヒットラーと共に國防軍大演習を統監し、獨・伊兩國はボルシェビズムを克服し世界の平和と歐洲の文化とを確保するために協力すべく、場合によつては武器をとることも辭せざる決意あることを表明し、ヒットラーと固き握手を交して歸國した。その手は嘗てベニスで冷やかに事務的に握られたものと違つて、眞に血が通ふ温かいもので、ベルリンとローマはかくして固く結ばれた。勿論この間にも、八月イギリスのチェンバレン首相は、ムツソリニ首相に親書を送つて、英・伊兩國の親交を希望し、九月英・佛首唱の

下に、地中海沿海諸國がスイスのニヨンに會し、地中海不安を除くために協定する所があり、せめてイタリーの關心をデモクラシー陣營に繋がうと努めたが、これに對するイタリーの態度は冷然たるものであつた。

かうした獨・伊樞軸の結成に際して、それが東京へ通ずる緒が開かれてゐたことは、勿論看過することができない事實である。滿洲國をはさむ日・蘇兩國の對立がいさゝかも緩和せられず、それに支那の赤化抗日に直面しなければならなかつた日本と、佛・蘇相互援助條約にはさまれ、スペイン・フランスの人民戦線の動きに制せられるドイツと、共通の利害の上に立つて日獨防共協定の成立となつた。それと殆ど時を同じくして、日本はエチオピアに於ける公使館を撤去し、イタリーがエチオピアに於ける日本の通商その他の權益につき好意的配慮をなすといふ日伊通商取極が成立した。この頃蘇聯は新憲法を採擇したが、しかし翌昭和十二年一月末には、ジノビエフ等合同本部と並んで反幹部派の並行本部を組織し、トロツキーの指令をうけて外國侵略者（實

は日本を指す)を援助し、蘇聯への軍事的攻撃を促進する陰謀を企てたいといふ廉で、ピアタコフ等十三名が刑殺せられ、六月にはトハチエフスキー元帥以下の赤軍幹部が、外國の軍事的諜報機關の手先となり、赤軍の實力を低下する破壊行爲を策謀せりとの廉で血祭にあげられ、國內物情不安のうちにもスペイン及び支那に對する援助は依然として繼續した。かくて六月北滿乾岔子^{カンジャス}を不法に占領して日滿軍と衝突し、機をねらつてゐた北支の抗日軍に開戦の口火をきらせて、七月つひに支那事變が勃發した。そこで蘇聯は八月下旬支那と不侵略條約を結び、戰爭否認を標榜して日本に當りちらし、兩國とも相手國を不利にしてその侵略國を援助するが如き行爲をなさざることを約し、抗日戰線を強化して日本をひきつけ、長期抗爭の間隙に乗じて支那内部の共產勢力の擴大をはかり、平和を標榜して日本を非難し以て英・米・佛に接近する縁をつかまんとし、ついで國際聯盟や對支九箇國條約關係國會議なども開かれ、列國は日本に對する紙の爆撃を敢行した。かゝる間にもイタリーは、そのエチオピア戰爭當時、五十餘

國の壓迫をうけながら日本の表示した好意を忘れ得ないで、十一月欣然こゝに日獨防共協定に参加し、ついで滿洲國を承認して、モスコイを源泉として支那とスペインとに汎濫せんとする赤色洪水の防止に挺身すると共に、日本に對し集團的壓迫を加へんとする列國に對し冷水三斗を浴せかけた。そして日本軍が南京を攻略した十二月には、イタリーも國際聯盟を脱退して、世界に於ける新しい秩序建設への第一歩を踏んだのであつた。

一〇. ドイツ・オーストリア合邦

昭和十(一九三三)年十一月、ムッソリニ首相がミラノで獅子吼し、軍縮と集團的安全保障とをこき下して幻惑・低劣・譎詐を以てウイルソン主義の破船を追ふものとなし國際聯盟の自滅すべきを説くと共に、言外にイギリスの外交を諷したことがある。由來イギリスの外交は現實的御都合主義で大戰以後ドイツの國力が衰へつゝある間、戰

争中の友邦フランスの高壓政策を抑へて、ドイツの復興を援助した。蓋しドイツの經濟的復興は、やがて英國産業の顧客を得る所以であり、對獨高壓政策が強ければ強い程ドイツ國民を衰弊せしめ、フランスの大陸制覇を招致して歐洲の均勢を破り、ドイツの復讐心を刺戟して、却つて戰禍の種を蒔くものと考へたのである。同じ手でアジア・太平洋に於ては、支那の復興をたすけ、また米國と手を握つて日本抑制につとめ、軍縮と集團的安全保障との機構を以て、巧みに自國を利用する現状維持の方策を進めた。しかしそれが御都合主義であるだけに優柔で左顧右眈的であり、ともすれば機宜を失して後手となつた。これに對してフランスは歐洲の弱小國をつらねて盟主となり、これを糾合してドイツを包圍し牽制することを外交政策の基礎とし、その補強として佛蘇相互援助條約や佛伊協定を以てした。これはイギリスの御都合主義に對する反感から發したものであるが、しかしイタリー・ドイツの興隆に對して依然フランス中心の安全保障主義を固執し、殊に蘇聯と結んで内に人民戰線派跳梁、社會革命の進行、内

政及び社會的經濟的不安の深化を招き、外からの國民戰線の進攻に對しても積極能動の力を失ひ、イギリスの優柔さと共に、退嬰凋落を思はしめるものが多かつた。ヨーロッパに於てはドイツのベルサイユ體制破毀の進出、イタリーのエチオピア攻略、東洋に於ては日本の軍縮條約廢棄、滿洲及び支那に對する進出、どの一つを拾ひ上げて見ても、英・佛乃至その支持する國際聯盟等の權威を重からしめたものがなかつた。そしてかゝる英・佛のにらみが利かなくなつた結果として、まづ歐洲に於ける群小國の動搖を見ることゝなつた。

昭和十一年六月列國がスイスのモントルーに會合、ローザンヌ條約後の事態の變化が、海峽制度の根幹たる集團的安全保障制度をして機能を發揮する能はざるに至らしめたといふトルコの要求を承認し、トルコの安全のため海峽地帯の武装を許し、これを通過する艦船に一定の制限を設け、海峽委員會を廢止することゝしたモントルー新海峽條約の成立もその一つである。オーストリア・ハンガリーがドイツに接近して、

獨・伊をつらねる中歐の連結が成つたのもその一つである。ダンチヒに於けるナチスの擡頭もその一つである。フランスを盟主と仰ぐ小協商國の一員として、昭和二年フランスと同盟條約を結び年來イタリーと反目し來つたユーゴスラビヤが、昭和十二年三月ベルグラードでイタリーと協約を結び、相互にアドリヤ海並びに國境の現状を尊重し、兩國互に戰爭行爲に訴へず、一切の紛争は平和手段により解決すべく、國境紛争により兩國共通の利益が脅威せらるゝ場合、これを防衛するための共同措置につき協議することとし、相互の通商關係を促進する取極をなし、イタリーのエチオピア併合を承認したのもその一つである。さなきだに獨・伊の接近により、フランスとの連絡を失つた小協商國のことであるから、特にドイツの脅威を感ずること甚しくて親蘇的なチェッコスロバキヤの大統領ベネシュは、四月ベルグラードに赴き、また六月ルーマニヤ國王カロール二世が、チェッコの首腦部をブカレストに招請し、ついでルーマニヤの首相・外相と袂を連ねてユーゴスラビヤを訪問し、小協商相互の協調政策

を繼續することとしたが、コミンテルン嫌ひのルーマニヤには、ナチス系の鐵衛團が勢力を伸張しつゝあつたこともその一つである。大正九年フランスと同盟を結びドイツの再軍備宣言やライン進軍にも、イギリス・フランスと共に對獨作戰を練つたベルギーが、昭和十一年十月中立還元を宣言して國防充實に力め、翌年三月英・佛と直接折衝を行ひ確定を見、小國として防衛を全うすることと、大國間の戰爭の卷添を食ふのを避けることとををはかり、ロカルノ條約の羈絆から脱したのもその一つである。さうしたベルギーが、中立聲明一周年を期して、ドイツとの間に不侵略條約を結び、ドイツから完全なる主權下に於ける獨立と、侵略の目的となつた場合援助を受けることとを保障せられたのもその一つである。イタリーの指喉があつたか否かは問題であるが、エジプトに於ける反英運動のためイギリスが保護權を拋棄して獨立を承認したり、またフランスの委任統治領シリヤ、イギリスの委任統治領パレスタインのアラビヤ人の叛亂の如きもその一つである。否それはヨーロッパの小國のみではない。五月

一日に大統領の裁可によつて恒久的なものとして成立した米國の中立法の如きも、事實上ドイツ・イタリー・蘇聯・フランス等の介入する國際戦争であるに拘らず、内亂の形をとつてゐるために、スペイン向の武器禁輸を行ふことができない舊中立法を改正し、西半球を除く外國の紛争・内亂・戦争に超然中立を守らんとする意志表示をしたもので、大統領は交戦團體並びに内亂勃發國に對し何時にても軍需品の輸送を禁止し得べく、武器以外の軍需品についても輸出制限の裁量をなし得ることとし、交戦團體のため公債應募及び融資を禁止し、交戦團體が米國から軍需品を購入するに當つては現金取引、自國船輸送主義をとることなどを規定した。かゝる新中立法は、米國の歐洲問題不介入を豫定して、却つて戦争刺戟の逆効果を發揮したとも見られるが、とに角第二次歐洲大戰の勃發を恐れ、これに備へたものであることは言ふまでもない。特に獨・伊樞軸が強化せられ、それが東京にまで結合せられると、さすがのイギリスも十一月樞相ハリハックスをベルリンに派遣し、ヒットラーを訪問してドイツの意嚮

を打診せしめた。その會談の内容は公表せられなかつたけれど、ドイツ植民地返還、中部及び東部ヨーロッパに對する英國の不干渉、ヨーロッパ國境の變更、イタリーのエチオピア併合承認などにつき、ドイツからイギリスに對して原則的承認を求めたと傳へられ、ついでこれを基礎として十一月末ロンドンで英佛會談が行はれ、併せて支那及びスペインの問題をも討議した。ついで十二月フランス外相デルボスもドイツを経てポーランド・ルーマニヤ・ユーゴスラビヤ・チェッコスロバキヤ等を歴訪し、小協商國の動靜を検討して、依然これを味方として自國につなぐ方策をめぐらした。けれども時は獨・伊樞軸に味方し、重點はロンドン・パリを去つた。昭和十三年（一九三八年）一月、ハンガリーの首都ブダペストに於て、伊・壘・洪三國會談が開かれ、壘・洪兩國はイタリーに倣ひスペインのフランコ政權を承認すること、日・獨・伊防共協定には参加せざるもこれに同情を表し國內的に防共につとむること、國際聯盟は英・佛・蘇の一方的機關となつたから、兩國は對聯盟關係を篤と再検討することなど

を協定し、且つハンガリーに完全な軍備均等権を再確認した。またドイツに於ては二月軍制の大改革を行ひ、ナチスと國防軍との間に横はる溝を埋めて、ヒットラー自らドイツ全國軍の最高指揮権を握り、國會を召集して機構改革後のドイツの内治・外交方針を宣明し、滿洲國を承認して日本の勝利を希望し、國際聯盟には斷じて復歸せざる旨を述べ、他方オーストリアのシュシュニツク首相をベルリンに招致し、奧國內閣にナチス黨員を入閣せしめ、これをナチス化せしむることを要求したので、奧國內閣は親獨的に改造せられ、さきにドルフス首相暗殺事件に關與したナチス黨員約五千名も釋放せらるゝことゝなつた。この頃イギリスではとかく觀念的に傾くイーデン外相が退いて知獨派の實利主義者ハリハックスがこれに代つたが、三月に入り蘇聯では右翼偏向及びトロッキストブロックと目せられるブハーリン、ルイコフ等十八名が、日・獨・英・波の四國諜報機關と通謀し、社會主義國家の傾覆を策し、經濟建設の破壊妨害をなせりとの廉で死刑に處せられ、フランスでは再び財政難、フラン貨の危機に直

面して政變が起るといふ間に、奧國首相シュシュニツクが奧國獨立存否を國民投票に問ふ旨突如宣言を發したのをきつかけとして、電光石火獨・奧合併の實現を見るに至つた。蓋しシュシュニツクとしては、その頃急激に旺盛となつたナチス化運動に先手を打つて、一木よく大廈を支へんとした焦慮の結果であり、苦肉の計でもあつたが、ために國內ナチスの憤慨を買ひ、つひにドイツの支持をうけたナチスの重鎮で内相たりしインカートにその地位を譲らざるべからざるに至り、ナチス内閣はドイツ國防軍のオーストリア派遣を求め、ヒットラー自ら自動車に投じてリンツに來り、インカートとの間に合邦の手續を完了して、この平和革命に最後の仕上げをなし、更に市民の熱狂的歡迎裡にウイーンに入り、ついで飛行機に投じて嵐の如き「ハイル・ヒットラー」が待つてゐる感激の都ベルリンに歸つた。

由來奧國は種々雑多な民族を包容してはゐたが、オーストリアは金融の中心として、ボヘミアの鑛・工業、ハンガリーの農業と結合し、經濟的には統一體を形成して

ゐた。然るにサンゼルマン條約はこの有機體をバラバラに解體し、オーストリアは資源の大部分を失ひ、經濟的には全く不具な人口六百五十萬の小國となつた。従つて大戰後のオーストリアは、ドイツと合併するか、それともハンガリーと關稅同盟を結ぶ外に、經濟的自立の途がなかつた。そして獨・澳合併は、大正七(一九一八年)十一月、オーストリア國民議會が可決したに拘らず、ベルサイユ條約・サンゼルマン條約共にこれを禁止した。また後者もハプスブルグ家復辟、澳洪國復活の前提として、フランス及び小協商國の不斷の反對のために成立し得なかつた。ついで英・佛・伊や國際聯盟は、澳國に財政的援助を與へて、挫けかけた腰をのぼし獨立への補強とした。昭和六(一九三一年)三月突如獨・澳關稅同盟が發表せられた時にも、フランスの頑強な反對により成立しなかつた。勿論人口四千萬のイタリアも、人口六千六百萬のドイツが、更に六百五十萬の澳國を併せてブレンネルを國境とすることに不安を感じ、また小協商を味方とするフランスに對し、獨・洪を味方として均勢を保たんとし、昭和九(一九三四年)

七月オーストリアナチスがイタリア統一の故智にならひ、内部にナチス運動を展開してドイツと呼應せんとし、ドルフス首相を暗殺した時にも、ムッソリニの睨みがきいてドイツが手を引き、ナチスの暴動も鎮まつた。シュシュニツクはかゝる勢を利用して、ドイツの進攻を防衛して來たが、しかし獨・伊樞軸の結成は、イタリアをして中歐に於てドイツに讓歩せしむると共に、ドイツはイタリアの地中海政策を全幅的に支持する態勢をみちびき、昭和十二年二月獨・澳協定成立を境として、オーストリアはこゝにドイツと合併すべく運命づけられたのであつた。如何なる強國も他國が第三國を犠牲にして力や領土を獲得することを容認しないのは、これ等の利益が常に相關的であつて、一國の強大は他國の弱小を意味するからである。かゝる理由で強國はいづれもその敵對國と向ひ合つて、より弱い國の獨立保持に利害關係を有してゐる。そしてこれ等の利害關係は屢々多邊的中立協定或は相互保障協定の形式に於て表現せられるが、それ等の諸協約は力又は利益を目指しての必死の争鬭に對しては、往々にし

て單に一片の紙屑となり去るのである。もとより「民族自決權に基づきすべてドイツ人（民族上の）を糾合して大ドイツを建設すること」はナチスの政綱の冒頭に掲ぐる所で、「國防の第一線をライン河」に置いた筈のイギリスも、チェンバレン首相は「今回の獨・塊合併は明かにヨーロッパの平和に大打撃を與へたものであり遺憾に堪へないが、わが英國をはじめ他のヨーロッパ諸國に、武力に訴へる用意がなかつた以上如何ともなし難い」と下院に於ける演説で率直に認めた。否イギリスはむしろ戦はないで勝つ策謀をめぐらしてゐた。即ち聯盟以來私的會談の雄たる駐伊英國大使パース卿ドラモンドをしてイタリー政府と交渉せしめ、獨・塊合邦の賛否を全ドイツ人に問ふ歴史的國民投票が、オーストリア州を含む新ドイツ全國に互つて執行せられ、豫定の如く「ヤー」の返答が壓倒的多數を占めたことを世界に公示しつゝあつた四月中旬、ローマでは英・伊協定が成立し、兩國は昭和十二年一月の英・伊兩國の地中海に關する宣言を再確認、相手方を誹謗するが如き宣傳を行はざること、サウデアアラビヤ及

びイエーメン等の領土保全を尊重すると共に、英は南アラビヤ地方及び紅海島嶼の軍備を停め、伊はリビヤ及びスペイン義勇軍の撤收を行ふこと、地中海・紅海に於ける行政機構の改革、兵力配備の變更、海・空軍基地の新設を互に通報すること、伊はバレアリック群島に何等特權獲得の意志なきを保障し、英をしてエチオピアに於ける伊の主權を承認するため國際聯盟に提案盡力をなさしむること等を約した。勿論會談の途中オーストリア問題につき英・伊提携して獨立を保障することも話題に上つたが、それはヒトラーの周到にして神速な行動のために自然に消滅した。蓋しチェンバレンとしては、ロイドジョージ翁からラブレターと嘲けられた前年八月の對ムッソリニ友誼的親書の果實を收め、イタリーを抱いてドイツから遠ざけ、若しくはこれを通じてドイツをも仲間づれにしようとしたが、一方英國との協定を遂げながらも「民主主義國家は獨伊兩國の緊密なる連帶に水を差さんと試みたけれど、ベルリン・ローマ樞軸はこれ等列國の希望に反して、いよいよその連帶を強化し、如何なる事態に直面し

ても獨・伊の提携は絶対に破れることはない」と空うそぶき、歐洲の地圖を一變した獨・埃合併を以て、「連帶の強靱性を全世界に立證した」ものと長廣舌をふるふムツソリニであつた。ドイツ軍のライン進駐にさへ、四十萬の陸軍動員を必要とし、これを行へば労働者の總同盟罷業を免れずとして機を失したフランスが、この頃シヨータンからブルムを経てダラダイエへ、苛辣な政争と社會不安との上に短命な内閣が走馬燈の如く變化し、つひに五月上旬フラン貨再切下にまで發展し、また他をかへりみる暇がなく、僅かにイギリスの袖にすがつて憐愍を求め英佛軍事提携を策して肩を休めたが、かゝる英・佛の狼狽と焦慮とを尻目に、五月上旬ヒットラーはローマを訪問、隣接國となつた御挨拶旁々世界環視のうちに、獨・伊樞軸を一層強く括り束ねた。

一　一　ミュンヘン協定

それが強ち老大國の凋落とか新興國の發展とかいふものではないとしても、最近ヨーロッパの外交を通じて、ドイツとイタリーとは讓歩することなくして強く主張し要求し、イギリスとフランスとは妥協と消極的退嬰とを事として來た。蓋し持てば持つ程これを維持する心配と困難とが増加するが、同時に生活の安定飽滿から來る無氣力、頹廢も免れない。それが事勿れ、平和といふ代名詞である。これを平均年収入について見るも米國人は日本人の約八倍、フランス人は五倍、ドイツ人は四倍を取得する。世界の金を吸収した最富國の米國は、ニューデールの注射劑に中毒して、もはやドクトルルーズベルトの相つぐ注射に興奮しなければ生きられないへ口患の症狀を呈して來た。フランスは人民戦線派の社會立法下に、國民の活動力が低下し、産業は萎靡して無氣力に陥り、イギリスは機構の古さ、高價で非能率的な生活の故に、新興勢力に對抗する力を失ひ、要するにデモクラシー陣營を通じて頹廢と停滯とを免れざる有様となり、高度な機械文明と煉瓦とモルタルとをもつ國程、行詰りと精神的墮落と没落

の因子とを内包することゝなつた。勿論持たざるものにも不満と懊惱とがある。しかしその不足と缺乏とは精神の奮起を促し、創造力を刺戟する原動力となる。萬難を排して遠大な理想實現に邁進する無限の發展力が生れる。バーナード・ショーが大阪で街の小路から出入する日本人を見て、鼠のやうに狭苦しい所をコンコンしてゐると評したが、なる程そこには飽満した腹を抱へて日向にスヤスヤと眠る猫の持久力もち合せないかも知れないが、明日の世界をつくる活動力があり、それが防衛の場合にでもなると、却つて猫を嚙むやうな積極性を發揮する。活力氣力ある鼠は、もはや因循にして安逸をむさぼる猫には捕へられなくなつた。同じく破壊を防ぐための體制にしても、國際聯盟乃至ロカルノ條約と防共協定とを比較すれば、そこに明かなる差別相が看取せられる。

かうして持てるものが持たざるものと角逐しなければならぬ運命に置かれた時、これに對する途は慰撫、施與、偽瞞、恫喝など幾つかかぞへられるが、さうして自ら

傷つかずして相手に打撃を與へ得なくなつた時、選ばれた手段はもうそんなに澤山は残つてゐない。殊に相敵對する國家間に於て、これに最後に裁決を與へるものは常に戦争であつた。世界の全歴史を通じて、戦争は國家を建設もし進歩もさせ停滞も破壊もしたが、各國間の勢力關係の根本的な再調整は何時も戦争の試練を経てもたらされた。いづれの國家も他國と比較して自國の相對的勢力を高めること、勢力を表現する特權を増加すること、將來の勢力角逐に當つて競争相手に自國の意思を強制し得るやうな地位と力を保有すること、それが外交なり戦争なりの終局目標であつた。従つてファッシ陣營とデモクラシー國家の對立、持てる國と持たざる國との角逐も、いづれはさうした結論に導かるべき運命に置かれたもので、いろいろな和協の手段を講じつゝも、しかし世界を通ずる軍備擴張時代を現出することゝなつた。ヒトラー政権が樹立せられた昭和八年度から昭和十一（一九三六）年度まで四箇年間に、ドイツが國防及び國防軍整備に投じた國費は、實に三百一十一億マーク（二十五億磅に當る）にのほ

つた。エチオピア戦争に吻を容れイタリー空軍に脅かされ、ふるひ上つたイギリスは昭和十一年度から五箇年計畫十五億磅の再軍備實施にとりかゝつた。その東洋に於ける地位を強化し、印度・濠洲などを自國につなぎとめ、日本をも脅威せんとするシンガポール軍港は、最新式裝備、太平洋最大の誇りつゝ昭和十三年一月に竣工した。昭和九年に成立した米國の第一次ビンソン(下院海軍委員長)案は、いはゆる條約量の建艦をなす計畫で立てられたが、昭和十三年更に第二次ビンソン案が成立して約二割方増強せられ、大艦巨砲本位の遠洋作戰艦隊を整備し、昭和十七年までに依然五・五・三の比率による優勢海軍を建設して、一は對英均等世界第一の虚榮心を満足せしむると共に、一は太平洋根據地の整備と併せて日本を抑へようといふ國際的にも一石二鳥のたくらみを進めてゐる。その他蘇聯も經濟建設と稱しつゝ實は國防産業を充實、滿蘇國境の防備を固め、肅清後實力が低下した赤軍を強化し、またイギリスと協定して浦鹽斯德に潜水艦隊を浮べ、財政難のフランスも國境方面にマジノ要塞を築造すると

いふ風で、世界經濟が軍備擴張のための財政インフレに蘇生するやうな時代をあらはした。従つて民族復興の經綸に燃ゆるヒットラーは、相手の腰が定まらぬうちに、仕切つて立上つたのであつた。

支那に於て徐州攻略を目ざして皇軍がはてしなくつゞく麥畑の間を馳驅しつゝありし昭和十三年五月、ヒットラー總統がローマを訪問してムッソリニ首相と交歡を遂げてゐたが、はしなくもズデーテン地方不穩のニュースが傳へられた。ドイツの埃國併合の結果、チェッコスロバキヤのボヘミヤ地方は、その三面がドイツ領土により包圍せらるゝと共に、ドイツ側から見れば要塞によつて固められた國境をもつボヘミヤは、空軍によるドイツ攻撃の最良の基地となつた。従つてオーストリアの次にドイツの注意がチェッコに向ふべきは、具眼者の一致した見解であつた。殊にチェッコスロバキヤは、舊埃領のボヘミヤ・モラビヤ・シレシヤと、舊洪領のスロバキヤ・ルテナヤとを割取して、民族自決の名により無理につくり上げられた國であるだけに、大正十三

(一九二四)年フランスと同盟を結び、領土保全及び歐洲の現状維持などを約し、また大正十(一九二一)年ルーマニヤ・ユーゴスラビヤと小協商を結んで奥・洪に備へ、昭和八年更にこれを緊密にして三國相互に共通的外交政策を行ふこととし、鐵道及び關稅などを通じて經濟會議による統一をはかることを約し、同十年には蘇聯と相互援助條約を結んで、ドイツの東進に備へた。然るに一千四百七十萬の總人口中、治者民族たるチエッコ人、スロバツク人は九百六十八萬(六五・五%)をかぞへるものゝ兩者必ずしも親和するわけでなく、殊にドイツ境のズデーテン地方を中心とするドイツ人三百二十三萬(二三・四%)、洪國境のマジャー人七拾萬(五・六%)の被治者たる少數民族は差別的に待遇せられ、ヒットラー出現後ドイツ民族に對する壓迫が目立つて來たため、コンラド・ヘンラインのひきゐるズデーテン・ドイツ黨はドイツのナチスと氣脈を通じ、地方自治權を要求し始めた。そして現地及びドイツ國境の風雲が次第に險惡を加へて行つた。

これよりさき四月末英・佛兩國の首相・外相がロンドンで會談し、スペイン問題、對獨問題、東亞問題などにつき意見を交換したが、特に軍事上の提携に關し、空軍については兩國のものを統制して敏活に一團となり活動することを期し、フランスは飛行基地につき英國に便宜を與ふべく、海軍はフランスは地中海、イギリスは大西洋等を擔當することとし、勿論チエッコ問題にも言及したが、フランスが獨立保障を援助して防衛すべきことを強調したのに對し、イギリスはチエッコの少數民族の和協に盡力すべきことを約した。ついで七月中旬英國皇帝ジョージ六世は外相ハリハックス等を従へ、フランスを訪問せられて大歓迎をうけ、ハリハックスとフランスのダラディエ首相及びボンネ外相との間に、英・佛軍事提携強化案、對チエッコ問題、スペイン問題等歐洲全般の懸案につき凝議し、從來大陸の問題に不即不離の態度をとつて來たイギリスも對佛協調に積極的に乗出し、英・佛・獨・伊を合む四國協定を成立せしめ、獨・伊樞軸の結成により破壊せられた歐洲の平和を再建せんとする目論みを進めるに

至つた。そしてランシマン卿をプラグに派遣し、チェッコ政府とズデーテン・ドイッ党との和協に盡力せしめたが、共にその主張を固執して容易に譲らず、この間ドイッは召集豫備兵を含む百三十萬の國防軍を動かして陸軍大演習を行ひ、労働奉仕の四十萬の勞力を使用しフランスのマジノ線に對し西部國境にジグフリード要塞線を仕上げんとするなど、巧妙な示威的態度に出たので交渉が遷延し、八月ハンガリーのホルテイ攝政もドイツを訪問し、自國民の自治要求につき相互に支持すべく獨・伊樞軸に接近隨伴する傾向を示したから、小協商三國もユーゴスラビヤのプレットに會談を行ひ、ハンガリーに軍備平等權を認めることとしてその引留工作を講ずるなど、問題が複雑化すると共にドイツ・チェッコ間の形勢は、まさに一觸即發の危機に直面するに至つた。そこで九月中旬チェンバレン首相は、ロンドン近郊のヘストンから飛行機でミュンヘンに飛び、ヒットラー總統をベルヒテスガーデンの山莊に訪問、直接談判といふ新しい手をうち、一旦歸國してフランスと打合せた上、更に下旬再度のドイ

ッ入りをなし、劍をかちやつかせるドイツを抑へ、ムッソリニ首相にも留男の役をあたがつて、九月末ヒットラー・チェンバレン・ダラディエ・ムッソリニ四巨頭がミュンヘンに會合、獨・英・佛・伊四國條約が調印せられ、チェッコもこれを受諾して、ズデーテン地方がドイツに割讓せられ、三百萬のドイツ民族がナチスの旗下にかへつた。かくしてヒットラーは又しても勝星を加へたが、チェッコの同盟國たる蘇聯が全く除外せられたのは、肅清工作後の内在的脆弱性もちながら、七月から八月に互り張鼓峰附近で日本軍に不法な挑戰を試み、列國の不評判を買つたといふこともあるけれど、さういふ機會を利用しながら共産主義を嫌ふヒットラーを相手に、相談のぶち毀しになる嫌はれ者には席をはづさせ、「參つた」といふ弱味も見せず、「降參した」といふ意氣銷沈の態度もあらはさずに、嘗て昭和八年聯盟規約及びロカルノ條約の補助として、イタリーが企て、フランスの反對により御流れとなつた英・佛・獨・伊の四國協商案を以てムッソリニに花をもたせ、形骸化した國際聯盟や集團的安全保障制に

代替し、奔放なドイツをその檻の中につなぎとめようとしたチェンバレンの融通無礙な現實外交の老巧さもなかなかどうして隅に置けないものであつた。かうして西に守つて東を攻めたイギリスも、宇垣・クレイギー會談で東を煙幕でぼかし、ポンプを専ら西に向けて火消し役に廻らねばならなくなつた、時に皇軍は揚子江をさしはさんで武漢に迫り、帷幄ではバイヤス灣敵前上陸、廣東攻略の作戦が練られてゐた。

由來民族問題はヨーロッパの鬼門であり痼でもある。それを認識してかしないでか理想主義者ウイelsonの唱へた民族自決の原則が、海千山千のロイドジョージやクレマンソーに逆用せられ、ドイツや奥・洪を叩きつけるため現實に適用せられて、獨り歩みのできないやうな群小國が製造された。そしてそれを連ねてドイツ包圍陣や奥・洪壓迫同盟をつくり、その盟主として歐洲に覇を制せんとしたのがフランスであつた。けれども獨伊の勃興は、さうしたフランスの指導的地位を追越してしまつた。そして今やフランスはイギリスに追隨して、その言ふまゝに動き、なす所を共にするよ

り外なき状態に顛落してしまつた。殊にズデーテン地方を加へて七千五百萬の人口を擁する大ドイツ國の出現に對し、フランス四千一百万の人口を以てしては、最早到底太刀打ができなくなつた。イギリスの四千四百萬と合流して、なほドイツ一國の人口に拮抗するに過ぎなくなつた。しかしさすがに英・佛軍事提携のために制せられて、用心深いヒットラーはその國防軍の演習が、輕々しくチェッコの境を超えることを許さなかつた。飽くまで強硬な主張をつゞけながらも、戰爭の責任を負ふやうな事態をひき起さないやう極めて細心の注意が拂はれてゐた。ためにチェンバレンはチェッコを犠牲にし、「人間はこの世に生れ落ちた時から日々のパンを求めて永久に鬭争すべく運命づけられてゐる。我等は與へられた才能と勇氣とによつて必要なものを鬭ひ取るより外に途がない」といふ「余が鬭争」を回避し、理性の勝利としてウエストミンスター寺に平和を祈念して日參した故國の民衆はもとより、世界からの感謝をうけた。しかしミュンヘン協定はそれ自體ベルサイユ體制の清算を意味するもので、同時にド

イツに備へた佛・チ、佛・蘇、蘇・チの三角同盟を吹き飛ばし、また小協商を弱體化せしめて、ドイツ東進の門戸を擴大すると共に、蘇聯が槍舞臺から除外せられたことは、ひとり蘇聯の憂鬱であつたばかりでなく、歐洲人民戰線派への大きなショックであつた。従來ヨーロッパを支配し來つた決定的要素は擧げて御破算となり、ヨーロッパには新しい秩序が要求せられた。そして崩れ始めたチェッコは停止する所を知らずに分解した。ポーランドはテシエン地方を接收し、ハンガリーも獨・伊の支持をうけて、國境に接するハンガリー人住居地域をチェッコに割讓せしめた。スロバキヤ人とルテーン人とは各自治政府を組織することを許した。かくて會談外交の雄として曾ては滿洲問題を組上にのぼせた國際聯盟の諸會合に於て、その敵本主義から必要以上の毒舌をもふるつて日本に當り散らしたベネシユは、その得意とした會談外交に一敗地に塗れ、大統領の地位を去つて孤影悄然、故國の山河を後に漂浪の旅に上つたのであつた。

一一二 チェッコスロバキヤの分解

「ワインスベルグの貞操な嬪共の物語」といふのがある。一一四〇年の末スタウフェン家のコンラド三世が、ワインスベルグ城を略取した時、城中の者共が叛逆の罪により死罪に當るべき所、特にコンラド三世の優誼で婦女だけは安全に立退きを許され、しかも肩にかけて持去り得るだけを運ぶことも許された。立退くに當り女共は自分の財産の代りに夫を負うて下城した。王は怒つて命令を取消さうとしたが、皇太弟フリードリヒは綸言汗の如しと諷したので、王は大目で見逃されたと言ふのである。ミュンヘン協定はイギリスの目ろんだやうに、英・佛・獨・伊の四國が提携して、ヨーロッパの平和維持の新機構へと進んで行くかのやうに見えた。しかしワインスベルグ

の女房達ではないが、ドイツは全チェッコを、イタリアはアルバニヤを、それぞれ背負うて、英・佛との共同陣營からすると脱出するに至つたのである。勿論それは千里の堤も蟻穴から崩れるの譬を地で行つたもので、そこまで行くには若干の曲折があつた。チェッコの次にドイツの食指の動く所を知るポーランドは、ミュンヘン協定以後英・佛の東方に對する關心がやゝ冷めかけたのを見て、ウクライナに類焼するのを恐れる蘇聯と手を握り、この年十一月さきに昭和七（一九三二）年五箇年の期限で調印し、その後一九四五年まで延長せられた兩國間の不侵略條約を再確認、兩國間の貿易を促進するため積極的努力をなすべきことを約した。しかしイギリスはドイツとの協調を策して、十一月下旬首相チェンバレン、外相ハリハックスが相携へてパリを訪問し、フランスのダラディエ首相・ボンネ外相と膝つき合せて隔意なき懇談を遂げ、また經濟的方面よりも民主主義國家の提携を以て全體主義國家群に對處する政治的意義に重きを置くべしと評せられた互惠的な英米通商協定をも成立せしめた。さればフランス

も亦多難な財政經濟の打開のため、新財政經濟再建案を樹て、フランを金量目千分の九百品位の金二七、五ミリグラムに再評價し、一週四十時間の労働時間制につき除外例を定めて經濟情勢の重大性に對應し、政費を節減し所得税を増徴する外、労働争議調停、失業對策などに互る各種の計畫を遂行せんとして、労働總同盟・在郷軍人團などの反對をうけ、つひに全國的總罷業の展開を見るに至つた。そこで軍隊の出動と公共事業公用徴收令を發布して、全くこれを彈壓し終り、十二月中旬パリでドイツのリッペントロップ外相とボンネ外相との間に、不侵略を基調とし、兩國の平和善隣の關係がヨーロッパの事態安全及び一般平和維持の不可欠の要件なりとする共同宣言が調印せられた。けれども十一月末イタリアの議會に於て、チュニス・コルシカ等のフランス領併合を希望する聲が起り、端なくも佛・伊關係が險惡に陥り、十二月中旬イタリアから昭和十年一月ラバル・ムッソリニ間に成立した佛・伊協定廢棄の通告をなすに至つた。されば昭和十四（一九三九）年一月イギリスのチェンバレン首相はハリ

ハックス外相と共にローマを訪問、種々協調に努力したけれど、思はしい効果を收め得ず、フランス首相グラディエは、一月親しくコルシカ・チュニスを訪問して、フランス全土の統一と領土保全とを期することを明かにした。この頃ポーランド外相ベック、ハンガリー外相チャーキーも相前後してドイツを訪問、ついでハンガリーは日・獨・伊三國防共協定に参加した。それに昭和十一年七月以來三年越しのスペイン革命が、フランコ將軍の革命軍の手でバルセロナが陥落し、一月末にアザニヤ大統領、ネグリン首相以下人民戦線派の要人が多くフランスに亡命し、内亂が事實上終熄して獨伊樞軸は又しても一つの勝星を加へた。

この時に當りチェッコスロバキヤは、ミュンヘン協定以後スロバキヤ人及びルテーン人をして夫々自治政府を組織せしめ、プラーグの中央政府は國防・外交・財政三省のみを保有したが、その後各自治州には外部からの刺戟も手傳つて獨立氣勢が次第に昂まり、殊にスロバキヤに於てはプラーグ政府の無力を見縊り、漸次これを無視するが

如き態度を示すやうになつた。そこでハーハ大統領麾下のプラーグ政府は、有力な一撃を加へて中央の統制力を擴大強化せんとし、三月上旬まづルテニヤ自治政府に改組を命じ、ついでスロバキヤの親獨的な首相チソニーを罷免し、自治政府に強壓を加へて瓦解せしめた。蓋しドイツの態度が著しく穏和化したから、高飛車に出さへすればスロバキヤは致方なく屈伏するものと考へたらしいが、豫想は見事に裏切られて、スロバキヤは蜂の巢をついたやうになり、狼狽したプラーグ政府は、軍隊の手でこれを鎮壓しようとしたために、獨立派は武装して抵抗するに至り、チソニーはひそかにドイツ政府の援助を求むるに至つた。そこで事態の推移を靜觀中であつたヒットラーは、三月中旬チソニーをベルリンに招致し諸般の打合せをなし、チェッコ憲兵のドイツ人を襲撃殺傷せる非を鳴らし、十四箇師團約二十萬の兵を動員し、スロバキヤに歸つたチソニーは、その獨立を宣言して新内閣を組織、公然とヒットラーに援助を求めた。さればチエッコのハーハ大統領も施す術なく、ベルリンに赴きヒットラーと會見し、三月十五

日ボヘミヤ、モラビヤ兩地方より成るチェッコを擧げてドイツの保護下に置くことを約し、ヒットラーは即日ドイツ國防軍のチェッコ進駐を命ずると共に、自ら國防軍總司令カイテル、外相リッペントロップ等を従へてプラীগに入り、翌日ボヘミヤ、モラビヤ地方が保護領としてドイツに屬すること、これを自治體として独自の行政機關を有せしむるも、軍事・外交・財政を除外すること等を宣言し、この日スロバキヤのチソー首相もヒットラーを訪問して、スロバキヤ地方も同様ドイツの保護下に置かるべきやう要請し、ヒットラーの保障を得、ハンガリーはチェッコ軍の頑強な抵抗を壓してルテニヤの首腦部を逐ひ、實力を以てこれを占領した。かくて中歐諸小國を震撼せしめ、英・佛等の民主主義老大國が茫然自失なす術を知らざる間に、大正七年十月獨立宣言以來、足かけ二十二年の壽命を保つたチェッコスロバキヤは、完全にヨーロッパの地圖から抹消せられた。ミュンヘン協定後ヨーロッパ安定の希望を頌つたイギリスの和協政策は、失望と憤激とを頌つ破綻の浮目に會ひ、ズデーテン問題を以て最

後の領土的要求なりとし、ドイツはチェッコ人を望まずと確定的に繰返した保障を反故にして、ヒットラーは異民族をさへ大ドイツに包含することを敢てし、もはや單なるドイツ民族の大同團結のみを意圖するものでない帝國主義へと新方針への轉換を表示した。これを國防的に見るならば、人口八千萬を擁する大ドイツに對し、英・佛は聯合の力を以て當るでなければ、いづれも單獨で立合はれなくなつた。反獨的であつたチェッコの消滅は、蘇聯空軍の基地として、航空母艦の如くドイツに匕首を擬しつゝあつた不斷の脅威をとり除いた。ドイツの東方防禦線はスロバキヤが構築したカルパト山脈の要塞に移され、チェッコ國境に備へた國防軍四十箇師團は、何時でも必要な方面に移動する餘力を生じた。オランダ國境からスイス國境に至るまで、鋼鐵とコンクリートとのジグフリード線の新設により金城鐵壁の備が成り、世界的優秀を誇るプラীগのスコダ兵器製作所や、軍事訓練済みのズデーテン地方ドイツ人三十萬の壯丁をも包容した。歩兵十二箇師團を基幹とするチェッコ陸軍の優秀な機材と、五百臺の

飛行機もそつくりドイツの手に歸した。否そればかりではなく、三月下旬ルーマニヤと新經濟協定を結び、ドイツは機械と經驗とを提供してルーマニヤの農業・林業の開發を促し、石油・銅等の鑛山業及び工業などに對し兩國合辦組織による開發を約し、またドイツからルーマニヤに對し兵器並びに軍需資材を供給することとし、更に羅馬訪問の歸途ベルリンに立寄つたりスミア外相ウルブシスと交渉して、メーメル地方をドイツに還附せしめることに成功し、三月廿三日ヒットラーは軍艦に塔乗してメーメル市に姿をあらはし、市民に對して「諸君は今日以後一體となつて勞働と忠誠と希望とを共にし、若し必要あらば犠牲をも共にすることとなつた」と呼びかけた。

かくの如くヒットラーは獅子奮迅の勢を以て、英・佛のドイツ包圍陣を打破し、自餘の群小國をしてドイツに接近しなければならぬやうな環境をつくることに腐心したが、これと相呼應してイタリアもちつとしてはなかつた。即ちアドリヤ海の對岸アルバニヤに兵を進め、これを併合したことこれである。本來アルバニヤはバルカン

戰爭の結果、セルビヤの膨脹を阻むために、三國同盟側の無理な肝煎で建設せられた國で、大正六（一九一七）年一旦イタリアに占領せられ、國際聯盟はイタリアにその統治を委任したけれど、人民の反抗のため委任統治權を拋棄したから、大正九（一九二〇）年獨立を回復して聯盟に加入し、その後國內では反伊、親伊の兩勢力が對立し、ムツソリニ政權はそのアドリヤ海支配、地中海發展の立場からこゝに勢力を布き、ユーゴスラビヤと結んでバルカンに勢を張らうとするフランスに對抗するため、大正十五（一九二六）年チラナ條約を結び、兩國相互共同防衛を約し、翌年更にこれを同盟にまで押進めた。しかしそれにも拘らず國王ツォーグをめぐつて、やはり反伊的空氣が醸されてゐたから、四月上旬イタリアはこれに對して反伊陰謀の根絶を要求して容れられなかつた。そこで急に陸海軍を進めてチラナを占領し、ツォーグ王を逐ひ、事實上これを併合して、イタリア國王エマヌエル三世にアルバニヤ國王の冠をさげしめた。それは實質的には大きな變化でなかつたかも知れないが、周圍殊にバルカンに與へた衝

動は決して輕くなかつた。昭和九（一九三四）年二月、ギリシヤ・トルコ・ルーマニヤ及びユーゴスラビヤの四國、即ち現状打破の機會をうかゞひつゝあるブルガリヤ及びハンガリーを目標とし、互に國境の現状を維持することを約したバルカン協定を結んだ諸國も、こゝに深刻な不安を感じて、獨・伊にか、それとも英・佛にか、その依存去就の態度を明かにしなければならなくなつた。そしてハンガリーは益々樞軸側に接近し、ユーゴスラビヤもイタリーと手を握つてハンガリーと協調する政策を進め、四月下旬マルコピッチ外相は更にドイツを訪問し、ルーマニヤのガヘンコ外相も獨・英・佛等を行脚して各國のバルカン政策を打診した。しかも三月下旬フランコのみきあるスペイン政府が、日・獨・伊原署名國と交渉して防共協定に加盟し、四月中旬ハンガリーが國際聯盟から正式に脱退し、獨・伊の攻勢は歩一步と進められた。

一三 イギリスの對獨包圍政策復活

ドイツのチェッコ併合はイギリスをして、「ベルサイユ條約の誤謬を訂正しドイツとの友好關係を樹立せんとする英國多年の努力も、ドイツ政府の行爲により水泡に歸した。イギリスはこれ以上従來の政策を以て進むことは不可能となつた」（ハリハックス外相）と感ぜしめ、「我々はどうして將來同じ人々の約束に信頼を置くことが出来よう」（チェンバレン首相）と、悲痛な決心を以て對獨和協政策破綻收拾に立ち上らしめた。しかしもともとイギリスの和協政策なるものは、蔣介石の一面抵抗一面交渉と同じく、再軍備完成までの道程に於ける道草に過ぎない。武力強壓の準備ができ上るまで、ドイツの進出を緩和せんとするものである限り、ヒットラーの二十年の悲惨なりし經驗にかんがみ、「すべてのドイツ民族の統合體が如何なる世界の強國によつても破壊されないやうに斷乎たる決意を以て防衛」する仕事は、却つて促進される逆効果を

生むことを避け得なかつた。同じ人々の約束に信頼を置くことができないのは、ひとりチェンバレンのみではなかつた。かくてイギリスはフランスに代つて、積極的に對獨包圍政策のイニシアチブをとることゝなつたが、しかしそれを誰がやるにしても、「ドイツの汎ゲルマニズムを認めれば歐洲の覇權をドイツに握られ、これを認めなければ歐洲の動亂となるといふ一大チレンマ」からのがれることができなかつた。それはゲルマニ族の侵入と戦つたローマ以來のヨーロッパに内包する史的宿命であるのかも知れないが、事態は又してもさうした一線に沿うて進展した。

ドイツのチェッコ併合に對しては、英國を始めチェッコの同盟國なる佛・蘇いづれもそれぞれドイツに抗議したが、勿論何等政治的・道義的根據なきものとして取合はれなかつた。そこでイギリスは佛・蘇・波その他ドイツの東進に脅威を感じるバルカン小國を糾合し、反獨共同戦線を結成し、ドイツの侵略阻止に關する共同宣言をなさんとする案により交渉を進めたが、ポーランドは公然ドイツを敵視する共同戦線参加を

拒否し、蘇聯も東洋から手を抜く餘裕がなく、肅清後の赤軍に充分な自信がないため、新しい軍事負擔を避けたい意嚮から、國際會議招集案をもち出して、あまり乘氣でない態度を示し、ギリシヤ及びトルコも難色を示し、終に實現の見込がなくなつた。そこでイギリスはフランスとも打合せた上、三月末チェンバレン首相が下院に於て重大聲明を發し、ドイツがポーランドを攻撃する場合には、敢然これを救援する用意ありと斷言した。ポーランドもこれに應じて外相ベックを渡英せしめ、四月初旬英・波相互援助條約締結への諒解が成り、ついで英・佛交々ギリシヤ及びルーマニヤの獨立が脅威せらるゝ場合は、共に全力を擧げて兩國を援助する旨を言明し、四月中旬匈米國大統領ルーズベルトは、ヒットラー總統にメッセージを送り、今後少くも十年、出來得べくんば二十五年間、歐洲の獨立國家を侵略せざる事の確約を求め、この保障にして得らるれば、米國は國際平和會議のイニシアチブをとる用意を有する旨を述べ、ハル國務卿亦旨をうけて、アルバニヤを攻略したイタリヤに對し、同様のメッセ

ージを送つた。かくしてドイツに對する アッポーズメント・ポリシー 宥和政策から最も果敢な包圍政策 エンサークルメント・ポリシー に突進したイギリスも、バルカンに於てルーマニヤを援助しようとするれば、昭和十一年(一九三六)年のモントルー條約の適用を免れてダーダネルス海峽の軍艦通過を行はねばならないので、トルコを誘ひ交戦國軍艦の通航を許容せらるべき、トルコの加盟せる相互援助條約に基く被侵略國の救援といふ免責條項を作らんがため、トルコを加へて反獨相互援助條約陣營を構成せんとし、また蘇聯の兵力を用ひてドイツを制せんとして、英・佛の外交は主力をこゝに注ぐことゝなつた。かゝる形勢に對してヒットラーは四月下旬特に國會を招集して二時間餘に亘る獅子吼をなし、ドイツの不動の國策を宣明し、(一)イギリスに對しては英國がかれこれドイツに干渉する權利なしとして、舊ドイツ領植民地の返還を要求し、ドイツ包圍の政策を進むる以上、英・獨海軍協定はもはや維持すべからざるものとして廢棄の意を示し、(二)ポーランドに對しては、ドイツがダンチヒの返還、廻廊を通ずる鐵道布設を要求せるにも拘らずこれを拒絶

し、更に反獨的態度を示す以上は、獨波不侵略協定はもはや存在せざるものと看做すと言明し、(三)米國大統領ルーズベルトのメッセーヂに對しては、該メッセーヂに列擧せられた歐洲三十一國の大部分に對して照會せる結果、その回答はいづれもドイツの脅威を感じるものなかりし點に一致せりと一矢を酬いた上、資源に恵まれて人口稀薄なる米國がその正反對なるドイツの活きんとする努力に對して干渉するの不合理を鳴らし、(四)更に日・獨・伊三國の協力は、正しい世界秩序の建設に最も強力な要素であるからこれを堅持すると大見得を切り、相會した約九百に近い議員は、一齊に起立してヒットラーの業績に絶對不動の信頼を寄せる意志を表明した。

昭和十四年五月、北歐の天地にもメーロフィールドを思はせる春がめぐつて來たが、しかし息づまるやうな重々しい雲が低くたれ込めてゐた。ミラノで獨・伊兩國の外相が會見したのをきつかけとして、下旬には獨・伊軍事同盟(正しくは獨伊親善同盟)協定が成立した。中旬には英・土相互援助協定が成り、貿易促進、油田開發を中心とす

る英・羅通商協定も成立した。英國のチェンバレン首相、佛國のダラディエ首相が各別々にダンチヒ問題に關聯してポーランドの獨立が脅かされる場合には、世界大戰は必至であるが、しかしこれにまき込まれることを避けて、ポーランドを見殺しにする事ができない旨を聲明した。ストックホルムにはスウェーデン・ノルウエー・デンマーク及びフィンランドの四國が會合して、傳統的中立政策を維持し、歐洲の紛争外に超然たる態度をとることに一致した。蘇聯に於ては外務人民委員として幾多國際會議に參列し、十數年の間花々しい活動をつゞけて來たリトビノフが退陣して、モロトフがこれに代ることゝなつた。對獨包圍陣結成に關する英蘇交渉が進められてゐる最中のことゝて、各方面に異常な衝撃を與へた。蓋しリトビノフは數次の五箇年計畫にもとづく一國社會主義建設（一九六一—三七）の線に沿ひ、諸外國との友好關係設定といふ課題に對し、集團的安全保障主義を以て英・佛と接近し、不可侵條約をもつて列國に臨み、更に獨・伊樞軸の對蘇攻勢に備へる見地から國際聯盟に加入し、フランス及びチェッ

ゴとの間に相互援助條約をさへ締結し、勇敢に「平和の連帶」を推進めて、歐洲に於ける蘇聯の地位を高からしめると共に、歐洲外交界の寵兒扱ひにさへせしめた。然るにコミンテルンがスペイン及び支那に於て展開した人民戰線戰術は、蘇聯の援助が結局赤化勢力の浸潤を企圖するもので、殊にスペインに於ける經驗は、蘇聯の介入が却て事態の收拾を困難ならしめる印象を列國に與へ、つひにミュンヘン協定に際しては蘇聯は全く除け者にされてしまつた。しかも戰雲は重苦しく上海からジブラルタルまでを掩うてゐて、ウクライナ問題も何時降りしきる火の子を浴びないとも限らない。もはや集團的安全保障による戰爭回避は破産してしまつた。そこで蘇聯は表面處女の羞恥の如くしかも英國の對獨包圍陣へと誘ひに心を寄せるやうな素振をしながらも、その手を握らずに、むしろ單獨に孤立政策に立返り、政治的に全體主義國の政策に對し徹底的に反對すると共に、また民主主義諸國に對する弱腰的妥協を排撃し、日・獨伊は防共の名の下に實は英・佛の犠牲を求めてゐるものとけしかけ、あらゆる可能な

方法を以て反ファッシヨ包圍體制の展開につとめつゝ、防共樞軸の注意を南方に向はしめ、經濟的には全體主義國家たると民主主義國家たるとを問はず、自國に對する經濟的依存を高め、自ら英・佛のために火中の栗を拾ふことを忌み、大戰勃發の際はできるだけこれに介入することを避け、有利な孤立の地位に立ち、その經濟的優越性と軍事的實力とを背景として、こゝに端倪すべからざる變通自在な外交振りを發揮することゝなつた。これ即ちリトビノフ退陣の意義であつて、英・佛の誘ひに對しては積極的に英・佛・蘇三國同盟としてその効力を東洋に及ぼさんことを提議し、在支權益に戀々として何時日本と妥協するかも測り難い英・佛をして、蔣介石と蘇聯とを置いてけぼりを食はせないやう繋ぎとめようとはかり、抗日分子掃蕩を期して日本の海軍陸戦隊が厦門の鼓浪嶼に上陸するや、英・佛・米また必要以上の陸戦隊を揚陸せしめてこれを妨害する態度に出で、有田・クレীগー間の日英會談が停頓し、天津租界の抗日分子取締問題をめぐり、まさにこれ等租界の封鎖交通遮斷が日本の輿論化しつゝ、

ある潮合を見て、^{ウランバートル}赤色英雄の都（庫倫）を策源地として五月以降ノモンハンの越境戦を展開し、また蘇支軍事同盟成立を傳へて、衰餘の蔣介石に攻戦のアガキを促すと共に、英・米・佛の勢力の日本進攻に油を注がうと試みた。しかも英・佛と折衝を行ふ間もドイツ並びにイタリーの如き諸國家との通商關係を拋棄する必要なしと揚言し、獨・伊に原料や食糧を提供する通商交渉を進めてゐたのである。

併しながら滿洲國を夾む日・蘇兩國の衝突は、いつでも蘇聯の鼎を輕からしめる結果を生みながら、蘇聯はこの歴史的經驗を無視することを繰返した。滿洲事變當初の緩和政策をやめて、二・二六事件以後の日本を甜めてかゝり屢々滿洲國境に不法侵迫を行ひ、その國境劃定にも水路協定にも誠意を示さず、いたづらに東方軍備の増大に汲々たりし結果として、ドイツにロカルノ條約破棄、ラインランド進入再軍備の機を與へ、公然スペイン革命に干渉して人民戦線の慘禍を目のあたりに示し、日・獨防共協定成立を促した。昭和十二年七月張鼓峰に日・滿軍を攻撃、一敗地に塗れて赤軍の

脆弱性を曝露するや、ドイツのズデーテン地方併合に好機を與へ、相互援助を約したチェッコを見殺しにしたばかりでなく、ミュンヘン會議では列國から袖にされてしまつた。アジアに結んで歐洲に備ふべき蘇聯が、逆に西を緩めて東に備へるために、いつでも高價な犠牲を拂ふことは、世界史の常識であつて、第一次歐洲大戰の淵源は、遠く日露戰爭にありと言へる。然るに又してもノモンハンの草原に、勝つ見込みもない死闘の展開だ。既に發火しかけてゐるダンチヒ、ポーランドの問題が勢づいて燃えさかるのは何の不思議もない。東洋に於ては日・獨の接近を制する意圖も含まれて、東京に於て開かれた日・英會談がしかし思はしい成果を見ず、これをまた牽制して日・英の接近妥協を離間しようとする思想が強く動いて、七月下旬米國の日・米通商條約廢棄通告となり、また英・蘇の注意を東洋に縛りつけようとして、獨・伊の手はその軍事同盟に日本を抱き入れようとおせつたが、日本はこの「複雑怪奇」な形勢に直面して、むしろ歐洲問題にまで深入りせず、専ら支那事變の收拾に専念せんとする態度をとつ

た。八月下旬ドイツ政府が蘇聯の申出にもとづき獨蘇不侵略條約を締結したことを公表し、世界を驚かしたのはその結果であつた。ノモンハンの莫大な犠牲に歐洲の軍備配置をさへ東方へ割かねばならないやうな破目になつた蘇聯の弱味につけ込んで、ヒットラーはビスマルクの故智にならひ、ドイツ興隆のためスラブ民族の好意的援助を利用する策に出たのである。曾て英・佛の壓迫をうけた蘇聯が、同じ世界の嫌はれ者だつたドイツを緩衝地帯とするといふ考から、大正十一(一九二二)年ラツパロで結ばれた蘇・獨修好條約を、ヒットラー政権の出現により中斷せられ、致方なしにフランスと結んで獨逸に備へて來たのに、ヒットラーは共產主義排撃の鋒を收めて、逆にこれと結びその軍事的經濟的勢力を背景に、英・佛の連衡を向ふに廻し、ポーランド料理に乘出したのである。かくて九月一日ドイツ國防軍はポーランド侵入を開始した。イギリスは更めてドイツに對し戰鬪行爲の停止及びその軍隊をポーランドから撤退せしめることを要求したが、無論容るゝ所とならずして三日對獨宣戰を布告した。如何にせ

ばドイツと戦を避け得るかを課題にして動いて来たフランスもこれに追随し、ドイツと一戦して勝を制しようとするイギリスと共同動作をとることゝなつた。イギリスの軍隊は古來の國境ドーバー海峡を超えて、新國境ラインへと歩武を進めんとした。それを單にジョンブルの思慮と打算とをうちのめした情熱の力とのみ見るのは、あまりに事態の複雑さを無視する誹を免れない。ヒットラーにしてもチェンバレンにしても、實は無血の勝利を希求しながら、大規模な殺戮流血の争鬪に足を踏込んだのだとも言へないことはない。それはどうすることもできない闇の力、運命の神の悪戯である。ノモンハンの空には清明の秋が訪れて、戦塵にまみれた叢には凄愴な蟲の音が聞かれた。シーソーの蘇聯は、九月日本と停戦し、東を緩めて西に傾いたのであつた。

一四 第二次歐洲大戰の推移

ドイツの精銳な空軍と機械化部隊とは、開戦後二週間で舊ドイツ領ポーランドをその手に収めた。首都ワルソーの守備軍がドイツ軍を迎へ猛烈な市街戦を行つた後、一度はこれを市外に追出してポーランドのために僅かに氣を吐いたけれど、ドイツ空軍と重砲の猛撃下に沈黙を餘儀なくせられ、ダンチヒ自由市の鼻をあかすつもりで建設したグデニヤ港もドイツ軍の占領する所となつた。かくて前門の虎によつて致命的な打撃をうけたポーランドに對し、更に北方から蘇聯軍が白露人、ウクライナ人の保護を名として侵入し、九月十七日から約四日で舊露領を占領した。まさにこれ後門の狼で、ポーランドはこの月の末蘇・獨兩國の間に又しても分割せられてしまつた。大正七年ピルスウドスキー元帥の努力により再建せられ、獨・蘇兩國の疲弊に乗じて國境では少からず横車も押したポーランドが、昭和十年五月この建國の英傑の上に「生者必滅」の運命がおとづれ、一葉落ちてうたゝ天下の秋を思はしめたが、昭和十四年九月、この國を「會者定離」の哀愁にまでつき落してしまつた。かくて九月二十九日モ

スコーに於て、リッベントロフとモロトフとの間に獨・蘇親善並びに國境劃定に關する條約が成立し、ヒットラーは英・佛が對獨宣戰を撤回すれば、ドイツは平和會議開催を應諾する用意ありと聲明し、事態をポーランドに局限せんとするかの身振を示したけれど、ヨロップはなほ平和的に收拾せられることの前途遼遠なることを思はしめるものが少くなかつた。

その一つはドイツの舊植民地返還要求とナチ運動の展開で、九月下旬ルーマニヤでは、獨・蘇勢力の南下に對し銳意中立保持と獨立維持に努力しつゝあつたアルマンド・カリスコ首相が右翼の鐵衛團及びナチス一味のために暗殺せられた。更にドイツの諒解の下に、蔣聯の相互援助・不侵略を看板とする邊境侵略の擴大が、底知れぬ鈍重なねばりを以て推進められた。九月下旬エストニヤと相互援助・共同防衛を約して、サーリマー島・ヒューマー島及びバルチスケ港等に蘇聯の海軍及び航空基地を設置することを認めしめ、十月上旬ラトヴィヤと相互援助を約し、リバウ・ウインダウ二港を

軍港として蘇聯の手に收め、リスアニヤにも相互援助を約しポーランド領ビルナの併合を許して、軍事根據地を蘇聯に提供せしめた。またトルコに對しても相互援助條約締結を條件として、英佛兩國軍艦の海峽地帯通航を禁止し、ベサラビヤ回收の場合トルコの中立することを要求したが、トルコは海峽地帯に實權を失ふことを恐れて、十月中旬これを拒絶し、逆に英・佛・土相互援助條約を結び、英・佛側の陣營に投じた。ヒンランドに對しても、蘇聯は相互援助條約を結ぶことを條件として、ヒンランド灣内島嶼の割讓、オーランド島の駐兵權等を要求したが、十一月末交渉決裂、終に兵力を加へて翌年三月に互りこれを屈伏せしめ、ウイボルグを含むカレリヤ地峽等を割取り、形式上不侵略條約を結びこれを勢力下に置いた。されば英・佛が和平交渉を應諾する筈もなく、十一月末には獨貨拿捕令を發したが、米國も亦中立法を改正して交戰國に對し武器の現金販賣を認め、たゞ米國船による輸送を禁止して、中立を装ひながら現金を支拂ひ自國船により搬出し得る英・佛への一方的供給を可能ならしめ、海上

に勢力なきドイツを苦しめる方策をとつた。そして内部では十三億ドル四箇年計劃の第三次ビンソン案と稱する海軍擴張を企圖しつゝ、他方大軍を西部戦線に配して蘇聯と新經濟協定を結び、蘇聯の原料品とドイツの工業製品の交換を約し、ドイツが和戦兩様の體制をとつたのへたヨーロッパに對し、昭和十五年二月國務次官サムナー・ウェルズを派遣し、伊・佛・英を訪問せしめて和平の打診を試みた。しかしその結果むしろ却つて逆効果を生み、英・佛の意嚮をもたらしローマに來訪したウェルズと會見したムッソリニ首相は、三月中旬ブレンネルでヒットラーと會談、歐洲に新秩序をもたらすべき一般問題につき隔意なき意見の交換を遂げ、それまで殆ど冬眠の状態にあつた戦況が展開することゝなつた。

三月下旬グラデーエからバトンをうけとつて内閣の首班に据つたフランスのレイノーは、ロンドンに赴いて最高軍事會議を開催、兩國の合意ある場合を除き、英・佛兩國は如何なる休戦若しくは和平の交渉にも應ぜざる決意を明かにし、その結果として

イギリスは對獨封鎖強化を聲明、四月上旬スカンデナヴィヤ經由船荷の差押工作に着手し、ノルウェーの海岸に機械水雷を敷設した。蓋し大西洋を經由ノルウェーに陸揚げされてドイツにもたらされる軍需品を差押へると共にスウェーデンの鐵礦がドイツに利用せられるのを牽制したものであるから、ドイツは機先を制して、英・佛の中立侵犯に對する保護の名の下に行政權の委讓を要求してデンマークに侵入、一方また海軍を以て陸軍を護送せしめてノルウェーに向はしめ、四月九日一舉にコペンハーゲン及びオスロの二都無血占領に成功した。デンマークはその後國を擧げてドイツの制御下に歸し、ノルウェーはイギリスの支援もあつたので若干の抵抗を試みたが、トロンドハイム・ベルゲンなど相ついでドイツ軍の手に歸し、イギリスもノルウェー海岸占據計畫を拋棄して「損害なき撤退」を誇り、その海上勢力の無能ぶりを示したので、チェンバレン首相もその失敗を自認し、チャーチル海相に後事を託して第一線から引退した。チャーチルは鬪將として名ある強硬派で、閣員にも勞働・自由兩野黨を包容せる新舉

國一致内閣を組織し、ダフクーパー情報相・イーデン陸相等の強硬組と手を携へて時艱に當らんとしたが、新内閣が成立した五月十日、ドイツ軍はルールモント附近からオランダに進入、忽ちこれを馬蹄下に蹂躪し、十三日女王ウイルヘルミナは一族と共にロンドンに亡命、十四日オランダ全軍は停戦降伏した。一方同時にベルギーに進撃したドイツ軍は、十三日リエージュ要塞を抜き、十六日救援の英・佛軍と一大決戦を行ひ、アントワープ・デル・ナミュールを結ぶ要塞線を突破して、十七日國都ブラッセルを陥れ、佛軍がベルギー南部戦線のドイツ軍に備へ、主力を北に向けた虚を衝いて、奇襲的に森林地帯を縫うてフランスに入り、空からの爆撃と戦車、火焰放射器等の新式武器を極度に使用して、幅百哩に亘るマジノ線突破に成功した。そしてラン・サンカントンを占領してバリをうかゞふ態勢を示しながら、主力は急に右折してアミアン・アラス等を取り、ソナム河口アピルに出で、英・佛・白聯合軍を佛・白國境に包圍する大膽な作戦を採用した。五月廿六日ドイツ軍のカレー占據は、リース河以東の戦

線による聯合軍掃討と共に、この作戦を成功にみちびき、同月廿八日ベルギー全軍が降伏し、フランダーズに追込められた英・佛軍は、河川を氾濫せしめドイツの戦車隊や砲車の進出を阻みつゝ、船舶を利用する海上からの脱出につとめたが、六月四日ダンケルクが陥り、英・佛軍は多大の損害をうけてフランダーズに全敗の苦杯を喫した。勝誇れるドイツは、直に大軍を擧げてフランスに向ひ、五日ソナム河南岸のウエーガン線をも突破したので、佛軍は全戦總崩れとなり、十日イタリアも英・佛に宣戦したからフランス軍は十三日バリを抛棄し、翌十四日ドイツ軍はハーケンクロイツの旗を掲げて堂々バリに入城した。十五日第一次歐洲大戰に難攻不落を誇つたベルダン要塞が陥り、マジノ線も殆ど全線が突破せられ、十六日レイノー内閣總辭職、十七日さきのベルダンの勇將ペタン元帥が、新首相として「武器を捨て、ドイツに降伏」した。それは普佛戦争に比し、よりみぢめな敗北で、外患をよそにたゞ集團的安全保障といふやうな外力に依存し、内政上のいさかひに耽つて來た。その弊風の頂點が人民戦線

の一時代で、労働者は圖に乗り過ぎて偷安を事とし、生産が低下し國力がむしばまれ行くのをよそにして、安價な享樂をほしむにした。ミュンヘン協定以後さすがに自己の弱體と、平和の高價なものであることに氣がついたけれども、もはやすべての用意は泥繩で、すつかりドイツに追越されてしまつてゐた。六月廿一日全世界の環視のうち、獨・佛休戰の約は北佛コンピエーニュで成立した。それは大正七年ドイツがフランス軍總司令官ホツシュ元帥のため、屈辱的休戰條件を押し付けられ、涙を吞んで受諾を餘儀なくせしめられた歴史の地、しかも休戰條約調印の行はれた記念の展望車「ホツシュの車」の中で、ヒットラーはカイテル幕僚長以下を従へ、フランスのアンチヂエ將軍等と會見し、休戰の約を結んだのであつた。ついで廿四日ローマで伊・佛休戰條約も成立したが、イギリスに亡命中のドゴール (De Gaulle) 將軍は、これを不満としてイギリスの支援をうけながら、ロンドンにフランス國民委員會を組織し、自由なるフランス國民の指導者を以て任じ、デモクラシーの殘壘を固守しようとした。

それはまさに世界史の大轉換である。ドイツ軍の英本土上陸戰は多くの人々の期待を集めながら、そして可能を信ぜられながら、ヒットラーは大空襲と潜水艇戰により、對英逆封鎖戰の戰法に出で、英人の得意とする長期戰により、逆に英人をほしものにすることを企圖しつゝあるかのやうに見える。これに對してイギリスは、大西洋に米國からの輸血路を保持しながら、地中海・アフリカ・バルカン等背面から獨・伊樞軸を牽制せんとし、九月ニューファウンドランド・バーミユダ・ジャマイカ・ウインドワード・トリニダード・アンチグア等の諸島及び南米ギヤナを質に置いて、米國から驅逐艦五十隻を譲りうけた。かくて一方米國は、イギリスと連衡してその敗退に終る場合と雖も、イギリスの正統相續人たるかの如き顔をしながら、東洋に於て機會均等を主張すると同様なエゴイスチックの態度を示し、パーク・ワーズワース徵兵法 (義務的軍事訓練法) を制定して毎年九十萬人の徵兵を行ひ、これに一ヶ年の軍事訓練を施し、一九四五年六月までに常備兵力百二十萬、豫備兵三百萬、機械化師團四十五箇

師團、装甲戰車師團十箇師團を保有すべき陸軍擴張案の實施にとりかゝると共に、海軍擴張案をも改訂して、一九四七年までには戰艦三十二隻、航空母艦十八隻、巡洋艦八十五隻、驅逐艦三百六十八隻、潜水艦百八十五隻を整備し、大西・太平兩洋艦隊を設置する軍備大擴張を進め、イギリスに代つて世界制覇の地位に即かうとする氣勢を示すに至つた。一方自ら勞せず従つて自國の反革命運動に蜂起の機を與へず、他國を疲れしめて座して世界赤化の機をつかまんとするかに見える蘇聯は、巧みに英・獨を操縦して相食ましめ、その合體して蘇聯に敵性をもつことは勿論、一方の膨脹によりヨーロッパに覇を唱へるやうな形勢の出現することをも妨げながら、自らは六月下旬ルーマニヤに進入、第一次歐洲大戰に喪失したベサラビヤを奪還し、七月下旬エストニヤ・リスアニヤ・ラトビヤ等バルチック沿海三國を併合して、ヨーロッパに於ける舊帝政治下のロシヤ領土を殆ど回復した。ハンガリーもトランシルバニヤの復歸を欲し、ルーマニヤに交渉する所があつたが、八月末獨・伊・洪・羅四國の使臣がウイーンに會

し、ルーマニヤはトランシルバニヤの一部をハンガリーに返還し、ドイツ・イタリイはルーマニヤの安全を保障してやつと解決した。然るに十月上旬ドイツ軍は突如ルーマニヤに進駐するに至つて、列國の注視は英本土からバルカンに移つた。ドイツはこれに關してウイーン協定にもとづき、ルーマニヤの希望に應じ、保障の實行のため派兵を行つたものであることを聲明したが、本來第一次歐洲大戰の結果、領土が倍加して多數の異民族を包有するに至つたルーマニヤは、大正十年ポーランドと同盟して蘇聯に備へ、大正十五年にはフランスと共同防衛を約し、ハンガリーに對してはチエッコと同盟し、ブルガリヤに對抗するため昭和九年バルカン同盟に加入し、また昭和八年蘇聯と不可侵條約を結ぶなど、あらゆる手段を講じてこれを保有して來たが、大正十四年一旦皇位繼承權を拋棄した皇太子カールが、昭和五年軍隊の支持をうけてカール二世となり、親獨的な地主黨なる保守黨と衝突をくり返し、工業家の利益を代表する自由黨を味方とし、ナチス系の鐵衛團を壓迫して來たものである。さればベサラビ

ヤヤトランシルバニヤなど、ウクライナ人やマジヤール人の居住する地帯を割譲し、民族問題の癢は除かれたとしても、鐵衛團系のアントネスコ將軍を首班とする内閣の成立、カロール二世の退位をめぐる、國內の物情騒然たるものがあつたから、ルーマニヤの協力、殊に石油・食料の獨占的供給を確保せんがため、ドイツ軍の進駐を見たのである。

この時に當りイタリーは、地中海の對岸リビヤに兵を出してエジプトに侵入し、九月ソルムを奪取したけれど、十二月英國軍の逆襲をうけてリビヤに撤退するのやむなきに至り、また十月下旬からアルバニヤ境上でギリシヤと衝突したが、これ亦ギリシヤ軍の逆襲をうけてアルバニヤ内部に退却し、地中海でも英海軍に齒が立たないで戰況停頓に陥り、戰線立直しの必要を痛感しつつ、大戰第三年を迎へることゝなつた。

一五 大東亞共榮圈の建設

ドイツの電撃戰に對し、支那事變の進行は一見停頓の狀を示し、容易に收拾の見透しが立たなくなつた。しかし支那の面積は殆ど全ヨーロッパに匹敵する。北支を明朗にして滿洲國の接壤地帯を肅清し、山西省から晋北・察南のいはゆる蒙疆を平定して、陝西と外蒙古との赤化連絡路を切斷し、山東を席捲して海港への出口を確保し、上海から南京にかけての抗日防禦線を突破して首都南京を屠り、徐州附近にゼークト線を粉砕し、長驅武漢を陥るゝと共に援蔣の最大輸血路たりし廣東を併せて占領した。その巧妙な戰闘は決してドイツに劣るものではないばかりか、その戰ふ意義は「予が闘争」に比し遙かに高遠である。かゝる目覺しい勝利の故に、蔣介石は避遠の地に逃避し、日本軍の相手は實は蔣介石ではなくなつて、山であり河であり、空間であり、距離となつたから、今や根氣と氣長な努力とを以て、自己よりも遙かに生活水準の低

い土匪のゲリラ戦を制壓しつつ、復興と開発とを進める建設の段階に足を踏み込んだのである。蓋しその善後收拾處理に於ても、事變が宣戦なき匪賊討伐にも比すべきものであつただけに、世界史上類例なき講和なき平定に向つて突進しつつある。

しかしながら支那事變そのものが、支那を手先にする列國の日本牽制戰であつて、蔣介石はさうした列國の支援をたのみ、國內の悲歌慷慨的民族性を利用しつつ、抗日戦線に踊つてゐるから、軍事上から支那の抗日政權を打倒すると共に、蔣介石を援助し乃至は第二の蔣介石をもち立て、日本に反噬せしめんとする列國の政策をくつがへさない限り、支那事變の解決はあり得ない。従つて日本は、(一) 蔣介石政權を壊滅し、漫性的無秩序、匪賊の却掠、徴税及び募債の形式による軍閥の苛斂誅求、國有鐵道の麻痺、資源の假眠などのため、永久に貧困と無知と不潔とに沈淪する支那に近代國家としての秩序、安定、産業化、文化等を興へるため、(二) 支那に植民地的支配を擴充して日本の建設工作を妨げんとする列國の手を東洋から引かしめることの必要

に當面し、(三) 更にかゝる要求を満足させるためには、廣域に亘る大東亞の和平安定による共榮經濟圏の存在を缺くべからざるものとするに至つた。滿洲事變以來西に守つて東に攻めんとした英・米・佛・蘇は、その高價なる代償として第二次歐洲大戰を迎へなければならなかつた。もはや母屋に水がついた英・佛は、西に於て獨・伊樞軸に對抗する必要上米國の援助をうけねばならない關係があり、且つは東亞に於て莫大な既得權益を擁するのために、依然米國と結んで援蔣のゼスチアをつづけ、蘇聯も亦日本と親善に立返る必要を意識しながら、依然中國共產黨を袖にし得なかつた。鼓浪嶼・天津の外國租界封鎖、張鼓峰・ノモンハンの血戰、支那事變處理に他をかへりみる暇なき日本としては、希望せざる道草であつた。それにイギリスは一方シンガポールで英・佛聯合軍事會議を開き、日本を脅かしながら、他方有田・クレイギー東京會談を繼續し、天津その他北支の問題につき日本と妥協するかの如き身振を示し、以て日本の獨・伊樞軸接近を妨げ、昭和十四年八月日本は一旦獨・伊兩國との同盟を思ひ止ま

るに至り、更にこの交渉により米國の硬化を策して成功し、米國は日・米通商條約廢棄を通告し、日・英の接近を好まざる牽制的態度をとつた。けれどもかゝる支那の邊境、海港のみに局限して、列國の援蔣行爲を禁絶することは到底不可能のことで、殊に領土、艦船の交換による米國のイギリス援助、むしろ英・米聯合による世界再制覇の性格が、ヨーロッパに於てもアジアに於ても明瞭に示現せられて來ると、こゝに期せずして日・獨・伊は緊密な共通の利害を感じるに至り、抜本的にかゝる禍害の根源をとり除く方策を進めることに見解の一致を見るに至つた。かくて昭和十五年九月廿七日ベルリンに於て歴史的な日・獨・伊三國同盟が締結せられ、日本は獨・伊兩國の歐洲に於ける新秩序建設に關し、また獨・伊兩國は日本の大東亞に於ける新秩序建設に關し、相互にその指導的地位を認めてこれを尊重し、その目的達成のためには互に協調し援助すべく、殊に支那事變、第二次歐洲大戰への新しい介入者は、これを共同の敵と認むべきことを明かにし、英・米の軍事的合作共同に對し、世界の新しい平和と秩序とを建

設せんとする三國の熱意を成文化した。この頃我が國は南京の新國民政府と交渉して新支那建設の方略につき意見の一致を見たが、またフランス政府に交渉し、九月廿三日軍を佛領印度支那に進めて、殘されてゐる最大の援蔣輸血路たる河内等に駐屯せしめ、着々として大乘的事變處理に邁進した。

この時に當り太平洋を中心として英・佛と共に、日本の對大陸國策に干渉し妨害し來つた米國は、英・佛の脱落によりひとり日本に對する露骨な敵性を示し、一方蔣介石援助に狂奔するに至つた。即ち一方的に日・米通商條約を廢棄し、昭和十五年一月廿五日から兩國は無條約國となつたが、ルーズベルト大統領及び國務長官ハルが放送・聲明の形に於て日本を誹謗することを繰返すと共に、艦隊の主力を太平洋に廻航せしめ、大規模な海軍演習を行ひ、これをハワイに常置して恫喝威嚇の具に供し、昭和十三年六月、對日武器輸出禁止を手始めに、軍需資材の輸出を制限して來た。昭和十五年七月國防強化促進法を制定し、國防土軍需品及び軍用器材、その製作に必要な機

械器具及び原料の輸出を禁制する権限を大統領に與へたから、武器・彈藥・アルミニウム・錫・ゴム等(七月二日)、航空用ガソリン(七月廿六日)、ガソリン製造装置(九月十二日)、軍用光學機械(九月三十日)、屑鐵・屑鋼(九月二十六日)、工作機械(十二月十日)、鐵鑛・鉄鐵(同)、銅・眞鍮・亞鉛・ニッケル(昭和十六年一月十日)と、勿論自國の軍備擴張への必要もあるけれど、主として日本を目標として廣汎な輸出の禁制を斷行し、一方蔣介石政權に對しては、昭和十三年十二月二千五百萬弗、昭和十五年三月二千萬弗、同年九月二千五百萬弗、同年十一月一億弗と相つゞ借款を與へて、抗日の財政及び軍備を援助し、絶えず非友誼的措施をくり返してゐる。つまり米國今日の武装状態を以てしては、樞軸國家に對抗することが到底不可能であるから、對英・對蔣援助と樞軸國に對する經濟壓迫を強化することにより、ヨーロッパ及びアジヤの戰爭をできるだけ長期戦にみちびき、樞軸國の疲弊と分裂とを俟つて、終局の勝利を把握せんとするもので、その頃に完成する優強な軍備を以て世界を恫喝し、若しイギ

リスが敗北するも、その遺産は自らこれを相續して、世界的霸權を握らうと夢みてゐるのである。それはまさに金持の貪欲といふもので、強て米國との衝突を希望するものはないけれど、しかし米國にしてかゝる野望を捨てない限り、まづ世界平和の前途は遠慮である。どの道長期戦は免れない所で、世界はこの米國の野望に備へると共に、その物資や資金に依存しない自給共榮圈を建設しなければならぬのは、まことに自明の理である。

これよりさき昭和十三年武漢三鎮の攻略の後、十一月三日近衛首相は政府聲明の形式で「帝國の冀求する所は東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設に在り、今次征戰窮極の目的亦此に存す。この新秩序の建設は日・滿・支三國相携へ、政治・經濟・文化等各般に互り互助連環の關係を樹立するを以て根幹とし、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現を期するに在り。是れ實に東亞を安定し世界の進運に寄與する所以なり。帝國が支那に望む所はこの東亞新秩序

建設の任務を分擔せんことに在り。帝國は支那國民が能く我真意を理解し、以て帝國の協力に應へんことを期す。固より國民政府と雖も從來の指導政策を一擲し、その人的構成を改替して更生の實を擧げ新秩序の建設に來り參するに於ては敢て之を拒否するものに非ず」といふ支那事變處理の基本的原則を明かにし、また十二月二十二日談話の形式で、「日・滿・支三國は東亞新秩序の建設を共同の目的として結合し、相互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げんとするものである」ことを述べ、領土の割讓、戰費の賠償の如きは日本の求める所でないことを斷言し、いはゆる近衛聲明を發した。これに對し英・米・佛は支那の門戸開放・機會均等に關し日本に抗議的申入をなす所があつたが、この聲明に信賴し、和平の實現と日本との協力のみが支那を救ひ東亞に安定をもたらすものとして、燒土抗戰を呼號する蔣介石と決然袂を分ち、和平運動に乗出したのが汪精衛（兆銘）で、昭和十五年三月、そのひきゐる新國民政府が南京に還都した。そこで帝國政府は特派全權大使阿部信行をして、七月初旬これと交

渉を開始、八月末に至りその妥結に到達し、諸般の手續を了して十一月南京で盛大な調印式が行はれた。即ち日・滿・支三國は相互にその主權及び領土を尊重し、互惠を基調とする一般提携就中善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧ぐべく、これがため必要なる一切の手段を講ずることとし、日本の蒙疆・華北に於ける防共駐兵、治安駐兵等を承認し、蒙疆及び華北に於ける資源の開發、揚子江下流域地方に於ける通商振興、その他産業・金融・交通・通信等の復興及び發達について日本よりの援助等を約して、日・支國交調整に關する基本條約、從つて近衛聲明の結實、即ち東亞新秩序への礎石が据ゑられた。當時佛領印度支那は、帝國陸海軍の進駐を承認して新秩序建設に歩み寄り、蘭領東印度に對しては四月既に有田外相が現狀維持を希望する旨聲明し、五月重ねて蘭・獨・佛等に對し、帝國が該地域に戰爭の波及せざるやう深甚の關心を有する旨を通じた關係もあり、十一月小林一三を使節として蘭印に派遣し、本格的に經濟的提携、共榮圈の地固めをなすこととなつた。米國の狂噪はかうした形勢の進展と相

因果するもので、自ら優越な地位を占めるもの、世界の審判者たるかに誤認して自己陶酔に陥り、他國をさばきこれに懲罰を加へんとするが如き暴狀を敢てすることにより、世界の轉換はいよいよ急調を呈する。十一月共和黨のウイルキーを破つて、三選を豫約せられたルーズベルト大統領が、やがて武器貸與案を提げてイギリス援助を擴大せんと目ろみ、對支借款を供與して蒋介石政權へカンフル注射を試みんとする頃、ヨーロッパの天地はまた急轉回を試みつゝあつた。

ハンガリー・ルーマニア・スロバキヤが、相ひきゐて日・獨・伊三國同盟に加入したのは十一月であつた。蘇聯のモロトフ外相がベルリンを訪問して、樞軸側の企圖する歐洲新秩序に於ける蘇聯の役割、獨・蘇經濟提携につき會談、兩國の利害につき完全なる意見の一致を見たのも十一月であつた。越えて翌昭和十六年一月、ヒットラー・ムッソリニ兩巨頭がローマで會見したと思ふと、二月イギリスはルーマニアに國交斷絶を通告し、地中海・アフリカ方面に旗色悪きイタリアを見ながら、去就に惑ふブル

ガリヤ・トルコ・ギリシヤを完全に自己の陣營に收めようとし、二月から三月にかけてイーデン外相、ヂル參謀總長など、イギリスの大官連がギリシヤに渡航、これに獨立保障を與へて積極的な相互援助同盟をつくり上げようとしたが、ドイツはエーゲ海に出口を求めるブルガリヤを支持しこれに進軍を開始した。米國の武器貸與法（國防促進法）が大統領の署名を得て、三月十一日日本きまりとなり、米國の國防に重大な關係ありと認定した場合如何なる國に對しても軍需品を賣却貸與する權限、軍需品に關する情報の提供、米國內で他國が軍需品の試験修繕及び裝備を行ふことを許可する權限を大統領に賦與し、援英行爲を擴充し歐洲の戦火に油を注がうと懸命になつてゐる時、同じ日に東京では日本の調停による泰・佛印國境紛争に關する會議が圓滿な諒解に達し、公式最終會議が開かれたのであつた。翌三月十二日外相の門外不出といふ傳統を破つて、外務大臣松岡洋右は小村壽太郎ポーツマス差遣以外前例なきヨーロッパ訪問の途についた。そしてドイツ・イタリア等の同盟國を歴訪、政府首腦部と會

見して三國の協力に關するあらゆる問題につき、隔意なき意見の交換を遂げた。しかもその歸途モスコーに於て、スターリン及びモロトフと會見し、四月十三日日・蘇中立條約に調印して、青天の霹靂の如き一大衝擊を世界に與へた。即ち日・蘇兩國は平和友好の關係を維持し、且つ相互に領土の保全不可侵を約し、一方が一又は二以上の第三國から軍事行動の對象となる場合に他方締約國は該紛争の全期間を通じ中立を守ることをし、別に聲明を發してこの中立條約の精神にもとづき、日本は蒙古人民共和國の領土、蘇聯は滿洲帝國の領土を相互に保全し相侵さざる意志を明かにした。シベリヤ出兵・尼港事件以來のいきさつは一度清算したものの、滿洲事變この方妙にもつれて來た日・蘇關係が、きれいに拭ひ去られて平和意志にもとづく友好關係に置換へられたのであるから、今まで血の決戦をやるのが宿命であるかに思つて來た人々に對し、驚き、歎き、歡び、悲しみの何重奏かを奏せしめたことは無理もない。日・蘇の握手を不可能とするのが、むしろ世界の常識であつたからだ。しかしその實理性的に

は日・蘇兩國が今戰つては居られないのが現實である。殊にイギリスの大陸封鎖は蘇聯の對英米貿易を衰頽せしめ、往年ナポレオンの大陸封鎖に苦惱した事態がまた蘇聯を脅かし、却つて逆にドイツ經濟への依存を深からしめつゝありとも傳へられる。スターリンが東方君子國の外相に對し前例なき歡待ぶりを示したのは、強ち小粒な正直な男を可愛がつたといふ譯ではあるまい。打者をして連続ヒットの快さに陶醉せしめつゝ、盜塁に疲れた所を一つ一つ本壘前で刺す戦法かも知れないが、しかしそれを吟味するのは別に適當な「時」が待つてゐるに違ひない。スターリン自ら調印の部屋から電話をかけて、出發を一時間延期させた國際列車に搭じ、まだ冬枯れのまゝのシベリヤの曠野を東しつゝ、亡き母堂の眠る瀬戸内海沿岸、あざやかな旭光をうけた白砂青松の故山を夢みる小柄な松岡外相が、その半生の心血を傾けた北の生命線滿洲國境を越える頃、ヨーロッパでは獨・伊を裏切つたユーゴスラビヤがドイツ軍の鐵蹄にふみにじられ、四月十八日力盡きて屈伏し、更にイギリスに依存して蠅螂の斧をふるふギ

リシヤも、ドイツ機械化部隊の前には昔のレオニダスもテミストクレスもなく、たゞマラソンの勇者の「形」を模して敗走するのみで、四月二十三日には全く屈伏して停戦協定を結び、獨・伊兩軍の壓倒的勝利に終つた。

世界は今何處に向つて動きつゝあるか。人類の前途に横はるものは樂園かそれとも地獄か、進歩かはた退歩か、それはいづれともわからない。現状維持と現状打破と、そのいづれであるにしても、たゞ飽くなき欲望や野心の延長に過ぎないものは、いつかは野の百合の一莖にだに如かざることを覺る日がめぐつて來るであらう。「日支兩國ノ提携協力ニヨリ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ擧グル」(昭和十二年九月第七十二議會開院式勅語の一節)といふ御聖旨を奉體し、一路聖業を翼賛し聖戰に従ふものの心は、直く明るく淨められて、さうした人間的な功名や霸業の觀念を超越する。それこそまさに世界の轉回、價値の轉換を意味する大きな歩み、悠久二千六百年の輝かしい過去を負ふ日東君子國の國民的躍進の雄姿なのである。

轉回する世界

著者は明治二十五年三月岩手縣に生る、現廣島高等師範學校教授、歴史に關する著書として「國史上の思想問題」(昭和四年)「皇室と文化」(昭和五年)「概説西洋史」(昭和八年)「滿洲通史」(昭和十年)等主たるものがある。本書に於てはじめて、從來とり來れる態度を「廣域日本史」と命名した。



印 刷	昭和十六年七月十日
發 行	昭和十六年七月十五日
定 價	金一圓二十錢(送料) (外定價金一圓三十二錢)
著 者	及川儀右衛門
發行所	大阪市西區江戸堀下通二丁目四〇番 實業會社
發賣所	東京市神田區神保町三丁目一〇番 振替口座東京一七〇三二六番 橫山書店
配給元	大阪市東區北久太郎町四丁目 柳原書店 東京市神田區神保町三丁目 東京市神田區淡路町二丁目九 日本出版配給株式會社

これは若き日本の書である。原始の日からわが民族の胸奥に脈
 うつ夢みるやうなロマンチズムに民族本然の若々しい意志の
 奇しき泉を汲み、まのあたりにみる曠古の民族活動をみづく
 しくほゝゑましい民族三千年の夢が新しき太陽の下に海を越え
 て奔流するすがたと觀じ、「虚飾の倫理」に盲ひた世界を光被し
 新しき「日本の世紀」へ呼びかける民族のオクタヴを響かし

日本の意志

山田正紀著

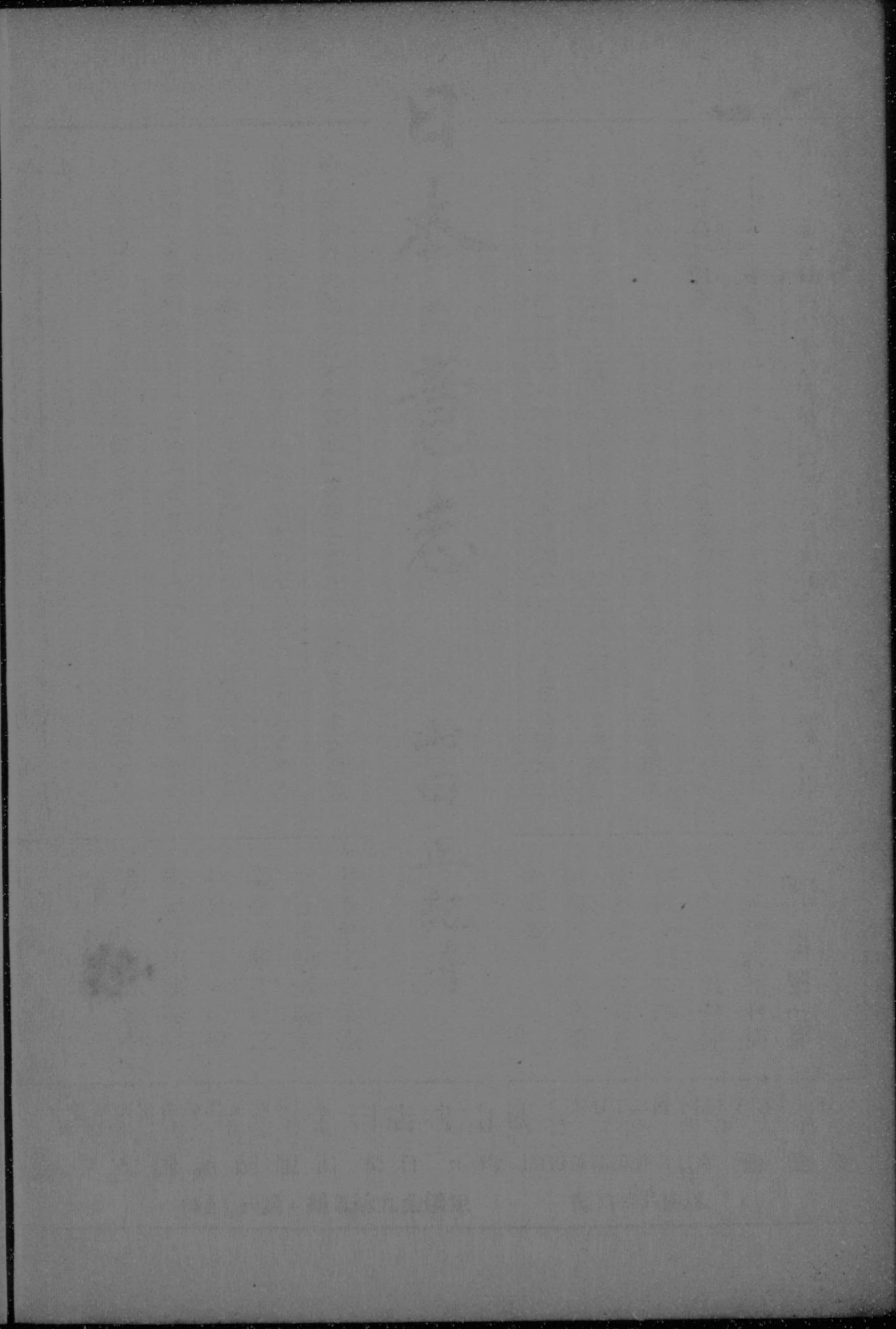
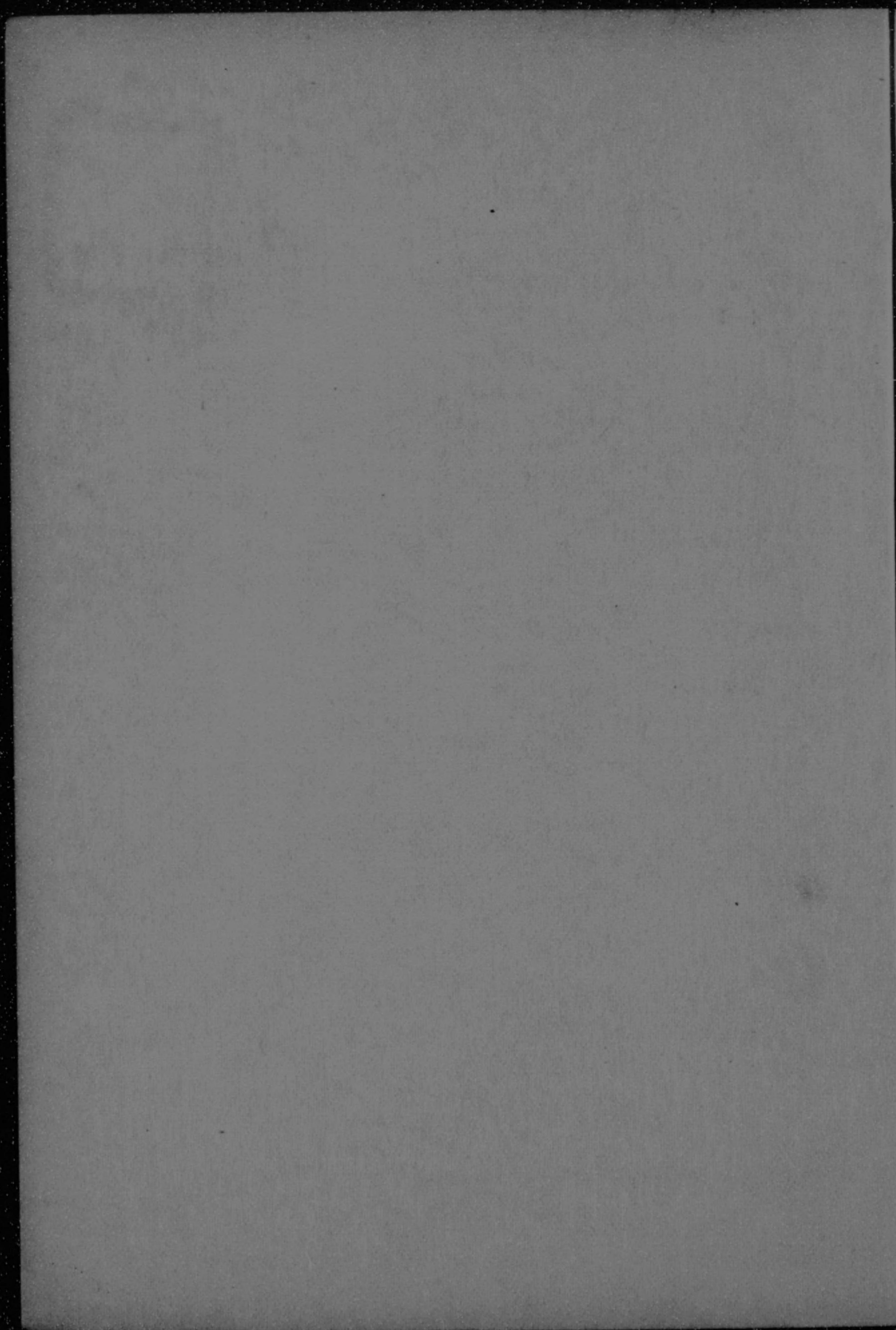
める莊嚴雄大な「日本の意志」を櫻と鐵との合成せるわが民族
 固有の人間性のふかきところより導きつゝ、そのとゞろくやう
 な胸にみつるおもひを血を分け心を同じうする一億の同胞と共
 に心ゆくまで相語りたいたいと著者のやみがたい心誓が、若々
 しい詩的精神に乗つてこの書と擬つたのである。切に清鑒を冀

40

文學博士 西晉一郎
 日本の真相を描
 くかかる良著作
 が段々出て來る
 世となつたこと
 は喜ばしい次第
 である。

どうか之を讀ん
 で日本的氣魄を
 養ひ、學生は之
 を見て日々の學
 業を正道順路に
 沿うて進めるや
 う切望する。

大坂市西區江戶堀下通二丁目四番 〇 横山書店刊
 大坂市東區市田區神田區保町三丁目一六番
 配給元 東京市神田區淡路二丁目九番 日本出版配給株式會社
 定價金九拾五錢 (送料十錢) 規格式列六型



919
87

